

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄								備考
計画の区分		学部の学科の設置								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン ワヨウガクエン 学校法人 和洋学園								
フリガナ大学の名称		ワヨウジョシダイガク 和洋女子大学								
大学本部の位置		千葉県市川市国府台二丁目3番1号								
大学の目的		本大学は教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の趣旨に基づき、広く知識を授けるとともに深く専門の学術技芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の発展と福祉の増進に寄与する有能な女性を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的		生活環境学科は、家政学を基盤とする衣生活・家庭生活・社会福祉に関する知識・技能を修得し、持続可能な社会と生活の理解を通して、生活環境を向上させ、質の高い生活の創造に貢献できる人材の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	家政学部 生活環境学科	年	人	年次人	人	学士（家政学）	家政学関係	年 月 第 年次	千葉県市川市国府台二丁目3番1号	
	計	4	110	-	440			令和8年4月 第1年次		
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		■収容定員の変更に関わる学則変更（届出省略） 人文学部 日本文学文化学科〔定員減〕（△10）（令和8年4月） 心理学科〔定員増〕（10）（令和8年4月） 国際学部 英語コミュニケーション学科〔定員減〕（△10）（令和8年4月） 国際学科〔定員減〕（△10）（令和8年4月） ■令和8年4月学生募集停止（学科） 家政学部 服飾造形学科（廃止）（△60） 家政福祉学科（廃止）（△110） ■令和7年4月届出予定（学部） AIライフデザイン学部 AIライフデザイン学科（80）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計					
	家政学部 生活環境学科	159科目		61科目		36科目		256科目		124単位

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設	AIライフデザイン学部 AIライフデザイン学科	人 8 (8)	人 2 (2)	人 0 (0)	人 3 (3)	人 13 (13)	人 — (一)	人 83 (48)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8 人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	12 (12)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	7 (7)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	12 (12)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a、b 又は c に該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)				
	計（a～d）	8 (8)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	13 (13)				
	設	家政学部 生活環境学科	人 4 (4)	人 9 (9)	人 0 (0)	人 5 (5)	人 18 (18)	人 11 (11)	人 81 (56)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6 人
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	9 (9)	0 (0)	5 (5)	18 (18)			
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
		小計（a～b）	4 (4)	9 (9)	0 (0)	5 (5)	18 (18)			
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a、b 又は c に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		4 (4)	9 (9)	0 (0)	5 (5)	18 (18)				
分		計	12 (12)	11 (11)	0 (0)	8 (8)	31 (31)	11 (11)	— (—)	

国際学部 国際学科		4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	92 (86)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
家政学部 健康栄養学科		7 (9)	1 (2)	0 (0)	5 (5)	13 (16)	13 (13)	79 (81)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (9)	1 (2)	0 (0)	5 (5)	13 (16)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (9)	1 (2)	0 (0)	5 (5)	13 (16)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (9)	1 (2)	0 (0)	5 (5)	13 (16)			
看護学部 看護学科		9 (10)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	29 (30)	7 (7)	76 (76)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 9 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (9)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	28 (29)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	8 (9)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	28 (29)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	計（a～d）	9 (10)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	29 (30)			
計		39 (43)	22 (25)	9 (9)	14 (14)	84 (91)	24 (24)	－ (－)	
合 計		50 (54)	33 (36)	9 (9)	22 (22)	114 (121)	35 (35)	－ (－)	

職 種			専 属		その他		計			
事 務 職 員			人		人		人			
			46 (51)		69 (64)		115 (115)			
技 術 職 員			2 (2)		3 (3)		5 (5)			
図 書 館 職 員			1 (1)		0 (0)		1 (1)			
そ の 他 の 職 員			0 (0)		24 (24)		24 (24)			
指 導 補 助 者			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計			49 (54)		96 (91)		145 (145)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	和洋国府台女子 中学・高等学校 (必要面積 13,200㎡)と共 用。(収容定 員：中学360人、 高等学校720人)
	校 舎 敷 地		9,938 ㎡		34,404 ㎡		4,711 ㎡		49,053 ㎡	
	そ の 他		80,548 ㎡		11,509 ㎡		5,170 ㎡		97,227 ㎡	
	合 計		90,486 ㎡		45,913 ㎡		9,881 ㎡		146,280 ㎡	
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	和洋国府台女子 中学・高等学校 (必要面積6,840 ㎡)と共用。 (収容定員：中 学360人、高等学 校720人)
			50,544 ㎡		2,757 ㎡		1,564 ㎡		54,865 ㎡	
			(50,544 ㎡)		(2,757 ㎡)		(1,564 ㎡)		(54,865 ㎡)	
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		114室		教 員 研 究 室		18室	大学全体

図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分を含む図書 279,433冊 〔43,618冊〕 学術雑誌 1,597種 〔379種〕		
	家政学部生活環境学科		18,876〔1,506〕 (18,876〔1,506〕)	20〔0〕 (20〔0〕)	229〔68〕 (229〔68〕)		1〔1〕 (1〔1〕)	0 (0)	0 (0)			
	計		18,856〔1,506〕 (18,856〔1,506〕)	20〔0〕 (20〔0〕)	229〔68〕 (229〔68〕)		1〔1〕 (1〔1〕)	0 (0)	0 (0)			
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂			厚生補導施設		大学全体		
			6,005㎡		4,053㎡			0㎡				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	・共同研究費等は大学全体の数値 ・図書購入費には雑誌、電子ジャーナル、データベース経費を含む		
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	一千円	一千円			
		共同研究費等		16,187千円	16,187千円	16,187千円	16,187千円	一千円	一千円			
		図 書 購 入 費	71,620千円	51,730千円	51,730千円	51,730千円	51,730千円	一千円	一千円			
		設 備 購 入 費	40,000千円	40,000千円	30,000千円	20,000千円	20,000千円	一千円	一千円			
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
			1,418千円	1,141千円	1,141千円	1,141千円	一千円	一千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入他								
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		和洋女子大学									
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地		
	和洋女子大学		年	人	年次人	人		倍		千葉県市川市国府台二丁目3番1号		
	人文学部							0.97		※看護学部のみ 千葉県市川市国府台2丁目1番18号さとみ館		
	日本文学文化学科		4	110	—	440	学士（文学）	0.97	平成20年度			
	心理学科		4	60	—	240	学士（文学）	1.17	平成26年度			
	こども発達学科		4	70	—	280	学士（教育学）	0.80	平成26年度			
	国際学部							0.58				
	英語コミュニケーション学科		4	60	—	240	学士（英語コミュニケーション）	0.53	令和2年度			
	国際学科		4	60	—	240	学士（国際）	0.63	令和2年度			
	家政学部							0.79				
	服飾造形学科		4	60	—	240	学士（家政）	0.66	平成20年度			
	健康栄養学科		4	120	—	480	学士（家政）	1.09	平成20年度			
	家政福祉学科		4	110	—	440	学士（家政）	0.54	平成20年度			
	看護学部看護学科		4	100	—	400	学士（看護）	1.01	平成30年度			
	和洋女子大学大学院											
	人文科学研究科							0.30				
	英語文学専攻（修士課程）		2	5	—	10	修士（文学）	0.40	平成21年度			
	日本語文学専攻（修士課程）		2	5	—	10	修士（文学）	0.20	平成21年度			
	総合生活研究科							0.68				
	総合生活専攻											
	（博士前期課程）		3	8	—	16	修士（家政学）	0.56	平成21年度			
	（博士後期課程）		2	3	—	9	博士（学術）又は（家政学）	0.89	平成21年度			
	看護学研究科											
	看護学専攻（修士課程）		2	6	—	12	修士（看護学）	0.75	令和6年度			
	附属施設の概要			該当なし								

（注）

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については，専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 空欄には，「―」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(家政学部 生活環境学科)																			
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員 (助手を除く)			
共通総合科目	人文科学系	哲学への誘い	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア	
		日本の文学	1・2・3・4前・後			2		○									2	メディア	
		外国の文学	1・2・3・4後			2		○									1		
		ジェンダーと文学	1・2・3・4前			2		○									1		
		表現と創作	1・2・3・4後			2		○									1		
		こころの文化	1・2・3・4前・後			2		○									2	メディア	
		歴史学	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア	
		日本の美術	1・2・3・4前			2		○									1		
		西洋の美術	1・2・3・4後			2		○									1	メディア	
		音楽の歴史	1・2・3・4後			2		○									1		
		音楽の楽しみ	1・2・3・4前			2		○									1	メディア	
		手書き文字の世界	1・2・3・4前・後			2					○						2		
		漢字・かな文字の変遷	1・2・3・4前・後			2					○						1		
		小計(13科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0			14		
	社会科学系	キャリアデザイン	1前・後			2				○							1		
		日本国憲法	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア	
		憲法と人権	1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
		国際関係入門	1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
		経済の仕組み	1・2・3・4前			2			○								1	メディア	
		社会の仕組み	1・2・3・4前・後			2			○								2		
		20世紀の日本	1・2・3・4前・後			2			○								1		
		家族と社会	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア	
		家族と福祉	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア	
		小計(9科目)	—	—	0	18	0	—	—	—	0	1	0	0			7		
	生活科学系	ベーシックラーニング	1・2・3・4前・後			2				○			1					2	メディア
		服装の科学	1・2・3・4前			2			○					1					メディア
		ファッションの文化	1・2・3・4後			2			○										メディア
		色彩の科学	1・2・3・4前			2			○									1	メディア
		健康と食生活	1・2・3・4前			2			○									1	メディア
		住まいとデザイン	1・2・3・4後			2			○							1		メディア	
		社会福祉の展望	1・2・3・4後			2			○									メディア	
		こどもと育児	1・2・3・4前・後			2			○								1		
		生活にいかす化学	1・2・3・4前・後			2			○								1		
		数理と発想	1・2・3・4後			2			○										
		看護の知識	1・2・3・4前			2			○								3	オムニバス・メディア	
		パソコンの基礎と応用	1・2・3・4前・後			2			○								1		
		AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4前・後			2			○								2		
		小計(13科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	2	1	0	3			11		
	人間科学系	心理学	1・2・3・4前			2			○								2	メディア	
		家族とジェンダー	1・2・3・4前・後			2			○				1					メディア	
		人間の発達	1・2・3・4前・後			2			○								2	メディア	
		生命の科学	1・2・3・4後			2			○								1		
		現代の教育	1・2・3・4前・後			2			○								1		
		文化遺産に学ぶ	1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
		生命と医療の倫理	1・2・3・4後			2			○								1		
		女性と美容	1・2・3・4前・後			2			○								2	オムニバス・メディア	
		健康の科学	1・2・3・4前・後			2			○					1			2	メディア	
		スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1								1			2	標準外(一部)	
		フィットネス実習	1・2・3・4前・後			1								1			1		
		小計(11科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	0	2	0	0			13		
	海外研修科目	海外語学研修	1・2・3・4前・後			2				○								1	標準外
		海外文化研修	1・2・3・4通			2				○								1	標準外
		小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0			2		
	外国語科目	コミュニケーション英語	1・2・3・4前・後			2											3		
		英語リーディング	1・2・3・4前・後			2				○							1		
		トラベル英語	1・2・3・4前・後			2				○							2		
		映画・ドラマで学ぶ英語	1・2・3・4前・後			2				○							2		
		基礎から学ぶ英語	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア	
	小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0			8			
共通政学部	家政学概論	1前・後			2			○			2	3			4		2	オムニバス・メディア	
	生活文化史A	1前				2		○				1							
	生活文化史B	1後				2		○					1						
	地域防災演習	1後				2				○					1				
小計(4科目)	—	—	2	6	0	—	—	—	2	4	0	4			2				
基盤科目	生活環境セミナー	1前			1						4	9			5	1	共同・標準外		
	基礎ゼミ	1前			2				○		1	1			3		分担(一部)		
	服飾造形概論	1前	○			2		○			2	4			2		オムニバス		
	衣生活文化論	1前	○			2		○											
	調理学	1前	○			2		○											
	住居学	1後	○			2		○						1					
	社会福祉概論Ⅰ	1前	○			2		○			1								
	小計(7科目)	—	—	3	10	0	—	—	—	4	9	0	5			1			
服飾造形コース	ファッションⅠ	1前			2				○			1				1	分担		
	アパレル企画論	3前	○		2														
	小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	0	2	0	0			1			
	和服造形学実習Ⅰ	1前	○		1						2								
	和服造形学実習Ⅱ	1後			1						1								
	被服造形学実習Ⅰ	1後	○		1									1					
	被服造形学実習Ⅱ	2前	○		1														
	アパレル設計論	1後	○		2		○							1					
	アパレル設計実習	1前	○		1										1				
	ニット基礎	1前			1												1		
	ニードルワーク基礎	2前			1														
	被服衛生学	2前	○		2		○			1									
	小計(9科目)	—	—	0	11	0	—	—	—	2	2	0	1			1			
整理加工・材料・消費流通・専門基礎科目	繊維学	1前	○			2		○			1								
	アパレル材料学	1後	○			2		○						1					
	染色加工学	2後	○			2		○							1				
	アパレル整理学	3前	○			2		○							1				
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	1	0	0	1			0			
消費流通・	消費衣生活論	1前				2		○								1			
	消費科学	2前				2		○								1			
	ファッションビジネス論	1後	○			2		○				1							
	ファッションマーケティング論	3前				2		○											
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	0	1	0	0			1			

専門教育科目	家政福祉コース	生活科学系	食品学	1後			2		○								1	
			栄養学	2後	○		2		○									
	専門基礎科目	社会福祉系	基礎調理学実習Ⅰ	1前			1				○						1	
			フードスペシャリスト論	2後			2		○								1	
			被服学	1後	○		2		○									
			被服構成学	2前			2		○									
			被服構成学実習	2後			1				○							
			生活経営学	2前	○		2		○								1	
			消費生活論	2後			2		○									
			家族関係学	3前	○		2		○									
			ユニバーサルデザイン論	2前			2		○								1	
			保育学	1前	○		2		○								1	
			こどものあそびと環境	2前			2			○							1	
			社会福祉概論Ⅱ	1後			2		○									
			高齢者福祉論	2後	○		2		○									
			障害者福祉論	2前	○		2		○									
			児童福祉論	1後	○		2		○									
			貧困に対する支援	3前			2		○									
			社会保障論Ⅰ	3前	○		2		○				1					
			社会保障論Ⅱ	3後			2		○				1					
			医学一般	2前			2		○								1	
			心理学と心理的支援	3後			2		○								1	
			社会保障施策の変遷と展望	2前			2		○							1		
			ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ	1前			2		○							1		
			ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ	1後			2		○				1					
			小計(25科目)	—	—	0	48	0	—				1	5	0	2	5	
専門教育科目	服飾造形コース	企画科目	3Dファッションデザイン基礎	3後	○		2			○			1			1		
			3Dファッションデザイン応用	4前			2			○								
			ファッション画Ⅱ	1後			2			○						1		
			アパレルデザイン	2前	○		2		○							1		
			アパレル企画実習	2前			2									1		
			ビジュアルマーチャンダイジング演習	3後			1				○					1		
			ファッション色彩学	2後			2									1		
			服飾造形総合演習	3前	○		2			○						1		
			舞台衣装演習	3前	○		2			○								
			小計(9科目)	—	—	0	17	0	—				0	2	0	1	1	
	専門応用科目	設計・生産科目	和服造形学実習ⅢA	3前			1				○		1			1		
			和服造形学実習ⅢB	3後			1				○		1			1		
			和服造形学実習Ⅳ	4前			1				○		1			1		
			被服造形学実習Ⅲ	2後			1				○							
			被服造形学実習ⅣA	3前			1				○					1		
			被服造形学実習ⅣB	3後			1				○					1		
			アパレルCAD実習Ⅰ	2後			1				○		1					
			アパレルCAD実習Ⅱ	3前			1				○		1					
			立体裁断Ⅰ	2後	○		2			○					1			
			立体裁断Ⅱ	3前			2			○					1			
			パターンメーキング	2前			1				○					1		
			ニードルワーク応用	2後			1				○						1	
			テキスタイルデザイン演習	2後			2				○							
			被服衛生学実験	2後			1				○		1					
			機能アパレル論	2後			2		○				1					
			テキスタイル環境学演習	4前			2				○		1					
			ファッションメディア演習	3後			2				○		1	3		1		
			小計(17科目)	—	—	0	23	0	—				2	3	0	1	2	
	服飾造形コース	材料・理工・加工・整	繊維学実験	1後			1				○		1			1		
			アパレル材料科学実験	2前			1				○		1					
			染色加工学実験	3前			1				○					1		
			染織クリエーション	2前			1				○					1		
			アパレル整理学実験	3後			1				○					1		
			テキスタイルアドバイザー実習	3後			1				○		1			1		
			テキスタイル加工演習	4前			2				○					1		
			小計(7科目)	—	—	0	8	0	—				1	1	0	1	0	
			消費目費通科・小計(2科目)	3後			2		○							1		
			ファッションジャーナリズム論	2前			2				○					1		
	家政福祉コース	生活科学系	海外服飾学研修	1後	○		2				○		0	1	0	0		
			小計(1科目)	—	—	0	2	0	—				0	1	0	1	0	
			食品材料と食資源	2前			2		○								1	
			食品流通と経済	2後			2		○								1	
			食品安全マネジメント	3前			2		○								1	
			基礎調理学実習Ⅱ	2前			1				○					1		
			食品学実験	3前			1				○						1	
			食品官能評価演習	3前			2				○					1		
			フードデザイン演習	3前			2				○						1	
			生活と日本茶	2前			2		○								1	
専門教育科目	家政福祉コース	社会福祉系	社会変動と家族	2後			2		○							1		
			福祉住環境論	2前			2		○						1			
			住空間デザイン	1後			2		○						1			
			居住環境演習	2後			2		○						1			
			ユニバーサルデザイン演習	3前			2		○						2			
			児童文化	2前			2		○						1			
			多文化共生	1後			2		○						1			
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1前			2		○						1			
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	1後			2		○						1			
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2前			2		○								1	
	専門応用科目	社会福祉系	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2後			2		○									
			地域福祉の理論と方法Ⅰ	3前			2		○						1			
			地域福祉の理論と方法Ⅱ	3後			2		○						1			
			権利擁護と成年後見	3前			2		○									
			刑事司法と福祉	4前			2		○				1					
			保健医療と福祉	4前			2		○				1					
			福祉サービスの組織と経営	2前			2		○									
			社会調査の基礎	3後			2		○									
			ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前			1				○				1			
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後			1				○				1			
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	2後			1				○				1			
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	3前			1				○				1			
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	3後			1				○				1			
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後			1				○				1			
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前			1				○				1			
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後			1				○				1			
			ソーシャルワーク実習Ⅰ	3通			2				○				1			
			ソーシャルワーク実習Ⅱ	3通			4				○				1			
			こどもの発達	2前			2		○							1		
			社会的養護論	2後			2		○									
			社会福祉と食支援	2後			2				○					1		
			アダプテッドスポーツ論	3前			2				○				1			
			小計(40科目)	—	—	0	72	0	—				1	6	0	3	4	

学 科 総 合 科 目	生活環境演習Ⅰ	2前			2			○		1	1	2			共同 共同 オムニバス オムニバス 共同
	生活環境演習Ⅱ	2後			2			○		1	1	2			
	きもの着装演習	2前			2			○							
	睡眠改善学	2前			2			○							
	デジタルデザイン演習	2後			2			○			1				
服 飾 造 形 コ ー ス 卒 業 論 文 等	アントレプレナーシップ論	2後			2			○			2				標準外
	アントレプレナーシップ演習	3前			2			○			2				
	インクルーシブアートⅠ	3前			2			○			1				
	インクルーシブアートⅡ	3後			2			○			1				
	小計(9科目)	—	—	0	18	0		—		2	5	0	3	0	
家 政 福 祉 コ ー ス 卒 業 論 文 等	服飾造形ゼミナール	3後	○		2			○		2	3	2			標準外
	卒業制作・卒業論文	4通	○		4			○		2	3	2			
	小計(2科目)	—	—	0	6	0		—		2	3	0	2	0	
	家政福祉ゼミナール	3後	○		2			○		2	6	3		1	
	卒業制作・卒業研究	4通	○		4			○		2	6	3		1	
教 職 関 連 科 目	小計(2科目)	—	—	0	6	0		—		2	6	0	3	1	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	家庭科教育演習	3前			2			○		2	2	1			
	家庭科教育論Ⅰ	2前			2			○			1			1	
	家庭科教育論Ⅱ	2後			2			○			1			1	
	家庭科教育法Ⅰ	3前			2			○			1			1	
教 職 関 連 科 目	家庭科教育法Ⅱ	3後			2			○			1			1	
	小計(5科目)	—	—	0	0	10		—		0	2	0	1	1	
教 職 に 関 連 す る 科 目	教育原理(教職)	1後			2			○							標準外 標準外 標準外 標準外
	教職入門	1前			2			○							
	教育行政学	2前・後			2			○							
	教育心理学	1後			2			○							
	特別支援教育論	2前・後			2			○							
	教育課程論	2前・後			2			○							
	道徳教育の指導法	2前・後			2			○							
	総合的な学習の時間の指導法	3前・後			2			○							
	特別活動の指導法	3前・後			2			○							
	教育の方法と技術	2前・後			1			○							
	教育におけるICT活用	2前・後			1			○							
	生徒・進路指導論	2前・後			2			○							
	教育相談	3前・後			2			○							
	教育実習事前事後指導	4前			1			○							
	教育実習	4通			4			○							
	教職実践演習(中・高)	4後			2			○							
	介護等体験	3通			2			○							
	教職セミナー	2通			2			○							
	小計(18科目)	—	—	0	0	35		—		0	0	0	0	8	
司 書 教 育 に 関 連 す る 科 目	学校経営と学校図書館	2前			2			○							共同
	学校図書館メディアの構成	2前			2			○							
	学習指導と学校図書館	2後			2			○							
	読書と豊かな人間性	2後			2			○							
	情報メディアの活用	2後			2			○							
学 校 司 書 に 関 連 す る 科 目	小計(5科目)	—	—	0	0	10		—		0	0	0	0	2	
	図書館情報技術論	2前			2			○							共同
	図書館情報資源概論	1後			2			○							
	情報資源組織論	2後			2			○							
	情報資源組織演習A	3前			1			○							
	情報資源組織演習B	3後			1			○							
	学校図書館サービス論	2前			2			○							
	情報サービス論	2後			2			○							
	情報サービス演習A	3前			1			○							
	情報サービス演習B	3後			1			○							
	学校教育概論	2前			2			○							
司 書 に 関 連 す る 科 目	小計(10科目)	—	—	0	0	16		—		0	0	0	0	5	
	生涯学習概論	1前・後			2			○							オムニバス・共同
	図書館概論	1前			2			○							
	図書館制度・経営論	2前			2			○							
	図書館サービス概論	1後			2			○							
	児童サービス論	2前			2			○							
	図書館総合演習	3後			1			○							
	小計(6科目)	—	—	0	0	11		—		0	0	0	0	3	
	博物館概論	1前			2			○							
	博物館経営論	2後			2			○							
博 物 館 学 芸 員 に 関 連 す る 科 目	博物館情報・メディア論	2後			2			○							
	博物館資料論	2前			2			○							
	博物館展示論	2前			2			○							
	博物館教育論	2後			2			○							
	博物館資料保存論	2前			2			○							
	博物館実習Ⅰ	4後			1			○							
	博物館実習Ⅱ(館務実習)	4前			2			○							
	美術史Ⅰ	1前			2			○							
	美術史Ⅱ	1後			2			○							
	古代学Ⅰ	1前			2			○							
	古代学Ⅱ	1後			2			○							
	民俗学Ⅰ	3前			2			○							
	民俗学Ⅱ	3後			2			○							
	小計(15科目)	—	—	0	0	29		—		0	0	0	0	7	
合計(256科目)		—	—	5	355	111		—		4	9	0	5	81	
学位又は称号		学士(家政学)			学位又は学科の分野					家政関係					

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件には124単位以上の修得が必要である。全学に共通に開設される共通総合科目は20単位以上(外国語科目1科目2単位選択必修含)、学科において開設される専門教育科目は88単位以上で充たすこととする。学部には2つの学科が置かれるが、学生は在籍する学科の専門教育科目の履修を進め、当該学科およびコースの履修規程に従って卒業に必要とされる単位の修得を進める。 服飾造形コースの専門教育科目は、以下のとおり修得すること。 ・「家政学部共通科目」において、「家政学概論」2単位必修を含む4単位以上 ・「基盤科目」において、「生活環境セミナー」1単位必修、「基礎ゼミ」2単位必修、「服飾造形概論」2単位必修、「衣生活文化論」2単位必修を含む7単位以上 ・「服飾造形コース専門基礎科目」において、「企画科目」のうち「アパレル企画論」2単位必修を含む2単位以上、「設計・生産科目」のうち「和服造形学実習Ⅰ」「被服造形学実習Ⅰ」「被服造形学実習Ⅱ」の3科目中1科目1単位選択必修を含む6単位以上、「材料・加工・整理科目」のうち「繊維学」「アパレル材料学」の2科目中1科目2単位選択必修を含む2単位以上、「流通・消費科目」のうち「ファッションビジネス論」2単位必修を含む4単位以上を選択して、計22単位以上 ・「服飾造形コース専門応用科目」において、「企画科目」のうち「アパレルデザイン」2単位必修を含む10単位以上、「設計・生産科目」のうち「ファッションメディア演習」2単位必修を含む8単位以上、「材料・加工・整理科目」のうち4単位以上、「流通・消費科目」のうち2単位以上を選択して、計30単位以上 ・「学科総合科目」から選択して計6単位以上 ・「服飾造形コース卒業論文等」において、「服飾造形ゼミナール」2単位必修、「卒業制作・卒業論文」4単位必修を含む6単位 服飾造形コースの学生は、家政福祉コースで開講されている「食品学」「栄養学」「基礎調理学実習Ⅰ」「被服学」「被服構成学実習」「生活経営学」「消費生活論」「家族関係学」「ユニバーサルデザイン論」「保育学」「こどものあそびと環境」「社会福祉概論Ⅱ」「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「児童福祉論」「貧困に対する支援」「社会保障施策の変遷と展望」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」「地域福祉の理論と方法Ⅰ」「地域福祉の理論と方法Ⅱ」「社会調査の基礎」を履修することができる。 服飾造形コースは学習分野が幅広く、異なる領域の学問が並列に繋がっているため、分野ごとに主要授業科目を設定している。学生は学習希望分野の主要授業科目を軸に単位の修得を進め、学位授与方針の達成を目指す。 家政福祉コースの専門教育科目は、以下のとおり修得すること。 ・「家政学部共通科目」において、「家政学概論」2単位必修を含む4単位以上 ・「基盤科目」において「生活環境セミナー」1単位必修、「基礎ゼミ」2単位必修、「住居学」2単位必修、「社会福祉概論Ⅰ」2単位必修を含む7単位以上 ・「家政福祉コース専門基礎科目」において「栄養学」2単位必修、「被服学」2単位必修、「生活経営学」2単位必修、「家族関係学」2単位必修、「保育学」2単位必修、「高齢者福祉論」2単位必修、「障害者福祉論」2単位必修、「児童福祉論」2単位必修、「社会保障論Ⅰ」2単位必修を含む20単位以上 ・「家政福祉コース専門応用科目」から20単位以上 ・「学科総合科目」から6単位以上 ・「家政福祉コース卒業論文等」において「家政福祉ゼミナール」2単位必修、「卒業制作・卒業研究」4単位必修を含む6単位 家政福祉コースの学生は、服飾造形コースで開講されている「和服造形学実習Ⅰ」「被服造形学実習Ⅰ」「ニット基礎」「繊維学」「染色加工学」「消費衣生活論」「ファッションビジネス論」「ファッション色彩学」「服飾造形総合演習」「海外服飾学研修」を履修することができる。 年間の履修単位数の登録の上限は、46単位とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(家政学部 服飾造形学科)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
和洋アビリティーズ科目		キャリアデザイン基礎ゼミ	1前後 1前		2	2			○	○		1	1		1	2	標準外・共同 標準外	
		パソコンの基礎と応用	1・2・3・4前・後			2			○							2		
		ベーシックラーニング	1・2・3・4前・後			2				○						7		
		社会貢献とボランティア	1・2・3・4通			2				○						2		
		インターンシップ	3通			2				○		1				2		
		AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4前・後			2			○									
		小計(7科目)	—		2	12	0	—	—	—	1	1		1		9		
基礎教養科目	人文科学系	哲学への誘い	1・2・3・4前・後			2			○							1	メディア	
		日本の文学	1・2・3・4前・後			2			○							3	メディア	
		外国の文学	1・2・3・4後			2			○							1		
		ジェンダーと文学	1・2・3・4前			2			○							1		
		表現と創作	1・2・3・4前・後			2			○							1	メディア	
		こんにちの文化	1・2・3・4前・後			2			○							2	メディア	
		歴史学	1・2・3・4前・後			2			○							1	メディア	
		日本の美術	1・2・3・4前			2			○							1		
		西洋の美術	1・2・3・4後			2			○							1	メディア	
		音楽の歴史	1・2・3・4後			2			○							1	メディア	
		音楽の楽しみ	1・2・3・4前			2			○							1	メディア	
		手書き文字の世界	1・2・3・4前・後			2				○						2		
		漢字・かな文字の変遷	1・2・3・4前・後			2				○						1		
		小計(13科目)	—		0	26	0	—	—	—	0	0	0	0		14		
	社会科学系	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア
		憲法と人権	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア
		国際関係入門	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア
		経済の仕組み	1・2・3・4前・後			2			○								2	メディア
		社会の仕組み	1・2・3・4前・後			2			○								2	メディア
		20世紀の日本	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア
家族と社会		1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
家族と福祉		1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア	
		小計(8科目)	—		0	16	0	—	—	—	0	0	0	0		8		
生活科学系		服装の科学	1・2・3・4前・後			2			○			1						メディア
	ファッションの文化	1・2・3・4前・後			2			○				1					メディア	
	色彩の科学	1・2・3・4前			2			○			1						メディア	
	健康と食生活	1・2・3・4前・後			2			○								2	メディア	
	住まいとデザイン	1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
	社会福祉の展望	1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
	加齢と高齢者の科学	1・2・3・4前			2			○								1		
	こどもと育児	1・2・3・4後			2			○								2	メディア	
	生活にいかす化学	1・2・3・4前・後			2			○			1							
	数理と発想	1・2・3・4後			2			○			1							
	看護の知識	1・2・3・4前・後			2			○					1			3	オムニバス・メディア	
	ゼロカーボンと持続可能な社会	1・2・3・4前			2			○			1	1				1	オムニバス	
	小計(12科目)	—		0	24	0	—	—	—	2	2	0	1		10			
人間科学系	心理の科学	1・2・3・4前			2			○								2	メディア	
	家族とジェンダー	1・2・3・4前・後			2			○								2	メディア	
	人間の発達	1・2・3・4前・後			2			○								2	メディア	
	生命の科学	1・2・3・4前・後			2			○								1		
	現代の教育	1・2・3・4前・後			2			○								1		
	文化遺産に学ぶ	1・2・3・4前・後			2			○								2	メディア	
	生命と医療の倫理	1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
	女性と美容	1・2・3・4前・後			2			○								2	オムニバス・メディア	
	健康の科学	1・2・3・4前・後			2			○								3		
	スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1					○						3	共同	
	フィットネス実習	1・2・3・4前・後			1					○								
	小計(11科目)	—		0	20	0	—	—	—	0	0	0	0		17			
科研海外修	海外語学研修	1・2・3・4前・後			2				○							1	標準外	
	海外文化研修	1・2・3・4通			2											1	標準外	
	小計(2科目)	—		0	4	0	—	—	—	0	0	0	0		2			
外国語科目	英語a-Ⅰ	1前		1					○							10		
	英語a-Ⅱ	1後		1					○							10		
	英語b-Ⅰ	1前		1					○							7		
	英語b-Ⅱ	1後		1					○							7		
	日本語a-Ⅰ	1・2・3・4前			1				○							1		
	日本語a-Ⅱ	1・2・3・4後			1				○							1		
	日本語b-Ⅰ	1・2・3・4前			1				○							1		
	日本語b-Ⅱ	1・2・3・4後			1				○							1		
	小計(8科目)	—		4	4	0	—	—	—	0	0	0	0		18			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考			
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 (助手を除く)				
専 門 教 育 科 目	共 家 通 政 学 部	家政学概論	1前後		2				○	○				4		1		8	オムニバス・メディア	
		生活文化史A	1前			2				○	○				1			1	オムニバス・メディア	
		生活文化史B	1後			2				○	○							1	メディア	
		地域生活創造演習	1前後			2					○			1		1		2	共同	
		小計(4科目)	—			2	6	0		—			0	4	0	1		10		
	専 門 基 礎 科 目	服飾造形セミナー	1前			1					○				2					標準外
		服飾造形概論	1前	○		2				○				1					1	
		服飾造形基礎演習	1前			2					○			1						
		プレゼンテーション演習	2前			2					○			1						
		小計(4科目)	—			7	0	0		—			2	3	0	0			1	
	文 化 科 目	日本服装史	1前		○	2				○	○								1	
		西洋服装史	1後		○	2				○	○								1	
		染織史	2後				2			○	○								1	
		きもの着装演習	3前				2				○				1					
		小計(4科目)	—			4	4	0		—			0	1	0	0			1	
企 画 科 目	ファッション画	1前			2					○				1				1		
	ファッション統計学	2後				2				○										
	アパレルデザイン論	2前		○	2					○				1		1				
	アパレルデザイン表現実習	2後					1					○						1		
	アパレルグラフィック実習	3後		○			1					1								
	アパレル企画論	2後		○	2					○					1					
	アパレル企画実習	3前					1					○			1					
	ファッションコーディネート概論	2後					2			○					1					
	ファッションコーディネート演習	3後					2				○				1					
	マーケティング	3前			2					○					1					
	色彩学	3前		○			2				○			1						
	服飾造形総合演習A	3前		○			2				○			1			1			
	服飾造形総合演習B	3後					2				○			1						
	ファッションビジネス英会話	4前					2				○				1					
	衣装ディスプレイ	4後		○			2				○				1					
小計(15科目)	—			8	19	0		—			2	3	0	1			1			
専 門 教 育 科 目	設 計 ・ 生 産 科 目	現代きもの設計	2前			2					○				1					
		平面構成学実習I	1前		○	1						○				1			2	
		平面構成学実習Ⅱ	3前				1						○				1			
		平面構成学実習Ⅲ	3後				1						○				1			
		平面構成学実習Ⅳ	4前				1						○				1			
		立体構成学実習I	1後		○	1							○			1				
		立体構成学実習Ⅱ	2前				1						○			1				
		アパレル設計論	1後		○		2			○				1		1				
		アパレル設計実習	1前		○		1						○		1					
		アパレルCAD実習I	2前				1						○					1		
		アパレルCAD実習Ⅱ	2後				1						○					1		
		アパレル生産実習I	2後		○		1						○					1		
		アパレル生産実習Ⅱ	3前				1						○					1		
		立体裁断I	2後		○		2					○			1					
		立体裁断Ⅱ	3前				2					○			1					
		ニードルワークA	3前				1					○							1	
		ニードルワークB	3後				1					○							1	
		テキスタイルデザイン演習A	4前				2					○							1	
		テキスタイルデザイン演習B	4後				2					○							1	
		被服衛生学	3前		○	2				○				1						
		被服衛生学実験	3後				1					○		1						
		機能アパレル論	3後			2				○				1						
		機能アパレル演習	4前				2					○			1					
小計(23科目)	—			6	26	0		—			1	3	0	1			4			
材 料 ・ 加 工 ・ 整 理 科 目		被服繊維学	1前		○		2		○			○		1						
		繊維学実験	1後				1					○								
		被服材料学	1後		○	2				○							1			
		被服材料学実験	2前				1							1						
		染色加工学	2後		○	2				○							1			
		染色加工学実験	3前				1										1			
		被服整理学	3前			2				○							1			
		被服整理学実験	3後				1										1			
		テキスタイルアドバイザー実習	3後				1							1			1			
		ケーススタディ	4前				2										1			
小計(10科目)	—			6	9	0		—			1	1	0	1			0			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 (助手を除く)		
流通・消費科目		消費科学	1後	○	2			○								1		
		ファッションビジネスの世界	1後		2			○				1		1		1		
		消費生活論	2前			2		○								1		
		ファッション販売論	3前		2		○				1					1		
		消費者調査法	3後			2			○							1		
		小計(5科目)	—		6	4	0	—			0	2	0	1		3		
	教職関連科目	生活経営学	2前			2			○								1	
		家族関係学	3前			2											1	
		被服製作実習	2後			1					○		1	1				
		アートクラフト	3前			1					○							
		被服学	2前			2			○			1	2					
		栄養学	3後			2			○								1	
		食品学	4後			2			○				1					
		調理学	2前			2			○								1	
		基礎調理学実習I	3後			1					○						1	
		調理学演習	3前			1					○						1	
		食品材料と食資源	2前			2			○				1					
		住居学	2後			2			○								1	
		ユニバーサルデザイン論	4前			2			○								1	
保育学	3前			2			○								1			
家庭看護	3前			2			○								6	オムニバス		
家庭電気・機械と情報処理	3後			2			○			1								
	小計(16科目)	—		0	28	0	—			2	3	0	0		12			
卒業論文等	服飾造形ゼミナール	3後	○	2				○	○		1	5			2			
	卒業論文・卒業制作	4通	○	4							1	4			2		標準外	
	小計(2科目)	—		6	0	0	—			1	5	0	2		1			
に教職 する指 導科目	家庭科教育論Ⅰ	2前				2	○									1		
	家庭科教育論Ⅱ	2後				2	○									2		
	家庭科教育法Ⅰ	3前				2	○									2		
	家庭科教育法Ⅱ	3後				2	○									2		
	小計(4科目)	—		0	0	8	—			0	0	0	0		2			
教職に 関連する 科目	教育原理(教職)	1前後				2	○									2		
	教職入門	1前				2	○									1		
	教育行政学	2前後				2	○									2		
	教育心理学	1後				2	○									1		
	特別支援教育論	2前後				2	○									1		
	教育課程論	2前後				2	○									1		
	道徳教育の指導法	2前後				2	○									1		
	総合的な学習の時間の指導法	3前後				2	○									1		
	特別活動の指導法	3前後				2	○									2		
	教育の方法と技術	2前後				1	○									1		
	教育におけるICT活用	2前後				1	○									1		
	生徒・進路指導論	2前後				2	○									2		
	教育相談	3前後				2	○									2		
	教育実習事前事後指導	4前				1	○									3		
	教育実習	4通				4				○						3	標準外	
	教職実践演習(中・高)	4後				2				○						2		
	介護等体験	3通				2				○						3	標準外	
	教職セミナー	2通				2				○						4	標準外	
	家庭科教育演習	3前				2				○						3	オムニバス	
	小計(19科目)	—		0	0	37	—			0	0	0	0		18			
学校 図書館 に関する 科目	学校経営と学校図書館	2前				2	○									1		
	学校図書館メディアの構成	2前				2	○									1		
	学習指導と学校図書館	2後				2	○									1		
	読書と豊かな人間性	2後				2	○									1		
	情報メディアの活用	2後				2	○									1		
	小計(5科目)	—		0	0	10	—			0	0	0	0		2			
司書に 関連する 科目	生涯学習概論	2前後				2	○									1		
	図書館概論	1前				2	○									1		
	図書館制度・経営論	2前				2	○									1		
	図書館情報技術論	2前				2	○									1		
	図書館サービス概論	1後				2	○									1		
	児童サービス論	2後				2	○									1		
	情報サービス論	2後				2	○									1		
	情報サービス演習A	3前				1			○							1		
	情報サービス演習B	3後				1			○							1		
	図書館情報資源概論	1後				2	○									1		
	情報資源組織論	2後				2	○									1		
	情報資源組織演習A	3前				1			○							1		
	情報資源組織演習B	3後				1			○							1		
	図書館情報資源特論	2前				2	○									1		
	図書館総合演習	3後				1			○							1		
	図書館実習	3前				1				○						1	標準外	
		小計(16科目)	—		0	0	26	—			0	0	0	0		6		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態		基幹教員等の配置							備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以外 の 教 員		
博 物 館 学 芸 員 に 関 連 す る 科 目	博物館概論	2前				2	○								1		
	博物館経営論	2後				2	○								1		
	博物館情報・メディア論	2後				2	○								1		
	博物館資料論	3前				2	○								1		
	博物館展示論	3前				2	○								1		
	博物館教育論	3後				2	○								1		
	博物館資料保存論	4前				2	○								1		
	博物館実習Ⅰ	4後				1			○						1		
	博物館実習Ⅱ(館務実習)	4前				2			○						3		
	美術史Ⅰ	1前				2	○								1		
	美術史Ⅱ	1後				2	○								1		
	古代学Ⅰ	1前				2	○								1		
	古代学Ⅱ	1後				2	○								1		
	民俗学Ⅰ	3前				2	○								1		
	民俗学Ⅱ	3後				2	○								1		
小計(15科目)		—		0	0	29	—			0	0	0	0		7		
合計(203科目)		—	—	51	202	110	—			2	5	0	2		117		
学位又は称号			学士(家政学)		学位又は学科の分野					家政関係							
卒業要件及び履修方法				授業期間等													
卒業要件には124単位以上の修得が必要である。全学に共通に開設される共通総合科目は26単位以上(基礎ゼミ・外国語科目4科目4単位必修含)、学科において開設される専門教育科目は88単位以上で充たすこととする。学部には3つの学科が置かれるが、学生は在籍する学科の専門教育科目の履修を進め、当該学科の履修規程に従って卒業に必要なとされる単位の修得を進める。 専門教育科目は、以下のとおり修得すること。 ・「家政学部共通科目」において、「家政学概論」2単位必修を含む4単位以上 ・「専門基礎科目」において、「服飾造形セミナー」1単位必修、「服飾造形概論」2単位必修、「服飾造形基礎演習」2単位必修、「プレゼンテーション演習」2単位必修を含む7単位 ・「文化科目」において、「日本服装史」2単位必修、「西洋服装史」2単位必修を含む4単位以上 ・「企画科目」において、「ファッション画」2単位必修、「アパレルデザイン論」2単位必修、「アパレル企画論」2単位必修、「マーケティング」2単位必修を含む8単位以上 ・「設計・生産科目」において、「平面構成学実習Ⅰ」1単位必修、「立体構成学実習Ⅰ」1単位必修、「被服衛生学」2単位必修、「機能アパレル論」2単位必修を含む6単位以上 ・「材料・加工・整理科目」において、「被服材料学」2単位必修、「染色加工学」2単位必修、「被服整理学」2単位必修を含む6単位以上 ・「流通・消費科目」において、「消費科学」2単位必修、「ファッションビジネスの世界」2単位必修、「ファッション販売論」2単位必修を含む6単位以上 ・「卒業論文等」において、「服飾造形ゼミナール」2単位必修、「卒業論文・卒業制作」4単位必修を含む6単位年間の履修単位数の登録の上限は46単位とする。										1学年の学期区分		2学期					
										1学期の授業期間		15週					
										1時限の授業の標準時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(家政学部 家政福祉学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員			
和洋アビリティーズ科目	キャリアデザイン基礎ゼミ	1前後 1前		2	2			○	○						2	標準外・共同 標準外		
	パソコンの基礎と応用	1・2・3・4前・後			2			○							2			
	ベーシックラーニング	1・2・3・4前・後			2				○						3			
	社会貢献とボランティア	1・2・3・4通			2				○						7			
	インターンシップ	3通			2				○						2			
	AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4前・後			2			○							1			
	小計(7科目)	—		2	12	0		—		0	0	0	0		12			
基礎教養科目	人文科学系	哲学への誘い	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア	
		日本の文学	1・2・3・4前・後			2		○								3	メディア	
		外国の文学	1・2・3・4後			2		○								1		
		ジェンダーと文学	1・2・3・4前			2		○								1		
		表現と創作	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア	
		こんにちの文化	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア	
		歴史学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア	
		日本の美術	1・2・3・4前			2		○								1		
		西洋の美術	1・2・3・4後			2		○								1	メディア	
		音楽の歴史	1・2・3・4後			2		○								1	メディア	
		音楽の楽しみ	1・2・3・4前			2		○								1	メディア	
		手書き文字の世界	1・2・3・4前・後			2			○							2		
		漢字・かな文字の変遷	1・2・3・4前・後			2			○							1		
		小計(13科目)	—		0	26	0		—		0	0	0	0		14		
	社会科学系	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア
		憲法と人権	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア
		国際関係入門	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア
		経済の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○									2	メディア
		社会の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○									2	メディア
		20世紀の日本	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア
家族と社会		1・2・3・4後			2		○									1	メディア	
家族と福祉		1・2・3・4前・後			2		○				1						メディア	
		小計(8科目)	—		0	16	0		—		0	1	0	0		7		
生活科学系		服装の科学	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア
	ファッションの文化	1・2・3・4前・後			2		○									1	メディア	
	色彩の科学	1・2・3・4前			2		○									1	メディア	
	健康と食生活	1・2・3・4前・後			2		○									2	メディア	
	住まいとデザイン	1・2・3・4後			2		○						1				メディア	
	社会福祉の展望	1・2・3・4後			2		○				1						メディア	
	加齢と高齢者の科学	1・2・3・4前			2		○				1							
	こどもと育児	1・2・3・4後			2		○								2	メディア		
	生活にいかす化学	1・2・3・4前・後			2		○									1		
	数理と発想	1・2・3・4後			2		○									1		
	看護の知識	1・2・3・4前・後			2		○				1					4	オムニバス・メディア	
	ゼロカーボンと持続可能な社会	1・2・3・4前			2		○				1					2	オムニバス	
	小計(12科目)	—		0	24	0		—		1	0	0	1		12			
人間科学系	心理の科学	1・2・3・4前			2		○									2	メディア	
	家族とジェンダー	1・2・3・4前・後			2		○					1				1	メディア	
	人間の発達	1・2・3・4前・後			2		○									2	メディア	
	生命の科学	1・2・3・4前・後			2		○									1		
	現代の教育	1・2・3・4前・後			2		○									1		
	文化遺産に学ぶ	1・2・3・4前・後			2		○									2	メディア	
	生命と医療の倫理	1・2・3・4後			2		○									1	メディア	
	女性と美容	1・2・3・4前・後			2		○									2	オムニバス・メディア	
	健康の科学	1・2・3・4前・後			2		○					1				2		
	スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1				○			1				2	共同	
	フィットネス実習	1・2・3・4前・後			1				○			1				2		
	小計(11科目)	—		0	20	0		—		0	2	0	0		15			
科 研 海 目 修 外	海外語学研修	1・2・3・4前・後			2			○	○							1	標準外	
	海外文化研修	1・2・3・4通			2											1	標準外	
	小計(2科目)	—		0	4	0		—		0	0	0	0		2			
外国語科目	英語a-Ⅰ	1前		1				○								10		
	英語a-Ⅱ	1後		1				○								10		
	英語b-Ⅰ	1前		1				○								7		
	英語b-Ⅱ	1後		1				○								7		
	日本語a-Ⅰ	1・2・3・4前			1			○								1		
	日本語a-Ⅱ	1・2・3・4後			1			○								1		
	日本語b-Ⅰ	1・2・3・4前			1			○								1		
	日本語b-Ⅱ	1・2・3・4後			1			○								1		
	小計(8科目)	—		4	4	0		—		0	0	0	0		18			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 (助手を除く)
共通科目	家政学 科目	家政学概論	1前後		2			○			1	1		3		7	オムニバス・メディア
		生活文化史A	1前			2		○						1		1	オムニバス・メディア
		生活文化史B	1後			2		○						1		1	メディア
		地域生活創造演習	1前後			2			○				1		2		共同
		小計(4科目)	—		2	6	0	—		1	1	0	3		10		
専門基礎科目		家政福祉セミナー	1前		1				○		2	6		3			共同・標準外
		家政福祉実習	2通			1				○						1	
		家庭看護	3前			2			○							6	オムニバス
		環境の科学	2後			2			○			2					オムニバス
		生命科学と人間	2前			2			○							1	
		家庭電気・機械と情報処理	3後			2			○							1	
		小計(6科目)	—		1	9	0	—		2	6	0	3		9		
家政系科目	食生活科目	調理学	1前	○	2			○						1			
		食品学	1後			2			○							1	
		栄養学	2後			2			○					1			
		食品材料と食資源	2前			2			○							1	
		食品流通と経済	2後			2			○							1	
		食品衛生学	3前			2			○							1	
		基礎調理学実習I	1後			1								1			
		基礎調理学実習II	2前			1								1			
		食品学実験	3前			1										1	
		食品官能評価演習	3前			2				○				1			
		調理学演習	3前			1								1			
		フードスペシャリスト論	1前			2			○							1	
		フードデザイン演習	3前			2				○						1	
		生活と日本茶	2前			2			○							1	
	小計(14科目)	—		2	22	0	—		0	0	0	1		3			
	衣生活科目	衣生活論	1後	○	2			○					1				
		被服構成学	2前			2			○				1				
		基礎被服構成学実習	2前			1							1				
		被服構成学実習I	2後			1							1				
		被服構成学実習II	3前			1							1				
		ユニバーサルファッション	3後			2			○							1	
	小計(6科目)	—		2	7	0	—		0	1	0	0		1			
	家族生活科目	生活経営学	2前	○	2			○								1	
		消費生活論	2後			2			○				1				
		社会変動と家族	2後			2			○				1				
		家族関係学	3前			2			○				1				
	小計(4科目)	—		2	6	0	—		0	1	0	0		1			
住生活科目	住居学	2後	○	2			○						1				
	福祉住環境論	3前			2			○					1				
	ユニバーサルデザイン論	4前			2			○					1				
	ユニバーサルデザイン演習	4前			2				○				1				
	小計(4科目)	—		2	6	0	—		0	0	0	1		0			
社会福祉系科目	社会福祉 基礎科目	社会福祉概論I	1前	○	2			○				1					
		社会福祉概論II	1後			2			○				1				
		高齢者福祉論	2後			2			○				1				
		障害者福祉論	2前			2			○				1				
		児童福祉論	1後			2			○				1				
		貧困に対する支援	3前			2			○				1				
		社会保険論I	3前			2			○		1						
		社会保険論II	3後			2			○		1						
		医学一般	2前			2			○						1		
		心理学と心理的支援	3前			2			○						1		
	小計(10科目)	—		2	18	0	—		1	3	0	0		2			
	社会福祉 専門科目	ソーシャルワークの基盤と専門職I	1前			2			○			1					
		ソーシャルワークの基盤と専門職II	1後			2			○			1					
		ソーシャルワークの理論と方法I	1前			2			○				1				
		ソーシャルワークの理論と方法II	1後			2			○				1				
		ソーシャルワークの理論と方法III	2前			2			○							1	
		ソーシャルワークの理論と方法IV	2後			2			○							1	
		地域福祉の理論と方法I	3前			2			○				1				
		地域福祉の理論と方法II	3後			2			○				1				
		権利擁護と成年後見	3前			2			○		1						
刑事司法と福祉		4前			2			○				1					
保健医療と福祉	4前			2			○		1								
社会福祉 専門科目	福祉サービスの組織と経営	2前			2			○			1						
	社会福祉調査	3後			2			○					1				
	ソーシャルワーク演習I	2前			1				○				1				
	ソーシャルワーク演習II	2後			1				○				1				
	ソーシャルワーク演習III	2後			1				○				1				
	ソーシャルワーク演習IV	3前			1				○				1				
	ソーシャルワーク演習V	3後			1				○				1				
	ソーシャルワーク実習指導I	2後			1			○		1	3					共同	
	ソーシャルワーク実習指導II	3前			1			○		1	3					共同	
	ソーシャルワーク実習指導III	3後			1			○		1	3					共同	
小計(27科目)	—		0	48	0	—		1	4	0	0		2		共同・標準外 共同・標準外 オムニバス		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
保育系科目	保育学	1前	○	2			○						1		
	小計(1科目)	—		2	0	0	—			0	0	0	1		0
	保育原理	1後			2		○						1		
	教育原理	1後			2		○								1
	保育者論	4前			2		○						1		
	保育の心理学	2前			2		○								1
	こども家庭支援の心理学	3前			2		○			1					
	こどもの保健	2前			2		○								1
	こどもの健康と安全	2前			1			○							1
	こどもの食と栄養	2後			2			○					1		
	こども理解と援助	2後			1			○					1		
	保育の計画と評価	2前			2		○								1
	保育内容総論	1後			1			○							1
	保育内容 健康	2前			1			○			1				
	保育内容 人間関係	2前			1			○			1				
	保育内容 環境	1後			1			○							1
	保育内容 言葉	2後			1			○					1		
	保育内容 表現	2前			1			○			1				
	保育内容の指導法A	2後			2			○							1
	保育内容の指導法B	3前			2			○					1		
	こども家庭支援論	3後			2		○				1				
	子育て支援	4前			1			○		1					
	乳児保育I	2前			2		○			1					
	乳児保育II	2後			1			○		1					
	障害児保育I	2後			1			○							1
	障害児保育II	3前			1			○							1
	社会的養護I	2前			2		○				1				
	社会的養護II	2後			1			○							1
	保育実習I(保育所)	3通			2				○	2	6		3		共同・標準外
	保育実習I(施設)	3通			2				○	2	6		3		共同・標準外
	保育実習指導I(保育所)	2後			1			○			1		1		共同
	保育実習指導I(施設)	3通			1			○		1	1		1		共同・標準外
	保育実践演習	4後			2		○						1		
	小計(31科目)	—		0	47	0	—			2	6	0	3		6
	保育体験演習I(保育所)	1前			1		○				2		1		1 共同
	保育体験演習II(施設)	1後			1		○			1	1				1 共同
	保育体験演習III(保育所)	2前			1		○				1		1		1 共同
	在宅保育	4後			2		○			1			1		1 共同
	食育演習	3前			1			○					1		
	病児保育	4前			2		○								1
	音楽基礎I	1前			1			○							8 共同
	音楽基礎II	1後			1			○							8 共同
	音楽応用	4前			1			○							2 共同
	こどもの生活と遊びA	1前			1			○							1
	こどもの生活と遊びB	1後			1			○							1
	こどもの生活と遊びC	2前			1			○							1
	こどもの生活と遊びD	2後			1			○			1				
	こどもの文化演習A	1前			1			○					1		
	こどもの文化演習B	1通			1			○							1 標準外
	保育実習II	4通			2				○	2	6		1		1 共同・標準外
	保育実習III	4通			2				○	2	6		3		1 共同・標準外
	保育実習指導II	3後			1			○			1		1		1 共同
	保育実習指導III	3後			1			○		1	1				1 共同
	小計(19科目)	—		0	23	0	—			2	6	0	3		14
スバ イ ン ド	卒業研究	4通	○	4				○			2	6		3	
	小計(1科目)	—		4	0	0	—			2	6	0	3		0
教 職 目 関 連 科	被服学	2前			2		○								1
	被服製作実習	2後			1				○						1
	アートクラフト	3前			1				○						1
	小計(3科目)	—		0	4	0	—			0	0	0	0		2
に 教 関 職 す る 指 導 目 法	家庭科教育論 I	2前			2		○				1				
	家庭科教育論 II	2後			2		○				1				1
	家庭科教育法 I	3前			2		○				1				1
	家庭科教育法 II	3後			2		○				1				1
	小計(4科目)	—		0	0	8	—			0	1	0	0		1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 (助 手 を 除 く)	
教 職 に 関 連 す る 科 目	教育原理(教職)	1前後				2	○								2	標準外 標準外 標準外 オムニバス
	教職入門	1前			2	○									1	
	教育行政学	2前後			2	○									2	
	教育心理学	1後			2	○									1	
	特別支援教育論	2前後			2	○									1	
	教育課程論	2前後			2	○									1	
	道徳教育の指導法	2前後			2	○									1	
	総合的な学習の時間の指導法	3前後			2	○									1	
	特別活動の指導法	3前後			2	○									2	
	教育の方法と技術	2前後			1	○									1	
	教育におけるICT活用	2前後			1	○									1	
	生徒・進路指導論	2前後			2	○									2	
	教育相談	3前後			2	○									2	
	教育実習事前事後指導	4前			1	○									3	
	教育実習	4通			4			○							3	
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○								2	
介護等体験	3通			2		○								3		
教職セミナー	2通			2		○								4		
家庭科教育演習	3前			2		○				2	1					
小計(19科目)		—		0	0	37	—			0	2	1	0		14	
学 校 に 関 連 す る 図 書 館 司 書	学校経営と学校図書館	2前			2	○									1	
	学校図書館メディアの構成	2前			2	○									1	
	学習指導と学校図書館	2後			2	○									1	
	読書と豊かな人間性	2後			2	○									1	
	情報メディアの活用	2後			2	○									1	
小計(5科目)		—		0	0	10	—			0	0	0	0		2	
司 書 に 関 連 す る 科 目	生涯学習概論	2前後			2	○									1	標準外
	図書館概論	1前			2	○									1	
	図書館制度・経営論	2前			2	○									1	
	図書館情報技術論	2前			2	○									1	
	図書館サービス概論	1後			2	○									1	
	児童サービス論	2後			2	○									1	
	情報サービス論	2後			2	○									1	
	情報サービス演習A	3前			1		○								1	
	情報サービス演習B	3後			1		○								1	
	図書館情報資源概論	1後			2	○									1	
	情報資源組織論	2後			2	○									1	
	情報資源組織演習A	3前			1		○								1	
	情報資源組織演習B	3後			1		○								1	
	図書館情報資源特論	2前			2	○									1	
	図書館総合演習	3後			1		○								1	
	図書館実習	3前			1			○							1	
	小計(16科目)		—		0	0	26	—			0	0	0	0		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置							備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員		
博 物 館 学 芸 員 に 関 連 す る 科 目	博物館概論	2前				2	○									1	
	博物館経営論	2後				2	○									1	
	博物館情報・メディア論	2後				2	○									1	
	博物館資料論	3前				2	○									1	
	博物館展示論	3前				2	○									1	
	博物館教育論	3後				2	○									1	
	博物館資料保存論	4前				2	○									1	
	博物館実習Ⅰ	4後				1			○							1	
	博物館実習Ⅱ(館務実習)	4前				2			○							3	
	美術史Ⅰ	1前				2	○									1	
	美術史Ⅱ	1後				2	○									1	
	古代学Ⅰ	1前				2	○									1	
	古代学Ⅱ	1後				2	○									1	
	民俗学Ⅰ	3前				2	○									1	
	民俗学Ⅱ	3後				2	○									1	
小計(15科目)		—		0	0	29	—			0	0	0	0		7		
合計(250科目)		—	—	25	302	110	—			2	6	0	3		129		
学位又は称号		学士(家政学)		学位又は学科の分野					家政関係								
卒業要件及び履修方法				授業期間等													
卒業要件には124単位以上の修得が必要である。全学に共通に開設される共通総合科目は22単位以上(基礎ゼミ・外国語科目4科目4単位必修含)、学科において開設される専門教育科目は88単位以上で充たすこととする。学部には3つの学科が置かれるが、学生は在籍する学科の専門教育科目の履修を進め、当該学科の履修規程に従って卒業に必要とされる単位の修得を進める。 専門教育科目は、以下のとおり修得すること。 ・「家政学部共通科目」において、「家政学概論」2単位必修を含む4単位以上 ・「専門基礎科目」において、「家政福祉セミナー」1単位必修を含む3単位以上 ・「家政系科目」のうち、「食生活科目」において、「調理学」2単位必修 ・「家政系科目」のうち、「衣生活科目」において、「衣生活論」2単位必修 ・「家政系科目」のうち、「家族生活科目」において、「生活経営学」2単位必修 ・「家政系科目」のうち、「住生活科目」において、「住居学」2単位必修 ・「社会福祉系科目」において、「社会福祉概論Ⅰ」2単位必修 ・「保育系科目」において、「保育学」2単位必修 ・「アドバンス科目」において、「卒業研究」4単位必修 年間の履修単位数の登録の上限は46単位とする。														1学年の学期区分		2学期	
														1学期の授業期間		15週	
														1時限の授業の標準時間		90分	

授業科目の概要						
(家政学部 生活環境学科)						
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
		人文科学系	哲学への誘い		哲学の基本的な概念や思想について学び、人間の存在、知識、倫理について深く考察する。歴史的な哲学者の考え方を紹介し、現代における哲学の意義を理解することを目指す。これにより、学生は複雑な問題を多角的に考える力を身に付け、大学での専門的な学問に取り組むための基礎を築くことができる。授業は講義形式で進められ、具体例やケーススタディを通じて理解を深める。哲学的な思考を実生活や他の学問分野にも応用できる力を養う。	
			日本の文学		日本の文学における代表的な作家や作品を取り上げ、その時代背景や社会状況を理解する。作品の背景や作家の生涯、作品のテーマや構造等に焦点を当てることで、文学が社会や文化にどのように影響を与え、またどのように影響を受けてきたかを考察する。さらに、学生はディスカッションやレポート提出等を通じて批判的思考力や表現力を養う。最終的には、日本文学の多様な魅力を理解し、その知識を自らの文化的・学術的な探求に活かす力を培うことを目指す。	
			外国の文学		外国や異文化にまつわる体験をした様々な国の作家たちの代表的な文学作品を読み、各国の文化の多様性や異文化体験、または普遍性をどのように文学作品で表現しているか、小説の背景となる歴史や彼らの生涯にも目を向けつつ比較考察する。授業は主に講義形式をとり、論題にそって作品の抜粋を読む。	
			ジェンダーと文学		社会的・文化的な背景、特定の作家などについて概説する講義と、個別の作品の文章の分析を組みあわせて授業を進める。後者については事前に配布する作品の抜粋をもとにして、受講生のグループワークやディスカッションを交えながら理解を深める。また関連する映像作品なども取りあげる。学期後半では英米以外の作品もとりあげ、現代のジェンダーと文学について理解を深める。	
			表現と創作		様々な芸術作品を通じて、異なる表現方法を学び、それらを比較検討する力を養う。授業では、あるテーマに基づいた作品を中心に、その作品の基になった古典作品や他の作家の作品、絵画、映画、音楽などと比較しながら、多様な表現のあり方を味わう。学生は、これらの活動を通じて芸術の魅力を探求し、自らの理解を深める。また、授業の一環としてレポート作成や自分自身の創作活動を行うことで、学生は表現の幅を広げ、自己表現力を向上させることを目指す。	
			こんにちの文化		「こんにちの文化」では現代の文化現象を探求し、理解を深めることを目的とする。ポップカルチャー、メディア、テクノロジー、ジェンダーなどの変化を通じて、社会における現代文化の特徴や影響を分析する。音楽、映画、インターネットなどのメディアを取り上げ、その背景にある意味や文化的な価値を見出す。更に、グローバル化の影響や異文化間の相互作用についても考察し、多様性を尊重する視点を養う。授業では、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、学生同士が意見を交換し、現代の文化について理解を深める。	
			歴史学		特定の時代、地域、文化、または生活をテーマに取り上げ、歴史的な視点から現代の問題を理解することを目指す。多様な歴史資料や文献を用いて、過去の出来事や社会構造を詳しく分析し、そこから得られる知見を現代社会に応用する力を養う。学生が、歴史を一方的な事実の羅列として捉えるのではなく、現代と過去をつなぐ生きた学問として理解できるよう促す。どの時代や地域を扱うかは担当者によって異なるが、共通して歴史的な理解を深め、現代の課題に対する洞察を深めることを目指す。	
			日本の美術		歴史の中で、人々は様々な思いや願いを、その生きた時代と響き合いながら作品として形にしてきた。日本に息づく美の流れを、生み出された背景に思いをはせ読み解き、我が国の美術について考える。画像等の資料を活用し、絵巻物から屏風絵、浮世版画などの絵画表現とともに、仏像彫刻をはじめとする立体や建築の変遷を交えて、大陸の文化の影響と日本独自の文化の興隆、発展を読み解いていく。	
			西洋の美術		様々な民族と国家がつくる時代の流れの中で、ヨーロッパの美術はおびただしい数の名作の開花を見続けてきた。積み上げられてきた西洋美術の研究について知るとともに、作品を通じてその豊かな美の追求を感じ取る。画像等の資料を活用し、絵画をはじめ彫刻・建築等の造形作品を様々な視点でとらえ、西洋美術の様式の興隆、変化を視覚的に読み解き、創作の源泉と表現の底流にあるものを考えていく。	
			音楽の歴史		本授業では、世界の音楽文化とその歴史について考察する。本授業の目的は、音楽史を単なる過去の出来事としてではなく、現在の音楽文化にどのように繋がっているのかを理解することにある。各時代の音楽が持つ特質や文化的・社会的・歴史的背景を深く考察し理解することによって、学生は音楽史を動的に捉えることができるようになる。また、現在の音楽シーンが歴史的な文脈の中でどのように形成されてきたのかを深く理解する力を養う。	
音楽の楽しみ		この授業では音楽の魅力や多様性を探求し、学生が音楽をより深く理解し楽しむための知識と洞察力を身につけることを目的とする。音楽は人間の歴史や文化を豊かに表現する媒体として、重要な役割を果たしている。授業では、異なる文化や時代における音楽の役割や変遷、異なる音楽ジャンルが持つ特徴や文化・歴史的背景、音楽を鑑賞するための方法等を学ぶ。学生は、個々の好みや感性に合った音楽の楽しみ方やより豊かな音楽鑑賞の手法を身につけることができる。				

			手書き文字の世界		「手書き文字の世界」の授業では、手書き文字の美しさと実用性を探求する。歴史的な書体やさまざまな書の表現方法を学び、伝統的な手書き文字の手法を習得する。さらに書道の歴史や文化的背景を理解しながら作品を手掛けることによって、理論、実技の双方から日本の伝統文化に接する。この授業を通じて、毛筆をはじめとする手書き文字の魅力を再発見し、手書き文字が持つ芸術的価値と文化的意義についても理解を深めることができる。	
			漢字・かな文字の変遷		「漢字・かな文字の変遷」の授業では、漢字、平仮名、片仮名がどのように形成され、発展してきたかのプロセスを概説する。それぞれの文字の歴史的背景や文化的意義を理解するとともに、文字の変遷を理解し、古文書の解読方法や表現方法の変遷も学ぶ。実際の古文書や書跡を教材に、実践的な解読と書写の技術を身につける。この授業を通じて、伝統文化としての漢字・かな文字の表現の奥深さ、歴史的背景と芸術的価値を深く理解することが目指される。	
		社会科学系	キャリアデザイン		前半は「どのような大学生生活を送るのか」という課題のもと、自身の専攻分野に繋がる学びへの熟知、それに伴う学修計画、また「自分史」作成を介し、自身の人間的成長について考察する。後半は、「社会調査」を通して社会で活躍する人々の現状を理解し、自らのキャリア形成に繋げていく。	
			日本国憲法		日本の基本法である憲法の基本的な構造とその意義について学ぶ。日本国憲法は、1947年に施行され、国の根幹を成す法律である。この憲法は、国民の権利と義務、政府の役割、法律の枠組みなどを定めている。授業では、憲法がどのようにして成立したか、その背景と歴史を理解しつつ、憲法の基本的な原則について学ぶ。また、憲法が現代の日本社会にどのように影響を与えているかを考察する。これにより、学生は日本国憲法の重要性と、その日常生活や社会全体における役割についての理解を深めることができる。	
			憲法と人権		憲法がどのように人権を保護し、保障しているかを学ぶ。授業では、憲法の基本的な構造とその役割を理解し、特に人権に焦点を当てる。憲法は、国民の基本的な権利と自由を保障するための法律であり、政府の権力を制限する役割を果たす。授業では、憲法の成り立ちとその背景を学びながら、人権がどのように憲法によって守られているかを探っていく。また、現代社会において憲法がどのように適用され、人権の保護が実現されているかを考察する。これにより、学生は憲法と人権の関係について深い理解を得ることができ、日常生活や社会全体における人権の重要性を認識することができる。	
			国際関係入門		国際関係に関する基本的な知識や視点・視座を身に付け、考察につなげられることを目的としている。講義では、国家から、国際機構、NGO、企業、個人に至るまで様々なアクターの活動に焦点を当て、その役割と現状を学ぶ。さらにグローバル化や技術革新など現代の国際関係における大きな変化についても取り上げる。これにより、国際社会の複雑な構造と相互作用を理解し、それぞれがどのように協力、競争しながら世界を形作っているかを把握する。これらの学びを踏まえて、現代の国際的な諸問題に対してどのようなアプローチができるのか、グローバルな視野を持って考察する力を培う。	
			経済の仕組み		景気、インフレ・デフレ、円安・円高、金利など、ニュースでよく聞く用語について、解説を覚えるのではなく、その裏側にある仕組みを理解すれば、今後経済がどのように変わっても自分の頭で考えられるようになる。この授業では、ニュースや日常生活からの具体的な事例を通じて、経済学に関心を持つことから始め、マクロ経済学の基本的な内容や用語を理解することを中心にして、経済関連のニュースや社会で起きている出来事について説明できるようになることを到達目標とする。	
			社会の仕組み		社会学の基礎的な分析方法や概念について学びながら、そうした方法に基づいて、社会学が、現代社会のさまざまな現象、問題について、どのような分析・検討を行っている（きた）のかをみていく。具体的には「大学生であること」、「家族」、「働くこと」をはじめとする身近な事例を取り上げる。それらを手がかりとして、社会の仕組みや、それと密接に関わっている自分自身の考え方について反省的に捉え、見直す力を身につけられるようにする。	
			20世紀の日本		1901年から2000年までの日本の歴史において、その後の日本に大きな影響を与えた出来事を選び、その時代背景について詳しく解説する。講義では、その時代に生きた人々の視点から歴史を考察し、出来事がどのように人々の生活や思想に影響を与え、現在の日本社会を形作ったのかを理解する。さらに、20世紀の日本が直面した課題や変革についても探求し、現代に繋がる歴史の流れを総合的に学ぶ。これにより、学生は過去の出来事をより深く理解し、歴史的な視点から現代社会を考察する能力を養う。	
			家族と社会		この授業では、まず複数の社会の比較を通して、社会と家族、および文化と家族の相互規定性について考察する。次に、近代的社会制度と価値観による家族への影響について概観する。そして最後に、現代における家族の展開を、恋愛、婚姻と夫婦関係、親子関係、家族を取り巻く人間関係の変化、地域社会の変容と家族の関係、などを通して考察する。	
			家族と福祉		現代社会における家族を取り巻く状況の変化、社会福祉の概念、ソーシャルワーク（社会福祉の専門的援助）について説明する。超高齢社会、低所得・貧困、女性の生きづらさにより生じる生活上の問題とそれに対応する福祉制度を解説する。現代社会における家族の主要な生活問題と福祉について考察する。	
			ベーシックラーニング		大学での学びを効果的に進めるために必要な、国語と数学の基礎的な学力を習得することを目的とする。国語では、学術的な文章の読解力や論文作成に不可欠な正確な表現力を養い、学術的なコミュニケーション能力を向上させる。数学では、データ解析や論理的思考力を必要とする大学の授業に対応できるよう、計算力と論理的思考力を高める。これにより、学生は大学での学びを深めるための基礎的な国語力と数学力を身に付け、自信を持って専門的な学問に取り組むことができるようになることを目指す。	

共通総合科目	基礎教養科目	生活科学系	服装の科学		アパレル業界のICT化と、アパレルCADの使用方法。アパレル製品の品質表示、洗濯等取扱い絵表示、JISサイズ、アパレルの素材、ファッションの歴史。ファッションコーディネートの方法について、ライフスタイル、色彩、素材、アクセサリー、体型カバーの各視点から解説する。また、コーディネートアイテムについても説明する。	
			ファッションの文化		「ファッション」は美意識の表現方法の1つであると同時に時代を映し出す鏡でもある。オートクチュール後のファッションから、時代を追うごとに変化する身体との関係について考察し、現代に於ける「表現力」として派生しているファッションまでを幅広く捉えて解説する。またファッションと関連の深い映画を解説し、その中に含まれるファッションについて考察する。	
			色彩の科学		「色彩の科学」の授業では、色彩の基礎理論とその科学的原理を学ぶ。色の物理学的な性質や光の波長、色相・彩度・明度の概念を理解し、色彩の生成や混合のメカニズムを探究する。また、色覚の生理学的な仕組みや心理学的な側面も学習し、人間の色の知覚や感情への影響を解明する。さらに、色彩理論や応用分野（デザイン、美術、印刷など）における実践的な活用方法も学ぶ。実験や観察を通じて、色彩に関する科学的な知識と技術を身につけ、色彩に対する理解を深める。	
			健康と食生活		私たちの食生活、特に栄養について理解する。また、健康と栄養の役割、各ライフステージにおける健康と食生活について理解し、自身に必要な食生活の基本を身につける。	
			住まいとデザイン		住宅図面の見方と書き方、住まいの内部空間および外部空間を構成しているもの、日本および海外の住まいの形やデザイン、住まいのユニバーサルデザイン、様々な住宅設備、住まいにおける生活の知恵などについて、基本的な事項を解説する。	
			社会福祉の展望		社会福祉は高齢者や障害者だけにあるのではなく、生きていく中でだれもが遭遇する生活上の困難を解決するための社会政策である。つまり、社会福祉の充実は、私たちの生活を安定させる重要な基盤であり、そこが揺らぐとたとえ経済が成長していても国民は安心した生活は営めない。つまり、社会福祉はすべての人が安全で、安心して暮らすための装置であり、基本的人権を守るための砦の役割を担っている。そして安定的に社会福祉を供給するには、人々の活発な社会活動、経済活動が不可欠である。経済・社会の活動と社会福祉の両方が、健全に機能するために必要な社会福祉制度のあり方を経済、社会の視点で考える。	
			こどもと育児		産まれてから成人するまでの子どもの成長・発達を様々な側面から理論的に捉え、各発達段階における養育者の関わりについて概説する。その上で、グループワークやペアワークを通じて子どもと養育者の相互作用や、子どもへの具体的な関わり方等について学ぶ。また、虐待や不適切保育など現代の育児や家庭に関わる諸問題について、社会的な要因を踏まえて考察する。その他、近年の子育て支援制度等を概観し、育児に必要な社会的な支援の概要と実態についても併せて学び、その利用法等について検討する。	
			生活にいかす化学		この講義では、化学が日常生活にどのように役立っているかを学ぶ。化学の本質である物質の理解を通じて、身の回りで起こる事象を化学の視点から理解する楽しさを味わう。実物や実験を交えた講義を行い、受講生には実感を持って学習してもらう。化学的な視点で物事を理解することを通じて、化学嫌いの人が化学を好きになることを目指す。具体的には、原子や分子、水、油、高分子、金属、香り、色素、毛髪と化粧品、洗剤、タンパク、糖、酵素、薬などを取り上げ、それぞれの化学的特性や利用法を学ぶ。最新の話題も交えながら、化学が生活にどれだけ密接に関わっているかを実感させる内容となっている。	
			数理と発想		導入として、算数から発展した一般的な数学の問題の解法について考える。続いて、微分、積分、数列、行列、ベクトル、素数、虚数、確率論などから、数学の視点を概観する。また、コンピュータと数学の接点に着目し、行列、ベクトル、虚数などがコンピュータ上での演算ツールとして驚異的な活躍を遂げたことを説く。さらに、コンピュータシミュレーションの考え方、ビッグデータ、機械学習とAIなど新しいデータサイエンスの視点を社会生活と関連付けながら紹介する。	
			看護の知識		有史以来ケアという行為を存在してきた。医療・福祉・教育に共通するケアの原理、その専門職業である看護について理解する。看護の目的と看護活動について知り、個人と家族、社会生活において健康生活を送るため看護の知識を活用できるようにする。授業は専門分野の教員によるオムニバス形式とする。 (オムニバス方式／全15回) (33 竹内久美子／6回) 1回 ガイダンス／看護の基本的な考え方 2回 保健医療サービス提供のしくみ 3回 看護における人材育成 9回 看護の実践と展開 10回 発達段階と看護の特徴① 15回 筆記試験とフィードバック (60 寛亮子／3回) 4回 こころの健康とストレス① 5回 こころの健康とストレス② 6回 ストレスが関連するこころの病い (48 河村秋／4回) 7回 地域における健康支援① 8回 地域における健康支援② 11回 発達段階と看護の特徴② 12回 発達段階と看護の特徴③ (16 桑原里実／2回) 13回 療養環境におけるさまざまな繊維① 14回 療養環境におけるさまざまな繊維②	オムニバス方式

			パソコンの基礎と応用		現代社会で必要不可欠なコンピュータスキルを習得することを目的とする。授業では、パソコンの基本操作から始め、ファイルの作成・保存・管理などの基本的な操作方法を学ぶ。さらに、Windowsなどのオペレーティングシステムの基本的な使い方を理解し、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本機能を使いこなす方法を習得する。加えて、インターネットの基本的な使い方や電子メールの利用方法、ネット上でのマナーやセキュリティ対策についても学ぶ。学生は大学生活や職場で必要とされる基本的なパソコンスキルを身に付け、自信を持ってデジタルツールを活用できるようになることを目指す。	
			AI・データサイエンス基礎		まず、PCの基本操作を、Windows、Officeアプリケーションを使用し、簡単な課題解決を通じて修得する。次に、現代社会において特に重要なリテラシーであるWebの安全な利用については、①セキュリティ上必須な操作の修得、②具体的な犯罪例と回避策の理解、③コミュニケーション上のマナー・モラルの修得、に重点を置く。また、今日の社会に急速に浸透しつつあるデータサイエンスおよびAIについて、そもそもどのようなものを解説し、知らず知らずに接している高度な情報処理技術の発想と実用例について正しく理解する。さらに、Scratchを使用してプログラミングについても体験する。	
			心理学		心理学は、「科学」として人の行動や発達などを扱い、日常生活に幅広く応用されている。本講義では、「心の健康」にかかわる臨床心理学・健康心理学の立場から、「自己理解とストレスマネジメント」、「他者理解と心理的支援」、「ライフキャリアの形成」の3つを主要トピックとして位置づけ、授業を行う。受講生各自が授業内容を実際に大学生活において活用できるように、適宜ワークを交えながら体験的に理解を深められることを目指す。	
			家族とジェンダー		「家族とジェンダー」の授業では、家族やジェンダーに関する理論と実践を学ぶ。家族の構造や機能、それに伴う性別役割分業、ジェンダー問題について探求し、文化、慣習など、社会的要因との関連性を理解する。さらに、家庭内の権力関係やコミュニケーションパターン、家族政策の影響、今後の展開などについても考察する。ジェンダー・バイアスに基づく社会的偏見や不平等にも焦点を当て、その解消に向けたアプローチを検討する。現代社会における多様な家族形態やジェンダー・アイデンティティに対する理解を深め、包括的な視点から家族とジェンダーの在り方を考える。	
			人間の発達		本講義は、乳幼児の発達（親や周囲の大人との関わり）について、それらが青年期から成人期以降も含めた生涯発達に関係するのか、また、人間の発達を生涯発達の視点からとらえ、人間の胎児期から老年期までの各段階の発達、心理的な特徴と対応について解説する。受講生が人間理解の視点と知識を身につけることを目的とした講義を行う。また心理学を通じて自己理解を深め、よりよい生き方のヒントを説明する。	
			生命の科学		本講義では、生物がどのように誕生し、生命の連続性を保ちながらヒトをはじめとする多様な生物へと進化してきたかを学び、生命について考える機会を持つことを目的とする。さらに、細胞の構造や機能、生態系の相互作用、生物多様性の重要性など、生命現象を総合的に理解する。また、最新の研究動向や技術についても学び、生命科学の現代的な課題や未来への展望についても考察する。本授業を通して学生は、生命の本質を深く理解し、科学的な視点から生命を考える力を養うことを目指す。	
			現代の教育		教育の本質と意義、我が国の教育目的の変遷、現代社会と教育の課題を捉えた上で、特に家庭教育と人間形成の重要性、学校教育と学力保障問題、生涯学習社会における教育のあり方と今日的課題について解説する。また、子どもをめぐる諸問題をとり上げ、データや新聞記事資料等も読みながら理解を深められるように解説する。	
			文化遺産に学ぶ		「文化遺産に学ぶ」の授業では、世界各地の文化遺産や歴史的な遺産を通じて、人類の歴史や文化を探求する。遺跡、建築物、芸術作品などの具体的な遺産を取り上げ、その背景や意義、保存活動に関する知識を学ぶ。また、文化遺産の保護や活用に関する国際的な取り組みや倫理規範についても学習し、遺産の持続可能な管理方法についても考察する。さらに、文化遺産が持つ社会的意義や教育的価値についても探求し、現代社会における文化の役割を理解する。この授業を通じて、文化遺産の重要性とその保全・活用する方法について考える。	
			生命と医療の倫理		科学技術の発達により生命観が大きく変化しつつある状況の中、また社会における価値観が多様になりつつある状況の中、人の生命に対する操作はどこまで許されるのか。また、人間を人間たらしめるものは何で、具体的な場面で生命を大切にするととはどのようなことなのか。授業ではこういった問題を考察していく。このことで、学生は、科学技術の進歩と倫理の関係を深く理解し、現代の医療倫理の複雑さに対処するための知識と洞察力を身につける。	
			女性と美容		この講義では、美しく生きるための美容学を多角的に学ぶ。美容は外見を整えることだけでなく、皮膚や毛髪健康、紫外線の影響、美容科学全般について理解することが重要である。具体的には、皮膚と毛髪の構造や機能、紫外線対策、美容製品の基礎知識、アンチエイジング、色彩学、化粧品技術、心と皮膚の関係、化粧品品の開発などを学ぶ。これにより、美容の基礎知識を身につけ、心身ともに美しく生きるための考え方や行動力を養う。講義は具体例や実践的な知識を交えながら進められる。 (オムニバス方式／全15回) (24 金子 健彦／11回) (第1回～11回) 皮膚と毛髪の構造や機能、美容製品の基礎知識、アンチエイジング、色彩学、化粧品技術、心と皮膚の関係 (69 佐藤 潔／4回) (第12回～15回) 紫外線と皮膚の関係、化粧品開発	オムニバス方式

人間科学系

			健康の科学		本授業は、健康に関する基本的な知識と理解を深める事を目的とする。具体的には、基本的な栄養学、運動生理学、心理学、疫学、公衆衛生などを学習する。また身体的、精神的、社会的な健康の関係や影響についても学習する。さらにライフスタイルの変化が健康に与える影響や、予防医学の重要性、健康増進のための具体的なアプローチについても探求する。科学的なエビデンスに基づいた健康情報の評価や、自身の健康行動の改善策を考える力を養い、個人およびコミュニティ全体の健康を促進するための知識とスキルを身に付ける事ができるようにする。	
			スポーツ実習		本授業は、仲間と様々なスポーツを実施し、身体を動かす事の心地よさ、仲間とのコミュニケーションを通じて、スポーツの良さを体感する事を目的とする。またスポーツの基本的な技術や知識を身に付けるために、各種目、基本的な技術練習からゲームまで実施する。基礎練習からゲームまで実施する事で、スポーツを通じたコミュニケーション能力やリーダーシップも身に付ける。学生がスポーツの良さを体感する事で、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎を築く事を目指す。	
			フィットネス実習		本授業は、運動によって自身の健康を維持・増進させるための基本的技能と知識を習得する事を目的とし、有酸素運動、筋力トレーニング、柔軟運動、エアロビエクササイズなど、様々な運動を実践する。具体的には、ジョギング、ヨガ、ピラティス、ウェイトトレーニングなどの実施に加えて、心拍数の管理や栄養学の基本知識も学び、総合的な健康管理の方法を身に付ける。運動実施に当たり、個々の体力レベルや目的に合わせたプログラムを組み、学生は自身の進捗をモニタリングしながら運動を進める。生涯にわたって健康的な生活を送るための基礎を築く事を目指す。	
	海外研修科目		海外語学研修		国際共通語としての英語力（特にListeningとSpeakingの能力）を磨くため、長期休暇を利用し、海外提携校で異文化コミュニケーション能力を養い、英語圏の文化と社会にふれ、国際人としての教養を身につける。発前のワークショップは、留学に備えて準備する。	
			海外文化研修		韓国のソウルや各地域の現地文化研修を通して広く韓国の文化を体験し韓国社会を理解する。韓国語基礎の事前学習や現地韓国語実践、韓国語検定試験を想定した総合的学習を行う。韓国の社会文化、歴史、「韓流」と呼ばれる最新トレンドについて現地体験し、日本との関りやグローバル社会における日韓関係について考える。韓国語の実践学習の基本を身につける。	
	外国語科目		コミュニケーション英語		今後、国内外を問わず、非日本語話者と英語でコミュニケーションをとる機会がますます増えていくことが予想される。そのため、動画・音声・テキストなどの多様な媒体で提供される英語の情報を収集し、理解する能力が重要となる。さらに、自らも英語で情報を提供する能力が将来的に必要な可能性もある。授業では、様々な題材を用いて、ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションといった英語コミュニケーション活動を行う。学生が英語でのコミュニケーション能力を高め、グローバルな視点で物事を考える素地をつくることを目指す。また、他の文化や価値観に対する理解を深めながら、言語（英語）に対する知識を高める。	
			英語リーディング		国際化が進む中で、オンライン・オフラインを問わず英語で情報が提供されることがますます増えている。そのため、さまざまなトピックに関する英語を正確に読み取るスキルが必要となる。授業では、ニュース記事、メール、簡単な物語などの文章を使いながら、英語の読解力と読解スピードを高めるためのスキルを身につける。特に、精読や速読の練習を通じて、異なる読解スタイルを使い分ける力を養う。精読では、詳細について理解する力と内容を整理する力を高め、速読では、多くの情報を短時間で処理する能力を強化する。また、学生はリーディング方略についても学習しながら、読んだ内容について振り返り、自分の意見をまとめる力も養う。	
			トラベル英語		国際化が進む中で、国内外で英語を使う機会が増えている。そのため、異なる文化背景を持つ人々と英語で円滑にコミュニケーションをとる能力がますます重要になっている。文化の違いを理解し、適切な英語表現を身につけることは、良好な英語でのコミュニケーションを促進するために欠かせない。本授業では、外国に旅行しコミュニケーションをとる場面や、日本で外国人旅行者と接する場面を想定し、ロールプレイなどを活用して実践的な英語を使用することによって、適切な英語表現を学ぶ。授業を通じて、英語の表現力だけでなく、異文化コミュニケーション能力も含めた総合的な能力の向上を目指す。	
			映画・ドラマで学ぶ英語		映画とドラマから英語を学ぶことで、日常会話の自然な表現や発音、文化背景を学び、リスニングやスピーキングをより自然な形で身につける事ができるといわれている。そうしたことから、本授業では英語のドラマや映画を用いて、学生が英語の日常会話の自然な表現や発音、語彙、文化背景についての理解を深めることを目指す。さらに、英語の映画やドラマを通して、異文化理解とポライトネスに関しても学習する機会を提供する。リアルなシナリオを通じて、学生は異文化間のコミュニケーションスタイルや英語表現を学び、英語を使った実践的なコミュニケーション能力を養う。	
			基礎から学ぶ英語		英語を学ぶことで、学生はグローバルな視点を持ち、多様な情報源にアクセスできるようになる。英語は国際共通語として学術、ビジネス、技術分野など多岐にわたる場面で使用され、基本的な英語力の習得は将来のキャリアにおいても利点となる。本講義は、そうしたことを踏まえ、英語学習を基礎から学びたい学生を対象とし、英語の基本的な文法や語彙の習得に加え、効果的な学習方法（英語学習ストラテジー）についても講義を行う。具体的には、リーディング、リスニング、スピーキング等の実際の学習活動を通じてその実践力を養い、将来的な英語自律学習の力を培うことを目指す。	

		家政学概論	家政学は、人間生活における人と環境の相互作用について、様々な科学的分野(自然科学、社会科学、人文科学)を基盤として研究を行い、人々の生活の向上と人類の福祉に貢献する実践的総合科学分野であり、家族関係学、家庭経営学、家庭経済学、被服学、住居学、食物学(食品学・調理学)、栄養学、社会福祉学、保育学から構成される。 本講では、家政学を構成する各学問分野に関する基礎的な事項を学び、家政学の学問としての広がりを理解し、自ら学ぶ専門分野と家政学との関連を理解することを目標とする。 前期 (オムニバス方式／全15回) (26 熊谷優子／2回) (第1・15回) オリエンテーション・家政学部 の歴史について解説する。まとめ・全体のフィードバックを通じてこれからの家政学を考える。 (10 大日義晴／2回) (第2・3回) 現代家族への多様なまなざしと家族研究・ライフコースを通じた生活経営の視点について解説する。 (5② 伊藤瑞香／2回) (第4・5回) ファッションと心理・ファッションとジェンダーについて解説する。 (16 桑原里実／1回) (第6回) 家政学における衣生活の位置付けと衣環境について解説する。 (15 金指有里佳／1回) (第7回) 家政学における住居学の位置付けと生活との関わりについて解説する。 (14 池谷真梨子／2回) (第8・9回) 家政学における食品学の位置づけと食品の利用について解説する。家政学における調理学の位置づけと「おいしさ」について解説する。 (99 吉田真知子／2回) (第10・11回) 家政学における栄養学の位置づけ・栄養学の理解と生活との関わりについて解説する。 (2 丸谷充子／1回) (第12回) 家政学における社会福祉学の位置付けと生活との関わりについて解説する。 (18 星野美穂子／2回) (第13・14回) 生涯の基盤を培う乳幼児期の教育・保育・遊びと生活を中心とした保育について解説する。 後期 (オムニバス方式／全15回) (26 熊谷優子／2回) (第1・15回) オリエンテーション・家政学部 の歴史について解説する。まとめ・全体のフィードバックを通じてこれからの家政学を考える。 (10 大日義晴／2回) (第2・3回) 現代家族への多様なまなざしと家族研究・ライフコースを通じた生活経営の視点について解説する。 (8 織田奈緒子／2回) (第4・5回) 生活におけるファッションの位置付けとその役割・ファッションとサステナビリティについて解説する。 (3 水野一枝／1回) (第6回) 最も身近な環境である衣服は、人間の健康と深く関わっている。そこで、安全で快適・機能的な衣服の条件、健康な衣生活について概説する。 (15 金指有里佳／1回) (第7回) 家政学における住居学の位置付けと生活との関わりについて解説する。 (14 池谷真梨子／2回) (第8・9回) 家政学における食品学の位置づけと食品の利用について解説する。家政学における調理学の位置づけと「おいしさ」について解説する。 (99 吉田真知子／2回) (第10・11回) 家政学における栄養学の位置づけ・栄養学の理解と生活との関わりについて解説する。 (2 丸谷充子／1回) (第12回) 家政学における社会福祉学の位置付けと生活との関わりについて解説する。 (18 星野美穂子／2回) (第13・14回) 生涯の基盤を培う乳幼児期の教育・保育・遊びと生活を中心とした保育について解説する。	オムニバス方式
--	--	-------	---	---------

家政学部
共通科目

基盤科目		生活文化史A		「生活文化史A」では衣生活編を行う。衣生活の歴史を辿ると、通過儀礼や風習等を無視することはできない。制度や規範のなかで当時の女性が表現したかった衣生活とはどのようなものだったのか。時代とともにどのように変遷をしてきたのかを解説する。先人の思いを馳せながら、現代の女性と通ずるところ、また相反するところを検証、考察することができる。それにより自身の衣生活を見つめ直し、これから豊かな生活を送ることが出来るようになる。授業内容：本講義では、絵画、写真、映像も交えながら授業を展開する。	
		生活文化史B		授業形態は講義とする。身体をとりまく多様な事象を軸とした生活文化に焦点をあて、歴史的展開についての理解を深める。具体的には、国内外の民族舞踊や祭礼行事、儀礼を対象として、衣文化、食文化、住文化との関連性を学び、歴史背景と社会背景、思想と地域共同体の在り方から読み解いていく。一連の学びによって、身体をとりまく生活文化がどのように展開してきたかを理解し、これからの生活における課題と可能性を考えていく。	
		地域防災演習		災害時に女性リーダーとして自発的な意欲を持ち活躍できるよう、基本的知識とスキルを身に付ける。地域に関わることの意義を理解し、災害時に家政系分野から支援活動に参加可能な内容を考え実践できることを目標とする。【基礎編】では防災・減災、災害時避難等に関する基本的事項について講義形式で学習する。【実践編】では主にグループワークを通した演習となり、要援護者（高齢者・障がい者・子ども・妊産婦・外国人とする）への支援や災害時の水やトイレの確保等について実践的なスキルを養う。市川市との協働で行う授業である。	
		生活環境セミナー		生活環境に関する実習・演習等を通して、大学生活の基本ルールを理解し、基本スキルを習得することで、主体的な大学生活や学習に対する意欲や態度を身につける。集団生活やグループワーク、討議を通して、他学生や教員とのコミュニケーションを図り、4年間の学びが円滑にスタートできる素地を養うことを目標とする。佐倉セミナーハウスでの1泊2日の研修を中心に、その前後で研修に向けて事前学習と総括を実施する。講演会、グループでの意見交換やワーク、プレゼンを通して様々な意見や価値観を分かち合い、共同作業により友人を作り、教員と学生相互の交流を深める。	共同
		基礎ゼミ		（分担／15 金指有里佳（2026年度） 13 弓削田 綾乃（2027年度） 18 星野美穂子（2028、2029年度）） 少人数のグループに分かれて、大学生としての基本的な心構えを身につけ、大学での学習に欠かせない知識・技能・方法などを主体的・能動的に学ぶ。大学での学びの目標、授業への臨み方やノートの取り方、大学図書館の利用を含む文献検索、課題解決のための方法、日本語力の向上とレポートの書き方、討論や発表の方法、生活環境学科で学ぶための基本的な学習姿勢と方法を主体にグループワークを含む能動的な学習を行う。	分担（一部）
		服飾造形概論	○	「服飾造形」に関わる多分野の基本的な内容を知ること、今後の学習の指針を明確にし、4年次に取り組む卒業研究のイメージを構築する。 （オムニバス方式／全15回） （3 水野一枝／4回） （第1・8・9・15回）衣服の機能性と評価方法、機能性とデザインのバランスや衣服制作、生活空間に必要な人間工学の要素について説明する。 （5② 伊藤瑞香／2回） （第2・3回）服飾の歴史的背景、ファッションの進化と文化的影響や日本の民族衣装である和服の文化の解説、和裁について概説する。 （16 桑原里実／3回） （第4・10・11回）繊維の種類と特性、布地の構造と用途や縫製と仕上げの品質基準、製品検査と改良方法、衣料管理士について説明する。さらに、素材と染色の関係、染色による素材の表現についても説明する。 （17 下之角千草／1回） （第5回）パターンメイキングの基本、個別生産と工業生産について概説する。 （4 山本高美／2回） （第6・7回）裁断の手法と道具の使い方の解説、人体計測について解説する。また、デザインから製作までの流れ、サンプル製作とフィッティング、CADについて説明する。 （8 織田奈緒子／1回） （第12回）コンセプトとテーマについての解説およびポートフォリオの構成とプレゼンテーションについて説明する。 （12 森本美紀／2回） （第13・14回）最新トレンドのリサーチ方法ファッション予測の基本概念およびサステナブルファッションの概念、エシカルな素材選びと製作プロセスについて説明する。	オムニバス方式
		衣生活文化論	○	文化の形成に衣生活がどのような役割を担ってきたのか、また時代の変遷とともに、環境や地域差がどのように衣生活に関わってきたのかを学ぶことにより、これからの衣生活の諸問題に興味をもち、見直しつつ解決策を見出すことができるようになる。授業内容：本講義では、服飾の起源、日本の伝統文化とその変遷、文化の地域差、自然環境、海外と日本の被服製作の技術、新たな産業との関わり、消費者問題、服飾の画一性と多様性、日本のよき衣生活文化を世界に発信するなどを、テーマにビジュアルを用いながら授業を展開する。	
		調理学		まず、「おいしさ」とは何かについて、調理の目的と絡めながら解説する。次に、調理手法を食材別に紹介し、食品材料の成分、組織が調理操作によって物理的・化学的にどのように変化し、それがどのようにおいしさに影響するのかを説明する。また、調理機器や調理道具の特徴について解説し、調理品の仕上がりに与える影響について理解を促す。調理による生理的意義、文化的役割についても講義する。	

			住居学	○	住居は、誰もが人間らしく生きるために必要な生活手段のひとつである。そうした住居を居住者自身が主体的に選択し、改善し、創造していくための基本的知識を身に付けることを目標とする。住まいの役割、住まいの歴史、住様式の変遷、家族と住まい、住まいの環境・健康、住居経済、居住支援などを講義をととして学習する。また、簡単な住宅図面を読み、書ける力を養う。住まいの重要性を再認識し、住まいとは何か、人と住まいの関わりとは何かを理解し、生活者の視点から説明できる力を習得する。	
			社会福祉概論I	○	さまざまな生活上の困難への予防や対応をし、安心して暮らせる社会の構築を目指す社会福祉というものを概観する。社会福祉の概念、社会福祉の原理にかかわる考え方、日本とイギリスにおける社会福祉の歴史、近年の福祉政策の動向と課題、現代社会の変化と社会問題および社会構造、社会福祉を支える人々や資格、ソーシャルワーク援助実践などについて学ぶ。社会福祉とは何かを理解し、社会における弱者や社会的ニーズがある人に気づく視点を持てるようにし、生活上の困難の構造とこれに対応する社会資源を把握し、生活上の社会的なニーズに適切に対応できる・対応される社会の実現に寄与できる知識とスキルを身につける。	
	企画科目		ファッション画 I		(分担／8 織田奈緒子 (2028年度) 85 福地宏子 (2026、2027、2029年度)) ファッション画の基本と表現技法を学ぶ。衣服の造形・色彩・素材等を意識し、そのうえで各自が必要に応じた描写表現ができるように指導する。ファッションイメージを的確に表現して伝達するために、人体のバランス・服の構造・生地や素材・アイテム画の表現手法を学び、人体と衣服についての理解を深める。基本の人体のプロポーションに沿って、衣服を的確に描くことができ、素材表現、アイテム画を完成させる力を養う。最後にテーマに合わせたデザイン提案を行い、表現方法の習熟を目指す。	分担
			アパレル企画論	○	ファッション業界はファストファッションとラグジュアリーブランドの二極化で、国内アパレル企業の企画によるブランドの勢いが見られなくなっている。社会状況、経済状況、トレンドなど大きな流れを捉えながら、マーケットのニーズを見つけるとともに、地球環境保全や人権保護なども踏まえた持続するブランドを目指した商品企画の方法を説明する。より良い商品企画に繋げる方法を実際の企業で使っている資料を提示しながら解説する。	
	設計・生産科目		和服造形学実習 I	○	「大裁女物ひとえ長着」(浴衣)を製作する実習科目である。和服は、日本の民族衣装として人々の関心はあるものの、現在の生活環境や様々な要因から和服離れが進んでいる。縫製方法はもちろんのこと名称や畳み方さへも知らない人が多くなった。そこで、学生にとっては和服の中でも一番身近な浴衣を製作する。長着の基本形でもあり、構造・名称・寸法を理解し、基礎的な縫製技術を習得することで和服に興味を持つことができる。授業内容：「大裁女物ひとえ長着」を浴衣地によって制作する。構造、名称、寸法の決め方を説明し、布地の裁断からはじめる。裁ち分けたら順序に縫製し完成させる。和裁用具の扱い方の説明もする。	
			和服造形学実習 II		「大裁女物ひとえ長襦袢」(無双袖・裾引き返し・別衿仕立て)を手縫いで製作する実習科目である。和服を美しく着こなすために必要な土台として長襦袢がある。1年生の浴衣地とは異なる布地の扱い方を習得し、あわせて長襦袢の縫製方法および種類・着用目的などが理解できる。長着と長襦袢との調和を地質・色彩の面からも捉え、「長着」との形態の相異を把握する。長襦袢は、表着ではなく長着の下に着用するものであるため、仕立て上がり寸法は長着を基準として決めることを理解する。授業内容：材料として、絹布またはポリエステルを用いて製作する。長着の寸法を基準にして長襦袢の寸法を決めてから裁ち分け、順序に縫製し完成させる。	
			被服造形学実習 I	○	立体構成における基礎的な理論や技術を把握させることを目的とする。下衣婦人服におけるパターンと、下半身の体型との関係を学び、ウール地のタイトスカートの作製を行う。スカート製作を行う上で、表布に合った印付けの方法や縫製方法、ファスナー付け、裏地の縫製方法、ベルト付けやホック付け、ループ付けの方法を指導する。	
			被服造形学実習 II	○	立体構成における基礎的な理論や技術を把握させることを目的とする。上衣婦人服におけるパターンと、上半身の体型との関係およびゆとり量について理解し、アロハシャツの作製を行う。アロハシャツの製作を通して、上半身ディテールで特徴のある、衿つくり、衿付け、袖付け、ボタンホール、ボタン付けなどを指導する。	
			アパレル設計論	○	複雑な曲面構造からなる人体を美しく覆い、動きやすく快適な衣服を作るための基本的な内容を学ぶ。衣服を着る目的理解や分類、人体の構造と形態把握法、体表展開から導かれる衣服原型理論、人の動きや身体状況と衣服設計との関連、原型からデザインパターンへの展開、素材選定、布地の立体化技法、縫製の基礎・評価法を解説する。アパレル設計とは、単なるもの作りではなく、科学的理論に基づくものであり、その理解が応用力や創造力を高める力を養う。	
			アパレル設計実習	○	衣服製作の基礎から実践までを体系的に学ぶ。まず、服飾実習授業受講時の心構えや安全対策、機器(ミシン、アイロン、プレス機等)・用具(洋裁用具等)の取り扱いを解説する。衣服を考える上で重要な人体形態の把握と計測方法は実践して習得する。さらにパターン設計の基本的な考え方、原型作図、原型を操作することによるデザイン展開方法をスカートの作図を通して学ぶ。また、衣服の構造を理解した上で、衣服の部分的なディティールの縫製方法を身につける。	

服飾造形コース	専門基礎科目	ニット基礎		手編みの中の棒針編みとかぎ針編みについて、基礎知識と基礎技術を解説し、実際に作品制作を行う。編地の編み方、編み図の読み方と書き方、編み方による編地の特性、糸や用具の選定方法、作品の仕上げ方法などをテストピースの作成やバッグ・帽子等のファッション小物の制作実習を通して解説する。実習と並行して素材についての知識、ニットの定義や歴史といった技術以外の知識についても幅広く学び、衣生活の中のニットに関する基礎的な知識と技術を習得することを目指す。	
		ニードルワーク基礎		ニードルワーク（針仕事）の中の刺しゅう技法を中心に学ぶ。刺しゅう糸、ビーズ、コード、リボン、スパンコールなど様々な素材の扱い方、およびそれらを使用した代表的な刺しゅう技法、刺しあがり後の刺しゅう作品の取り扱い方などを基礎刺し課題の実習体験から学ぶ。また、応用作品では基礎で学んだ技法を組み合わせさせてアクセサリー（装身具・バッグなど）を制作する。衣服への装飾技法およびアクセサリー制作についての基礎的な知識と技術を習得することを目指す。	
		被服衛生学	○	最も身近な環境である衣服は、人間の健康と深く関わっている。人の生理機能が衣服の影響を受けることを理解し、健康的な衣服の選択や着用方法に関する知識を習得し、健康的な衣服の着用について主体的に考えることができることを目標とする。講義では、体温調節を中心とした生理機能の基礎、衣服による調節と快適性、衣服と暑熱環境や寒冷環境、衣服圧、運動快適性との関連について学習する。更に、衣服と皮膚や皮膚障害の関係、睡眠時の寝衣や寝具について学び、安全で快適・機能的な衣服の条件や特性、健康な衣生活の知識を習得する。	
	材料・加工・整理科目	繊維学	○	繊維製品の取り扱いには、糸や布および二次製品の原料である繊維の基礎知識が必要となる。繊維の構造と性質について高分子論、構造、形態に関する知識を習得し、繊維素材の種類、性質、用途を理解することを目指す。繊維とは何かをまず知り、四大天然繊維である綿、麻、羊毛、絹、および三大合成繊維であるポリエステル、ナイロン、アクリルの化学構造、製法、性質および用途について学ぶ。次に、各種繊維の性質について繊維の化学的・物理的構造との関連を理解し、被服材料としての適性を考察する。また、様々な機能を付与するために行われる加工について理解する。	
		アパレル材料学	○	身の回りの繊維製品には用途に応じて様々な素材が使用されている。健康で安全かつ快適な衣生活を主体的に営むためには、材料の種類や性能について理解し、使用目的に適合する素材の選択が必要である。講義では、繊維、糸、布の種類や製造プロセス、および各材料の基本性能を主体に、アパレル材料の基本構造とその消費性能を学習する。また、素材の基本的な知識の視点から快適な衣服環境を提案できる思考力を身につける。	
		染色加工学	○	我々は色彩に富んだ繊維製品に囲まれて生活している。それらの繊維製品は用途に応じて、特性の異なる繊維素材が使用されているため、より堅ろうな染色を実現するにあたって特性の異なる染料や染色技術が開発・応用されてきた。講義では、染色現象を水に溶けた染料分子が水によって膨潤した繊維内部に浸透吸着する現象であるとして、水中での染料の状態から繊維内での染着状態などの基本的な物理化学現象を学習する。繊維製品に使用されている染料と実用染色加工技術およびその理論に関する基本知識を習得し、化学的な視点から思考力を身につける。	
		アパレル整理学	○	繊維製品には、用途に応じた素材の機能だけでなく、快適な生活を提供するための機能が付与されているが、消費により消耗し機能が低下する。最終的には廃棄せざるを得ないものの、できるだけ長く機能を保持させることが重要である。講義ではアパレル製品が持つ特性、および機能の回復に重点を置き、洗濯に関する基本的な知識について界面活性剤を主体に、ビルダーの種類と役割、およびその機構・理論、適切な保管、商業洗濯（クリーニング）について学習する。	
	流通・消費科目	消費衣生活論		テキストとして「新版消費生活論」（一般社団法人 日本衣料管理協会）を使用し、経済社会や人々の生活様式の急激な変化、規制緩和の推進に伴って、消費者問題が多様化・複雑化するとともに、新たな形態の消費者問題が発生していることについて概説し、消費者被害の未然防止と被害者救済のための方策について考察する。①消費者問題の発生の背景や実態、②消費者の権利と責任、③消費者政策と消費者行政、④企業の消費者対応、⑤消費者教育の必要性、⑥消費生活と情報について理解する。	
		消費科学		消費科学の中でも、アパレルに焦点をおき、多様化しているアパレル製品に関して、製品を選び、消費する過程で起こる諸問題を消費者サイドから考察していく。テキストとして「衣生活のための消費科学」（日本衣料管理協会）を使用しながら、繊維製品の品質、消費者行動、繊維製品の生産・流通・消費について解説し、実際の事例も紹介していく。また、直面しているアパレル製品の課題を設定し、その解決や対策を立案するまでの方法についても学ぶ。	
		ファッションビジネス論	○	ファッション業界で活躍している卒業生や業界の第一線の方々を招いて講義をしていただく。毎回違った内容と講師により、オムニバス形式による授業が展開される。素材メーカーの生産担当者、服飾付属メーカーの開発担当者、アパレル企業のデザイナー、服飾雑貨デザイナー、プリント染色開発担当者、ラグジュアリーブランドの販売担当などによる幅広い分野の生きた最新の講義が展開される。また、モノづくりの喜び大変さを知るために制作体験も行う。	
		ファッションマーケティング論		ファッションマーケティングに必要な基本的知識を身につけるため、マーケティング戦略のプロセスであるSTP分析、4P分析について、実際のファッション業界やファッションブランドを事例にして説明し、実際の業務の中でどのように活用されているのかを説明する。その他、マーケティングのフレームワークとして、ファイブフォース、SWOT分析、VRIO分析なども紹介していく。その後、興味ある実在する2ブランドの4P分析を比較してもらう。	

			食品学		食品全般について理解するために、私たちが日常利用している様々な食品を知り、その食品を構成している主要成分に関する基礎的な知識について概説する。具体的には、食品の分類の方法、食品を構成する主要成分（水、糖質、食物繊維、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル等）の性質や機能、さらに色、味、香り等の嗜好成分や食品の物性等についても概説する。それぞれの食品成分やその役割を理解することで、食品の加工や調理に関わる技術や原理についても知識を深めていく。食品全般の基本を学ぶことで、食に関する様々な問題に対して、科学的な視点から理解できるようになることを目標とする。	
			栄養学	○	安全で質の高い食品を摂取することにより、食生活を楽しみ、健康と栄養を保持していくために必要な知識を得て、望ましい食生活を実現する力を身につけることを目標とする。具体的には、健康と栄養の概念、各栄養素の消化・吸収の過程、体内利用とその生理的意義、食欲の調節、人間の各ライフステージにおける身体的特徴と食事との関係、日本国民の健康増進を図るための施策、日本人の食事摂取基準、生活習慣病と食事、免疫と食事について講義形式で学ぶ。	
			基礎調理学実習I		よい食材を理論に基づく正しい手順で調理すると、栄養的、衛生的、嗜好的に好ましい食べ物が出来る。本授業では、基本的な調理操作、食材の扱い方を説明し、各自の調理技術の向上を図る。実習内容は、日本料理、中国料理、西洋料理の日常的な献立とし、食材の基本的な扱い方、下処理、加熱法、食品材料の調理による変化を実習を通して学び、基本的な調理技術を習得する。調理後の盛り付け、配膳、テーブルマナーについても学ぶ。日本料理、西洋料理、中国料理の特徴についても理解を深める。	
			フードスペシャリスト論		フードスペシャリストとは、食品の開発・流通・販売・消費の分野で食品の品質評価・情報提供・コーディネート・食育等を行う食の専門職である。その資格の意義・目的を理解し、食生活全般の基礎を学ぶ。具体的には、フードスペシャリストの役割、人類と食物、日本の食物史、世界の食文化、現代日本の食生活、食の環境への影響、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食情報の在り方と消費者保護のシステムについて講義形式で解説する。	
			被服学	○	被服の役割を見つめ直し、学生が将来にわたり、賢い消費者として豊かな衣生活を送ることができるように、衣生活に関わる基礎的な事項について概説する。被服の機能、被服を着用する意味、被服の変遷、被服の材料、被服を着る人体、被服の製作、被服の手入れ、被服を着装する心理について学ぶ。被服の製作については裁縫の基本的な技能についても扱い、お簡単な布を使った製作も行う。さらに衣生活の中の消費者問題、環境問題にまで視野を広げられるように、現実在即して話題を提供する。写真や実物を用いてビジュアルに、そして実験・実習を取り入れて体験的に授業を展開する。	
			被服構成学		将来にわたり主体的に衣生活を営むためには、被服がどのように作られているか、どのように作られなければならないかという基礎的な事項を知っておくことは重要である。これらの事項について概説する。着衣する人体の特性と被服の構造、被服に要求される性能、被服製作の技法、和服と洋服の構造や造形するため工程、これらに関わる諸問題について学ぶ。講義が中心であるが、実際の衣服の観察や身体計測、基本的な裁縫技術習得の練習など実習的な内容も扱いながら学ぶ。	
		生活科学系	被服構成学実習		立体構成のパンツやシャツ、バックの製作を通して、衣服の構造と人体形態との関連性において寸法設定を考えさせ、立体構成の縫製法を習得させる。既成の型紙を使用することから、簡単なデザインの修正、適正なサイズ選びを学び、家庭や中高の家庭科のでも製作できるように、一般的な道具を用いて製作を行う。これらを通して、布地の立体化、副素材の取り扱い、作品の評価法を学ぶ。この実習を通して、洋裁やものづくりの楽しさを実感し、教職を目指す者には被服製作の意義やモノづくりの楽しさを生徒に伝えようとする態度を身につけさせる。	
			生活経営学	○	生活という複雑で総合的な営みを社会科学的視点からとらえるとともに、問題意識を持って生活を見直し、生活経営学および生活経済学について学習する。家族と家庭生活、生活経済学の基礎的知識について学び、人口、家族、雇用環境、地域社会、意識・価値観等の変化を受けて生活の営みがどのように変容しているかを概観し、生活福祉の向上について考察する。講義を通して、生活と社会を結びつけて把握し、家族、生活構造、家庭経済の各領域における現状と課題を理解し、生活福祉の向上について考えを深めることを目標とする。	
			消費生活論		世帯構造の変化、少子高齢化、高度情報化、国際化の進展などの社会経済状況の変化による消費生活の変容、消費者問題の発生と実態、自立した消費者として必要な知識について概説する。経済社会や人々の生活様式の急激な変化、規制緩和の推進に伴って、消費者問題が多様化・複雑化するとともに、新たな形態の消費者問題が発生していることについて概説し、消費者被害の未然防止と被害者救済のための方策について考察する。	
			家族関係学	○	家族は歴史的、社会的、文化的につくられてきたものである。本講では家族と家族関係についての知識と洞察力を養い、家族を科学的・体系的・相対的に理解できるよう概説する。家族は私たちにとって非常に身近な存在である。それだけに家族を客観的にとらえることは難しいといえる。本講では家族という関係性のもつ意味を問い直し、多様化する現代家族が直面している諸問題について解説する。家族に関する概念と客観的データに基づいて家族と社会のつながり、家族の多様性を理解することを目指す。	
			ユニバーサルデザイン論		「ユニバーサルデザイン」とはすべての人々に利用しやすい製品や環境デザインである。ユニバーサルデザインの基本的事項を学習し、住まい、公共施設、まちなどの事例に関してユニバーサルデザインの視点から問題点を抽出し、誰にとっても安全で利用しやすい工夫など具体的な解決方法を習得することを目標とする。多様な人々の立場に立って昨今のユニバーサルデザインの現状や課題を認識し、誰もが差別なく安心して暮らすことができる制度や社会のあり方なども含めて学ぶ講義とする。	

家政福祉コース 専門基礎科目		保育学	○	授業形態は講義とする。本講義は、現代の子どもや子育てをめぐる現状を踏まえ、保育とは何か、保育者のあり方、保育における子ども理解の重要性、保育の思想・歴史、子ども・子育て支援制度など日本の保育の現状と課題について解説する。授業目標は、保育とは何か、子ども理解の重要性、保育の思想・歴史、子ども・子育て支援制度、日本の保育の現状と課題について関心を持ち、主体的に考えることができるようにする。	
		こどものあそびと環境		授業形態は演習とする。本講義は、こどもを取り巻く環境とその発達の意義、こどもと環境とのかかわりに関する発達とその段階について解説する。それらの知識を踏まえ、こどもの発達に伴う遊びの変化や興味の違いに応じた玩具の製作や遊びの提案を行う。授業目標は、こどもを取り巻く環境とその発達の意義を理解する。次にこどもの発達や遊びの過程を理解し、それぞれの発達や興味・関心に応じた手作り玩具を製作、遊びを提案できるようにする。	
	社会福祉系	社会福祉概論II		社会福祉の原理と政策について把握するために、社会福祉の原理をめぐる思想・哲学、現代の社会問題、福祉政策の概念や理念、生活上のニーズと福祉政策、福祉サービスの供給と利用の過程、関連政策や包括的支援などについて学ぶ。また、歴史的発展の過程と理論を踏まえた欧米との比較による日本の社会福祉の特性はなにか、社会問題と社会構造の関係の視点から現代の社会問題はどのようなになっているのかについても学ぶ。社会的ニーズの充足をし、安心して暮らせる社会の構築を目指す社会福祉というものの原理と政策を理解する。	
		高齢者福祉論	○	高齢者福祉の全体を把握するため、高齢者の定義と特性、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について、高齢者福祉の歴史、高齢者観の変遷、高齢者保健福祉制度の発展過程、高齢者に対する法制度と支援の仕組み、高齢者と家族等の支援における関係機関の役割、高齢者福祉に関連する専門職等の役割について学ぶ。また、高齢期における生活課題を踏まえて、高齢者やその家族に対し、社会福祉職員としてどのように対応していくか、適切な支援のあり方について学ぶ。世界的な超高齢社会となっているわが国において、どのような高齢者に関する問題が発生しているのか、それにどのような対応をしていけばよいのか、考える力を身につける。	
		障害者福祉論	○	障害の定義や特性、障害者の生活実態や社会環境、障害者福祉の理念・歴史と障害観の変遷、障害福祉制度の発展過程、法体系、障害者総合支援法・児童福祉法における福祉制度、専門職の役割と実際、多職種連携、家族等に対する支援その他関連する障害関係法律を解説し、障害児・者に係るソーシャルワークにおける専門的知識について解説する。主に講義形式とするが、受講生に自らの考えを表明する機会を設ける。【到達目標】 ソーシャルワーカーとして必要な障害児・者に関する専門的知識を修得し、障害児・者の有するニーズを具体的にイメージすることやストレングスを活かした支援技術の修得につながる基盤を作ること为目标とする。	
		児童福祉論	○	子どもと家族をとりまく社会の現状について概説し、子どもの育ちと子育てを支える子ども家庭福祉の理念や制度について体系的に学習する。児童福祉の歴史的経緯をふまえて「子ども家庭福祉」へ転じていく社会の変化について学習し、子どもの権利を中心に子どもの育ちと子育てをどのように支援するのか、子ども家庭福祉に関わる法制度や福祉サービスについての理解を深める。授業全般を通して、子どもが健やかに育つことのできる地域社会のありようについて考察する。授業を通して子どもの権利の視点から子ども家庭福祉について考える力を養うことを目指す。	
		貧困に対する支援		貧困や公的扶助の概念、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境、貧困の歴史と貧困観の変遷、貧困に係る法制度と支援の仕組み、貧困に関する支援方法について学ぶ。法制度については、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金貸付制度、無料低額宿泊所、公営住宅制度、ホームレス自立支援法などを学ぶ。貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割については、国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所、自立相談支援機関、社会福祉士およびさまざまな専門職等の役割について学び、支援をする際の基本姿勢についても理解する。	
		社会保障論I	○	人々の暮らしはいつでも平穏無事とは限らない。国民が健やかで安心できる生活を保障する社会保障制度の概要を解説し、その活用を含めて社会保障制度を理解することを目指す。当該授業では社会保障制度全体を展望し、社会保障制度に含まれる医療制度、高齢者医療制度、社会福祉・生活保護、介護保険制度、年金制度の詳細について学ぶ。社会保障制度の根幹を担う社会保険制度について説明する。この授業は、社会福祉実践に必要な社会保障制度と基本理念を理解することを目指し、社会保障制度の含まれる法律・制度を理解し、福祉給付、医療給付、金銭給付の体系を理解すること为目标とする。	
		社会保障論II		社会保障制度は、人々の暮らしにおいて遭遇する様々な問題を解決するための社会制度、法が整えられている。国民が健やかで安心できる生活を保障する社会保障制度の概要を解説し、その活用を含めて社会保障制度を理解することを目指す。社会保障論Iを基礎に、仕事と社会保障制度に関わる社会保障制度である雇用保険、労働災害補償保険を学ぶ。さらに、社会保険と民間保険、社会保障の歴史、社会保障制度の構造について学ぶ。この授業では、社会福祉実践者に求められる社会保障制度と基本理念を理解していること、社会保障制度の含まれる法律・制度を理解し、福祉課題を解決できること、社会保障制度の理念を理解し、実際のソーシャルワークに応用するための基礎知識を学ぶ。	
		医学一般		社会福祉士として臨床現場での社会福祉実践において必要となる基本的な医学知識を身につけることを目的とする。心身機能と身体構造に関する基本的な知識を学び、その知識を基盤として疾病や障害の成り立ちと回復過程について学ぶ。代表的な疾患や障害の概要、国際生活機能分類（ICF）やリハビリテーションについて理解する。人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解し、公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策について学ぶ。	

			心理学と心理的支援		社会福祉士が行うソーシャルワークにおいて必要とされる他者理解や心理的支援の基盤となる考え方、様々な心理的介入技法について学ぶ。心理学の基礎分野である「心理学理論」とその理論に基づき、心理相談の際のアセスメント手法（心理検査）、心理的支援（心理療法）の具体的な実践方法について、講義と演習を通して学ぶ。人の心の基本的な仕組みと機能を学び、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。また、自己理解や心理療法におけるアセスメント手法と様々な介入技法の基礎を理解する。	
			社会保障施策の変遷と展望		社会保障施策は、世界各国において重要な政策に位置付けられている。社会保障の成り立ちや、発展過程を学び、現代社会における社会保障施策の意義を考える。各国のデータ比較から我が国の強みや弱みを理解し、政策課題について考察する。医療・介護・障害・子ども子育て等の各社会保障分野について掘り下げ、グループでディスカッションや全体共有（プレゼンテーション）等を交えながら、社会保障分野におけるライフデザイン能力を高める。	
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		ソーシャルワーカーあるいは社会福祉士とはどのような専門職であるのかを理解し、また、相談援助をソーシャルワーク専門職として実践する基盤を学ぶ。ソーシャルワーカーに必須とされる援助技術に関する基礎的な知識を身に付ける。同時にソーシャルワーク専門職に求められる価値や倫理などについて考察する。また、相談援助のための諸理念を理解し、適切に行動するための知識を身につけ、これからの社会福祉サービスのあり方と専門職のあるべき姿についても論考する。	
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		社会福祉士の援助技術であるソーシャルワークに係る様々な専門職の概念とその範囲について学ぶ。ソーシャルワーカーに必要な条件について学び、ソーシャルワーカーが活躍する場所、フィールドについて学ぶ。ソーシャルワーカーが専門職として成立するための条件を学び、ソーシャルワーカーが活躍する職域の多様性を理解する。さらには社会福祉士が担うソーシャルワークの役割を知る。ソーシャルワーカーが対応する社会課題と多岐にわたる活動領域について学び、課題解決に向けて必要なジェネラリストとしての支援方法を学ぶ。ソーシャルワークに求められる条件を理解し、専門職としてのソーシャルワーカーの仕事を理解し、地域共生社会における包括的な支援、ジェネラリストとしての視点を理解することを目指す。	
			3Dファッションデザイン基礎	○	ファッションデザインにおける3Dモデリングの入門スキルを学ぶ。CL0での基本的な操作を習得し、シンプルな衣服デザインの作成から始める。仮想空間でのデザイン作成やパターンメイキングを通じて、3Dデザインの利点と可能性を理解し、さらに、デジタル試着によるフィット感の確認や、簡単なデザイン修正の方法を学び、3Dデザインに対する基礎的なスキルを養う。応用科目に向けた準備として、デジタルツールの基礎を固め、表現方法を習得する。	
			3Dファッションデザイン応用		「3Dファッションデザイン基礎」で学んだCL0を用いた3Dモデリングスキルをさらに発展させ、各自衣服デザインを作成する。コンセプトとテーマを設定し、自らのコレクションを3D上で行うことを目指す。複数の素材やディテールを組み合わせたデザインやアバターの体型に合わせたカスタマイズなど行う。また、デジタルプロトタイプの評価を通じて、現実の縫製に近い品質を追求する。最終的には、プレゼンテーション用のビジュアライゼーション技術を習得し、完成度の高いデジタルファッションデザインを制作することを目指す。	
			ファッション画Ⅱ		（分担／8 織田奈緒子（2028年度） 85 福地宏子（2026、2027、2029年度）） 「ファッション画Ⅰ」での学びを発展させた表現方法・アプローチ方法などを指導し、各自が必要に応じた表現ができるようにしていく。プレゼンテーション、ポートフォリオ等にも使用できるような、幅広い表現力を身につける。また、アイテム画の正確な構造・ディテールの描写にも力を入れ、必要な場面に適したファッション画を提案できるようにする。目的に合わせたデザイン画表現を修得し、短時間で正確なバランスやシルエットを把握し表現できることを目的とする。	分担
			アパレルデザイン	○	ファッション業界の全貌を捉え、マーチャンダイザー、デザイナー、パタンナーに必要なアパレルデザインの基礎的な知識を習得し、商品企画を行うための創造力、発想力を身につける。そのために、国内外のファッションビジネスの現状、マーチャンダイザー、デザイナー、パタンナーの役割、ブランドの機能を解説する。アパレルデザインに必要な構成要素であるフォーム、カラー、テキスタイルについて、さらに人体とデザインの関係、コスト構造について解説する。	
			アパレル企画実習		アパレル企画論の学修を踏まえ、グループに分かれ、実際の企画室で行われている商品企画を立案し、情報収集力、企画力、コミュニケーション力を身につける。社会状況、経済状況、トレンドなど大きな流れを捉えながら、マーケットのニーズを見つけ、ターゲットの選定、素材選びから、デザイン、カラー、などの商品構成、コストや価格設定、店舗におけるVMDの構築まで行い、立案した内容を冊子にし、さらにプレゼンできるよう解説する。	
			ビジュアルマーチャンダイジング演習		実際、学内に設置した仮想店舗で、什器を使った商品の陳列、マネキンへの商品着用、ショーウィンドウの装飾などを実演することにより技術を身につける。また、この演習は、ファッション販売論、アパレル企画論の実践編になるので、それらの授業を履修していることを前提で進める。グループに分かれ、マーチャンダイザー、ビジュアルマーチャンダイザーの視点から、S K Uに基づき、商品陳列や店舗づくりを構築していく。ゲスト講師を招き、VMDに必要な理論と実践も解説していただく。	
			ファッション色彩学	○	色彩学の基本（「色彩の科学」色彩検定3級相当程度）を習得した学生を対象に、色彩学をファッション分野に応用できるように解説する。色彩光学などの物理的な側面と色彩心理といった生理・心理学的な側面を具体的な事象であるラグジュアリーブランドやSPAブランド、国内アパレルブランドの衣服やアクセサリ、バッグ、靴などの小物、インテリアなどの商品と関連付けて講義を行う。具体的なファッション分野の色彩知識を習得することで、より生活を豊かにすることを目的とする。	

			服飾造形総合演習	○	ものづくりにおいては、常に新鮮な着眼点からの提案が求められる。本科目では、地域や企業が主催するコンテストに応募する際に、与えられた条件や目的に基づいた発想を展開し、提案に根拠を持たせたものづくりを解説する。テーマ設定から素材選定、求められる機能性や市場性を考慮したデザインの考察を行う。最終的にコンテスト応募の経緯をまとめたポートフォリオを作成し、プレゼンテーションを通じて発表する。これにより、提案力と表現力を高め、具現化するスキルを習得する。	
			舞台衣装演習	○	舞台やパフォーマンスにおける衣装デザインの実践的なスキルを学ぶ。まず、舞台衣装の役割や歴史、基本的なデザイン原則を理解し、シナリオ分析を通じてキャラクターやテーマに適した衣装を設計する方法を学ぶ。次に、舞台照明や演者の動きに対応した衣装の調整方法や、プロダクションチームとの連携を体験的に学びます。実際の舞台作品を題材に、小規模な衣装デザインプロジェクトを行い、グループで作品に取り組む。最終的に、完成した衣装をプレゼンテーションし、フィードバックを受けることで、舞台衣装デザインの実践力を高め、プロジェクト管理やコラボレーション能力を養う。	
			和服造形学実習ⅢA		「大裁女物あわせ長着」を手縫いで製作する実習科目である。一般的に「きもの」と表現され、和服のなかでは基準となるもので、和服を理解するうえで欠かせないものである。裏を付けた縫製は、高度な技術を要することを体験し、長襦袢・長着・羽織の順序で着用することを知り、それぞれの仕立て上がり寸法との関連を学ぶ。表地と裏地を（胴裏・八掛）あわせて三種類の生地を使用して、身長ほどの表裏の布丈の釣り合いをとるには、布の扱い方、正確な寸法、正確なしるしつけなど、多くのことが関係すること、および緻密な作業が必要であることを理解する。授業内容：材料として、絹布またはポリエステルを用いて製作する。寸法を決め、三種を裁ち分け、順序に縫製し表裏の丈調整まで完成させる。	
			和服造形学実習ⅢB		「大裁女物あわせ長着」を手縫いで製作する実習科目である。（和服造形実習ⅢAの続き）一般的に「きもの」と表現され、和服のなかでは基準となるもので、和服を理解するうえで欠かせないものである。裏を付けた縫製は、高度な技術を要することを体験し、長襦袢・長着・羽織の順序で着用することを知り、それぞれの仕立て上がり寸法との関連を学ぶ。表地と裏地（胴裏・八掛）あわせて三種類の生地を使用して、身長ほどの表裏の布丈の釣り合いをとるには、布の扱い方、正確な寸法、正確なしるしつけなど、多くのことが関係すること、および緻密な作業が必要であることを理解する。授業内容：和服造形学実習ⅢAの続きで、表裏の丈調整後、とじからはじめ、順序に縫製し完成させる。	
			和服造形学実習Ⅳ		着物着用の外出時に必要なコートいわゆる「道中着」を手縫いで製作する実習科目である。羽織るものには、コートと羽織があり、それぞれのマナーの解説をする。コートには防寒用、塵除け、雨具用などの種類があり、長着とは異なった衿の形態・丈の長短について理解する。授業内容：衿の道中着を制作する。仕立て上がり寸法の決め方は、長着の寸法を基準とする。道中着の衿は、今まで学習してきた長着の衿の形態とは異なるため、その縫製方法を解説する。飾り紐についても市販のものは利用せず、それぞれが残布で花型に製作したものを付ける。	
			被服造形学実習Ⅲ		「被服造形学実習Ⅰ」「被服造形学実習Ⅱ」で習得した基礎知識を基に、パンツを制作する過程において、縫製における応用知識と技術について解説する。作品完成に必要な縫製方法を解説し、作品を完成させるまでを指導する。パンツの基本的な作図方法を解説する。各自の体型、素材の選び方、素材にふさわしい印付けの方法を説明する。着用目的に合わせたゆとり分量を考えながら試着・補正を行う。素材に適した縫製方法や副資材の選び方を学び、作品を完成させる。パンツの基本的な構造を理解し、制作を通して新しい知識と技術の習得を目標目指す。	
			被服造形学実習ⅣA		1・2年次に修学した被服造形学の理論と技術を総合的に体系化し、実践的な応用力を養うことを目的とする。各自の体形に合わせた裏地付きテーラードスーツ（ジャケットとスカートまたはパンツ）の制作を行い、ジャケットの歴史やデザインの理解を深めるとともに、正確な採寸、パターン作成、仮縫い、トワルでの試着を通じたフィッティング調整・検討を行う。また、パターン修正や裏地・見返し・衿パターンの展開方法について解説し、縫い代付きパターンを完成させる。実践を重ねることで、理論と技術を統合し、個別の課題に対応できる応用力と創造力を身につけることを目指す。	
			被服造形学実習ⅣB		1・2年次に修学した被服造形学の理論と技術を総合的に体系化し、実践的な応用力を養うことを目的とする。各自の体形に合わせた裏地付きテーラードスーツ（ジャケットとスカートまたはパンツ）の制作を行う。「被服造形学実習ⅣA」で作成した縫い代付きパターンを用いて縫製技術を実践して習得する。テーラードジャケットの製作を通し、アイロン操作や二枚袖の縫製といった、被服構成における高度な縫製の技術を身に付けていく。また、作品を自ら評価し次につなげる力を養う。	
			アパレルCAD実習Ⅰ		情報通信技術の発達により、アパレル業界ではCADを取り入れた生産システムが確立し、その必要性も増している。そこで、アパレルCADにおける、パターンメイキング機能を中心に、その理論および技術の習得を目指す。同時に、平面作図の手法も学習する。	
			アパレルCAD実習Ⅱ		服飾造形基礎で修得した理論的な知識を更に深める目的で、3Dボディアラインスキャナーによる計測および人体の観察を行う。得られた3Dボディデータの解析を行い、各人の体型に合わせたスカート原型を作成する。スカート原型をアパレルCADにより、各種デザインに展開し、シーチングで仮縫製し、パターンの評価を行う。	

専門教育科目	服飾造形コース 専門応用科目	設計・生産科目	立体裁断Ⅰ	○	立体裁断はパターン表現の可能性を広げるパターンメイキング方法である。ボディについて解説し、基本的な方法を、スカート・シャツブラウスの2アイテムを通して解説・師範する。まず、各自ボディを用い、ガイドラインを入れる。次にボディの構造を理解し、立体裁断の基本的な進め方、道具の使い方、トワルの扱い、ゆとりの入れ方、修正の仕方、身頃・襟・袖の作成方法、アイロンワークなどの基本事項を細かく解説し、そこから美しいシルエットを作り出す為の方法論を考察する。応用力へと繋がる立体裁断の基礎を学び、バランスの取れたシルエットについて理解できることを目指す。	
			立体裁断Ⅱ		「立体裁断Ⅰ」で学んだ立体裁断の基礎を踏まえ、テーラードジャケットや各自の選んだ自由課題の立体裁断を通して、より高い技術力と表現力の習得を目指し解説・師範する。襟の仕組みとバリエーションについても解説する。テーラードジャケットの立体裁断では、軽衣料とは異なるゆとりの入れ方や、4面体のシルエットの作り方と仕組みについて解説・師範する。デザイン分析・テープ貼り・トワルの見積もりなど、「立体裁断Ⅰ」で習得した内容を更に応用できるよう教授し、デザイン分析の結果を的確に表現できるパターンメイキングに連動した立体裁断を実施できることを目指す。	
			パターンメイキング		衣服を製作するためには、適切なパターン作成が不可欠である。本科目では平面のパターンと立体に作り上げられた衣服の関係を理解することで、イメージしたデザインのパターンを作図する基礎知識と技術を習得する。上衣を製作する上で基本となる身頃原型から、ダーツをいかに操作するかによりゆとりの入れ方やデザインに落とし込む方法を学ぶ。また、応用課題として自分でデザインした上衣をパターン作成、トワル製作し、検討、修正を通して実践力を養う。	
			ニードルワーク応用		「ニット基礎」「ニードルワーク基礎」の内容から派生し、家庭用横編み機による編地編成、ニットウェアのパターン設計、ビーズクロッシェ、中級から上級レベルの刺しゅう技法等、より高度な手芸技法を学ぶ。最終的な課題としてニット／刺しゅうを用いた自分が身に着けられるアイテムを制作する。アイテムのデザイン、編地の寸法計算、テキスタイルの試作検討、実物制作を通して、柔軟なデザイン発想や独自性の高いファッションアイテム制作が自在にできる能力を身に着けることを到達目標とする。	
			テキスタイルデザイン演習		画像生成AIや Photoshop を使って、アパレルやグッズに適用可能なテキスタイルデザインを制作する。画像生成AIを操るプロンプトエンジニアリングと、Photoshop による画像のレタッチ技術を学び、それらを活用してテキスタイルデザインを制作し、アパレルやグッズに適用する方法を習得する。	
			被服衛生学実験		「被服衛生学」の講義をもとに、衣服を着用する環境、衣服を着用した際の人間の生理・心理反応、衣服素材の快適性に関する測定方法技術および測定結果の考え方を、実験を通して習得する。衣服着用時の環境やヒトの生理・心理反応に関する知識を深め、測定方法を理解し、測定を行うことができることを目標とする。実験では、衣服を着用する環境（温度、湿度等）、衣服着用時のヒトの生理・心理反応（体温調節、衣服圧、動作、リラックス感等）、衣服の快適性に関連する衣服素材の保温性、通気性、汚れ等の測定方法、測定結果の考え方、測定結果から衣服が人間の快適性や安全性にどう関連しているかを学習する。	
			機能アパレル論		アパレルは、服種や着用者の年齢等に配慮した機能が必要である。そこで、様々な服種・着用者に求められる快適で機能的、安全で健康的なアパレルについて学習する。人体特性との関係から、様々な服種、着用者に求められる機能に関する知識を習得し、服種、着用者に対する留意点を考慮したアパレルの選択、今後の課題について主体的に考えることができることを目標とする。講義では、肌着、履物、スポーツウェア、寝衣等の様々な服種別、乳幼児、高齢者、身体障がい者等の着用者別に求められる機能を人体特性との関連から学び、アパレルの機能と快適性、安全性の関連や健康との関わり、アパレルを企画する際の留意点や問題点に関する知識を習得する。	
			テキスタイル環境学演習		繊維製品は製造過程や使用や保管中、その取り扱いや着用の過程で製品の耐久性、機能性などの消費性能が満足されず、苦情になる場合がある。代表的な品質苦情について事例紹介と苦情の種類・原因についての演習を行い、品質苦情を解決するための思考力の向上、原因究明のための技術習得を目指す。TES（繊維製品品質管理士）試験《事例》対策科目とする。演習内容：①色褪せ、②色移り（汚染）、③昇華、④縫製不良（破れ）など	

			卒業制作ショーの企画・演出・運営に必要な知識や技術、ノウハウを学ぶ。オムニバス形式で演習を行う。ゲスト講師や現場で活躍するプロフェッショナルをゲスト講師に招き、ファッションショーの歴史やトレンド、開催方法、モデルのメイクやウォーキング、舞台美術、音響効果、照明設計などについて学ぶ。最後に、この演習の成果として、里見祭期間中に行われる卒業制作ショーで役割分担を決め、舞台美術、音響効果、照明設計などの運営を実践することで、表現の仕方、コミュニケーション能力を養うことができる。	オムニバス方式・共同（一部）
			（オムニバス方式/全15回） （12 森本美紀／3回） （第1～3回）オリエンテーション、ファッションショーの歴史と社会的意義、時代に応じた演出 （5② 伊藤瑞香／3回） （第4～6回）和服での所作とウォーキング、照明効果と音響効果 （8 織田奈緒子／3回） （第7～9回）ヘアメイクの意義と演習、洋装のウォーキングについての解説と演習 （17 下之角千草／3回） （第10～12回）ショーの使用する映像の効果とオープニング、エンディング映像について解説と演習 （4 山本高美／2回） （第13・14回）ショー実施の計画と、舞台裏の準備について （12 森本美紀・5② 伊藤瑞香・8 織田奈緒子・17 下之角千草・4 山本高美／1回）（共同） （第15回）全員でまとめを行い、ショーの運営及び実施につなげる。	
材 料 ・ 加 工 ・ 整 理 科 目		繊維学実験	糸や布の原料となる繊維の構造や種々の性質を実験を通して系統的に理解することを目指す。「繊維学」の講義内容をもとに、繊維の基礎に関する理解を深め、基本となる諸性質の測定方法を習得する。授業内容：①繊維の形態的特性：光学顕微鏡による繊維側面および断面の観察、②燃焼性特性：加熱燃焼法による燃焼性の観察、③繊維構造および物理的・化学的特性：浮沈法や溶解法による繊維の密度測定、種々の溶媒に対する繊維の耐薬品性試験、種々の染料と繊維の相性を調べる着色法を用いた繊維の簡易鑑別、③混用織物素材の混用率測定	
		アパレル材料学実験	アパレル製品の材料となる布の構造や特性は、私達が着用する衣服の形態、機能、快適性等に影響を及ぼす。「アパレル材料学」の講義をもとに、アパレル製品の材料となる、糸や布の構造、布の外観等の特性に関する測定方法の技術を習得する。糸や布の構造、布の性能に関する知識を深め、測定方法を理解し、測定を行うことができることを目標とする。実験では、アパレル製品に用いられる糸や布の構造、外観、快適性等に関連する布の特性を、主にJIS（日本工業規格）で定められた方法で測定する。測定方法、各種測定結果の関連や考え方について学び、測定結果とアパレル製品の機能や快適性の関連に関する知識を習得する。	
		染色加工学実験	「染色加工学」の講義内容に基づいた染色および加工技術、試験方法などの基礎的な実験を行う。実験を通して正確な実験方法を理解し、安全な実験操作を習得するとともに、実験データの整理、グラフの書き方、実験レポートの書き方を学ぶ。授業内容：①綿布の糊抜き処理、精練、漂白処理、②酸・塩基滴定、③直接染料による染色、④分散染料による染色、⑤酸性染料による染色、⑥塩基性染料による染色、⑦酸性媒染染料による染色、⑧反応染料による染色、⑨染色堅牢度試験（試験布作製、試験実施、判定）	
		染織クリエーション	染織は生活に彩りや豊かさを与えるものであり、生活に欠かすことができない。アパレル用の生地は白地として用いる用途以外では、染料や顔料などを用いて染色されている。伝統工芸・手工芸染織の特徴や意匠を学び、染織に関する基本的な技術を習得する。授業はオムニバス方式で初回は合同、残りを7回ずつに分けて各課題に取り組む。 （オムニバス方式 全15回） （5② 伊藤瑞香・16 桑原里実／1回）（共同） （第1回）オリエンテーションにて授業目的、工芸染織概要の解説、評価方法の説明を行う。 （5② 伊藤瑞香／7回） （第2～8回）歴史ある伝統工芸として友禅染がある。三大友禅として京友禅、加賀友禅、東京友禅が挙げられる。これら三種の異なる特徴を解説することでその歴史と魅力を理解する。実際に東京友禅の技法を使って長襦袢の半衿の色付けを行い、自身着用の際に使用することができる。 （16 桑原里実／7回） （第9～15回）手工芸染織で模様をあらわす方法として、一般にろうけつ染めや絞り染め、ステンシルなどの技法が広く行われている。その中から絞り染め、および型染め技法による染織を行い、繊維製品の審美性を高める染色の意義を理解する。	オムニバス方式・共同（一部）
		アパレル整理学実験	「被服整理学」の講義内容に基づいた界面活性剤の性質や洗剤の洗浄力などの洗濯に関する基礎的な実験を行う。これらの実験に先立ち、水に関する分析実験も実施する。実験を通して界面活性剤の性質や市販洗剤に含まれているビルダーの特性などについて実践性のともなった知識として理解を深める。授業内容：①水の硬度測定、②表面張力測定、③界面活性剤の性質（可溶化、乳化、クラフト点、曇点）、④洗剤に含有する界面活性剤の定量、⑤洗濯試験（洗濯条件、ビルダーの効果、添加剤の効果など）	

			テキスタイルアドバイザー 実習		一級衣料管理士資格養成のため学外実習で、3年次期末試験終了後に約5日間集中して実施する。実習先には、公的な検査試験機関、百貨店（販売）、研究所などがある。内容は、販売や品質試験・苦情処理などがあり、それぞれの実習先で決められた課題を中心に学習する。また単に、繊維製品に関する知識を得るだけでなく、実社会での仕事を体得することにも意義がある。企業実習の前後に大学内にて事前学習会、事後実習報告会を実施する。	共同
			テキスタイル加工演習		繊維製品は製造過程や使用や保管中、その取り扱いや着用の過程で製品の耐久性、機能性などの消費性能が満足されず、苦情になる場合がある。代表的な品質苦情について事例紹介と苦情の種類・原因についての演習を行い、品質苦情を解決するための思考力の向上、原因究明のための技術習得を目指す。TES（繊維製品品質管理士）試験《事例》対策科目とする。演習内容：①色褪せ、②色移り（汚染）、③昇華、④縫製不良（破れ）など。	
	流通・消費科目		ファッション販売論		ファッション販売ビジネスの世界で十分に活躍できる販売の実務に必要な知識を習得するために、販売実務における理論的背景や仕組みを解説する。アパレル販売における業務を分類し、それぞれの業務目的を解説する。各回授業において、「ファッション販売2 ファッション販売能力検定試験2級公式テキスト」を使用しながら、その知識が実際の業務でどのように活用されているか事例を示しながら解説していく。毎回授業の最後に、ファッション販売能力検定2級合格を意識した小テストを実施する。	
			ファッションジャーナリズム論		ファッション業界に特化したジャーナリズムの基本原則と知識を身につける。この授業では、第一線で活躍しているファッションジャーナリストをゲスト講師として招き、デザイナーやクリエイター、ファッション企業の創業者などにインタビューをする前の準備知識やインタビュー技法、流行の分析方法について解説する。また、ファッション業界で活躍しているデザイナーやクリエイター、ファッション企業の創業者の生い立ちや日常を理解し、それを踏まえた正確な情報の収集と伝達方法についても学ぶ。	
	海外研修科目		海外服飾学研修	○	1830年に設立されたフランスのファッション教育機関である、AICP(Académie internationale de coupe de Paris)にて、本学との共同開発の5日間のオリジナルプログラムを履修する。AICPでは、パタンナーやモデリストを目指す学生に対して専門的な教育を提供しているが、それに加えてコラージュという手法を用いたデザイン発想の授業を実施し、デザインからトワル作成までの内容を一貫して行う。各自取り組む課題が違い、それぞれのレベルに合わせた個別指導ぞ中心としたプログラムとなっている。出発前に事前研修を行い、より効果的にプログラムを実施できるよう指導を行う。	隔年
			食品材料と食資源		食品材料と食資源では、食品とはどのようなものなのかを具体的に理解していくために、食品の分類方法のいくつかの種類を学ぶとともに、植物性および動物性食品の種類や由来、特性、食品成分やその機能性などについて理解を深めていく。合わせて、農産物の収穫、食品の生産や製造方法についても学んでいく。また、日本では世界各地の食資源を広く利用していることから、よりグローバルな視点から、食品利用の地域性なども学び、食品材料と食資源を通したライフデザインにおける広い視野を修得していく。	
			食品流通と経済		日本における食品の流通の歴史的な変遷、現状や課題、問題点について概説していく。さらに、様々な食品の特性をよく理解したうえで、日本で生産される農産物の生産や加工、食品衛生、包装材料、食品の保存や品質保持、食品の表示、マーケティングなどについても概説していく。また様々な食品の消費については、公開されているデータを利用しながら、現状について解析していく。それらの学びを通して、食品流通における問題点を探り、問題点があれば、その解決策を討論し、これからの日本の食品流通、そして持続可能な食のあり方を検討していく。	
			食品安全マネジメント		生活者として安全な食品を選択できるよう、飲食物に関連するリスクについての知識を身につけることを目的とする。危害要因や食品の安全性を確保する仕組み、実際に発生した食中毒事例や商品回収事例を取り上げ、事例が発生した理由と対策について理解を促す。さらに、食品の安全性を確保するための危害要因（微生物、化学物質、自然毒、汚染物質）や食品添加物、食品表示・規格についても解説し、科学的な食品選択の知識を提供する。	
			基礎調理学実習II		基礎調理学実習Iで学んだ調理学の知識と技術をふまえて、日本料理、西洋料理、中国料理のより専門的な料理を扱う。調理実習を通じて、調理学の理論と調理操作について解説する。調理学の理論に基づいた調理操作を理解し、適切な調理操作を選択して効率よく調理作業を行うことができるとともに基本的・応用的な調理技術を習得する。また、調理文化論に発展させ、食文化を背景にした献立と調理について実習を通じて考えることも目標とする。	
			食品学実験		食品に関連する授業で得た知識を踏まえたうえで、食品に関する性質について実際の実験を通して確認し、より理解を深めていく。具体的には、食品の主要成分である糖質、脂質、タンパク質、アミノ酸、ビタミン等の定性実験や一部定量実験も実施する。実際に実験を自ら体験することで、実験器具の正しい取り扱い方、実験結果のまとめ方についても理解する。実験によって得られた結果から、その結果について評価・考察し、レポートを作成していくことで、論理的な思考力や問題解決能力を養うことを目標とする。	
			食品官能評価演習		官能評価とは、人間の感覚を用いて食品の特性を測定し、嗜好度の違いを判定する手法である。食品の「おいしさ」を最終的に評価するのは人間であり、食品業界で一般的に用いられている方法である。本授業では、食品の品質を見極めるための官能評価の手順や方法を解説し、実際の調理品を用いて演習を行い、理解を深める。また、官能評価に関係する様々な統計手法についても、演習を通じて習得する。さらに、食品のレオロジーに関する分析手法について解説も行う。	

			フードデザイン演習		フードコーディネートの基本理念は「ホスピタリティ（もてなしの心）」と「アメニティ（快適さ）」である。様々な場面でフードコーディネートの基本理念に基づいた食事が提供できることを目標とする。日本料理・西洋料理・中国料理における食卓のコーディネート、サービスとマナー、メニュープランニング、食空間のコーディネート、フードシステムとフードマネジメントについて講義形式で解説する。そして、講義で学んだ知識を基に食企画を立案する。	
			生活と日本茶		日本における歴史や文化を象徴し、私たちの生活に身近な飲料である日本茶について、歴史的な成り立ちから、栽培、製造、化学的な成分、健康効果、茶の淹れ方、国内外での消費動向などを中心に、日本茶のすべてについて詳細に学ぶ。さらに、日本茶に係る様々なデータを収集し、それらを検証して考察していくとともに、日本茶と生活の基本となるライフデザインとの関わりについても検証していく。そして、日本茶の学びで得たすべての事がらを他者に正しく伝承できるようになることを目指す。なお、この科目の単位を修得することで、「日本茶アドバイザー資格」（NPO法人日本茶インストラクター協会が認定する資格）を申請することが可能である。	
			社会変動と家族		わが国の家族および生活構造は、社会変動とともにこれまでどのように変化し、少子高齢社会を迎えた現在どのような状況にあるについて、歴史的かつ国際的な比較を加えながら解説する。本講義では、統計データ(国勢調査データおよび全国規模の無作為抽出標本データ)、文献・資料、視聴覚教材等を用いて、生活構造論、家族社会学、福祉社会学の視点から、個人・家族生活・地域社会の変化をとらえ直す。また、社会調査法および社会統計学の基本的な知識や具体的方法についても紹介する。	
			福祉住環境論		高齢者・障がい者の特性、および今日の超高齢社会における住環境改善（福祉住環境整備）の意義を理解し、現代の福祉住環境に関する基礎的理論とその具体的な手法を習得することを目指す。誰もが幸せに生きるための暮らしやすい生活環境、高齢者や障がい者の自立、バリアフリー、住まいの整備のための基本技術、安心できる住生活、福祉のまちづくりなどを学ぶ。また、実際に住宅図面を用いて住環境改善グループワークを行い理解を深める。福祉住環境コーディネーター検定試験にも対応する講義とする。	
			住空間デザイン		住宅図面の書き方、住宅模型の作り方、透視図法（パース）の描き方など、住空間を表現するための基礎的な知識とその手法を実践的に演習形式で学ぶ。建築製図の道具やルール、平面図、立面図、断面図などの各種図面、代表的な透視図法（パース）の概念および理論、インテリア計画などから、住空間のデザインに求められる基礎力を習得することを目指す。また、住空間をわかりやすく表現する作品づくりに取り組み、その効果的なプレゼンテーションスキルを養う。	
			居住環境演習		住まいを取り巻く居住環境に着目し、身近な地域施設やまちの実態をとおして多世代が居住する地域環境のあり方に関する基本的な知識を身に付けることを目標とする。具体的には、子どもや高齢者を取り巻く居住環境および地域施設、住宅政策、まちづくり、社会的課題である空き家問題などを扱う。身近な居住環境への関心を高められるよう、フィールドワークや施設見学など実際の現場を体験する機会を設け広い視野を養う。演習の中でグループワークやプレゼンテーションも行う。	
			ユニバーサルデザイン演習		ユニバーサルデザインについてオムニバスの演習形式で学び、すべての人の生活環境改善に向けた基礎的知識を養うことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （15 金指有里佳／7回） （第1～第7回）身近な建物やまちにおけるユニバーサルデザインの実態から課題を整理し改善計画を提案できるよう解説する。車いすなどを用いてユニバーサルデザインの視点から大学キャンパスの点検を行い、誰にも安全で利用しやすい環境づくりを学ぶ。 （9 柴田優子／4回） （第8～第11回）各ライフステージの身体形態と身体能力、そして生活行動にあった衣服について概説する。 （14 池谷真梨子／4回） （第12～第15回）すべての人が安全で楽しい食事を実現できる環境について考える。具体的には、食事内容、食器、食具、食事空間、調理器具、食品容器におけるユニバーサルデザインについて実習と演習を通して学ぶ。	オムニバス方式

家政福祉コース 専門応用科目		児童文化		授業形態は講義とする。児童文化に関する概念や歴史について学び、児童文化が子どもの成長に与える影響についての理解を深めることを目標とする。授業では、児童文化とは何か、児童文化の歴史、伝承文化と生活文化、様々な児童文化財（文学、玩具、映像、童歌、演劇、紙芝居等）を取り上げ、児童文化の意義と役割を考えていく。子どもの成長・発達に「文化」はどのように関連しているのかについて、「遊び」「子育て」「教育」の視点から概説していく。	
		多文化共生		授業形態は講義とする。本講義は、多文化共生とはどのような社会であるか、その基本的な概念と歴史的背景を学び、様々な文化に対する理解を深める。外国籍のこどもや外国にルーツを持つこどもへの教育的支援のあり方について、社会・歴史的背景や実践的取り組みを踏まえ、多角的に考察する。 また、多様な文化をもつ子どもに対して、教育現場で使用されている児童文化財や書籍等教材に関する国内外の事例を取り上げ考察する。そのうえで、多文化共生を実現している保育所・幼児教育施設等への見学を実施し理解を深めていく。 授業目標は、①異なる文化や背景を有する人々に対する理解を深め、教育現場で活用できる知識を身につける。②今日の多文化共生における諸課題を見出し、その課題解決を考えることができる、の2点である。	
		ソーシャルワークの理論と方法I		ソーシャルワーカー・社会福祉士が行うソーシャルワーク（社会福祉の援助）の理論と方法を把握できるようにするため、ソーシャルワークの基本となる考え方、実践モデルとアプローチ、過程などを概説する。システム理論、生態学理論といった人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて学び、ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ、ソーシャルワーク援助過程とそれに係る知識と技術について学ぶ。人と環境との交互作用に関する理論、ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロレベル、ソーシャルワーク援助過程、さまざまな実践モデルとアプローチについて理解し、生活課題（ニーズ）がある人々に対する支援に必要な知識を身につけることを目標とする。	
		ソーシャルワークの理論と方法II		コミュニティワーク、ソーシャルワークの記録、スーパービジョンなどを解説し、ソーシャルワーカー・社会福祉士が行うソーシャルワーク（社会福祉の援助）の理論と方法が理解できるようにする。具体的な内容としては、ソーシャルワーク面接の方法と実際、ソーシャルワークの記録の目的や方法、エコマップの活用、ケアマネジメントの原則や方法、集団を活用した支援（グループワーク）の原則や展開過程、コミュニティワークの概念とその展開、ソーシャルワークにおけるスーパービジョン、ソーシャルアドミニストレーションの概念と意義、組織経営と財源、ソーシャルアクションの概念と意義などについて学ぶ。ソーシャルワーク援助実践に必要な知識を身につける。	
		ソーシャルワークの理論と方法III		多様化・複雑化する生活課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法について理解する。ソーシャルワーカーがクライアントに支援を提供するために必要となる援助関係の構築や、社会資源の開発について学習し、その知識をもとに具体的な事例を見立てる視点と力量を養う。講義や演習を通して、ファシリテーションやプレゼンテーションなどの専門的技術を体験的に理解し、メゾ・マクロレベルのソーシャルワークに関連する技法を体得することを目指す。	
		ソーシャルワークの理論と方法IV		「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」で学んだことを踏まえて、社会福祉実践におけるカンファレンスや事例分析、個人情報保護、家族支援の課題と方法などについて学習し理解を深める。また、多様な事例の分析・検討を通して、社会福祉における現代的な課題とその背景となる社会問題の理解を深める。これらの学習を通して、ミクロ・メゾ・マクロの視点から地域生活課題をとらえ、ソーシャルワーカーとしてその解決に向かうことのできる専門知識と技術を総合的に修得することをめざす。	
		地域福祉の理論と方法I		地域福祉の基本的な考え方と視点を身につけることを目標として、地域福祉の歴史的展開、地域福祉推進にかかわる人・機関・制度の仕組み、地域福祉の方法論について学習する。講義や調べ学習、グループワーク等を通して、地域社会の現状と住民の生活課題を捉える視点を養い、地域での暮らしを支えるシステム構築とソーシャルワーク実践について理解を深める。人びとの地域生活に関心をもち、社会との切り結びを通して、住み慣れた地域で暮らし続けるための包括的支援体制について理解する。	
		地域福祉の理論と方法II		「地域福祉の理論と方法Ⅰ」で得た基礎知識をふまえ、統計データや資料から地域社会の姿を読み取る方法および実践的な視点から地域福祉についてさらに理解を深める。社会的孤立問題などの現代的諸課題を学び、地域福祉のあり方・展望について考察する力を身につけることを目的として、社会福祉協議会活動や民生委員・児童委員、ボランティア・市民活動、福祉教育などの地域福祉の方法論や推進主体について学習する。また、地域福祉実践事例を用いて、地域生活を支援するソーシャルワーカーの視点と方法を理解することを目指す。	

社会福祉系	権利擁護と成年後見		ソーシャルワークに必要な権利擁護の理念を理解し、その法的根拠を理解するとともに法の理念を知り、実際の権利擁護支援業務を円滑に行える基礎知識を涵養する。ソーシャルワークに必要な法の基礎体系を説明し、民法、行政法などとソーシャルワークと関係性の深い法律・制度を概説する。ソーシャルワークに係る権利擁護と成年後見制度を実際の貢献事例などを確認しながら解説する。社会福祉ソーシャルワークに必要な法・制度を学び、法・制度の理念や基本的姿勢について理解し、権利擁護の意義を理解し、関連する法律の基礎を身につけ、成年後見に係る法律・制度を理解し、実際のソーシャルワークに活かせる知識を得ることを目標とする。	
	刑事司法と福祉		刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境、刑事司法・少年司法・更生保護制度・医療観察制度・犯罪被害者支援について解説するとともにソーシャルワーカーがどのようにかわっているのか解説する。主に講義形式とするが、受講生に自らの考えを表明する機会を設ける。これらの学習を通して、刑事司法にかかわるソーシャルワークについて理解し、法に触れる行為をした高齢者や障害者への相談支援における基礎的知識の修得を目標とする。	
	保健医療と福祉		ソーシャルワークに必要な保健医療の動向を知り、保健医療政策、制度、サービスを理解する。また、保健医療領域における社会福祉士の役割を学び、保健医療の課題を持つ人への適切な支援方法を学ぶ。保健医療的課題を有する人と関わる医療従事者や医療ソーシャルワーカーが中心となるが、地域包括ケアや地域共生社会の構築においては、ソーシャルワーカーが直接係わることが多い。授業ではソーシャルワーカーが保健医療の課題を抱える対象者に接する場合に必要な保健医療に関する基礎的な知識を中心に概説する。授業では、保健利用の動向を理解し、保健医療政策、制度、サービスの基礎を身につけ、保健医療が題のある人を対象としたソーシャルワークについて理解することを目標とする。	
	福祉サービスの組織と経営		本講義では、福祉サービスについてその特徴を利用者、事業者の立場から理解する。併せて、サービスを提供する組織とその経営管理について基礎的な知識を身につけることをテーマとする。具体的には、授業テーマに応じて課題設定し、グループディスカッションなどアクティブラーニング方式を活用し、議論をしながら福祉サービスの本質が理解できることを目指す。また、経営指標についてはその基礎を学び、経営指標を読みこなせる知識が身につくように授業をする。事業収支計算ができることを目指す。福祉サービスの特徴とその事業経営の基礎知識を習得し、具体的には福祉事業の経営指標を理解し、無形サービスの特徴と問題を学び、福祉経営について、議論する知識と経営課題を説明する表現力、課題解決力を身につけることを目標とする。	
	社会調査の基礎		社会福祉領域における多様で複雑な事象を適切に理解し説明できるようになるために、社会調査法および社会統計学の基本的な知識や具体的方法を概説する。社会福祉調査の特徴を理解し、量的調査の方法、質的調査の方法について一部演習を取り入れつつ具体的に概説する。調査目的に応じた具体的な方法を選ぶようになるために解説をおこなう。そして調査の計画・実施・分析という一連の過程を遂行する上で必要な知識や技法について説明をおこなう。	
	ソーシャルワーク演習I		ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められるソーシャルワーク実践に必要な基礎的な能力を身につけられるように、価値規範・倫理、コミュニケーション能力、ソーシャルワーク展開過程に必要な知識と技術に関して、演習を行いながら学ぶ。自己理解と他者理解、自己覚知、児童・高齢者・生活困窮者などのさまざまな事例を用いながらのソーシャルワーク援助実践、グループダイナミクスの活用したソーシャルグループワークとその展開過程、プレゼンテーション技術などについても、演習を通して実践的に学ぶ。	
	ソーシャルワーク演習II		社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識・技術などに関して、演習形式で支援対象者に対する分野横断的な包括的支援を用いながら学ぶ。そして、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な包括的支援、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、さまざまな実践モデルとアプローチを用いながらのソーシャルワーク援助について、実践的に理解する。虐待、貧困、認知症、集団（グループ）、終末期ケアといった事例を用いて実践的に学び、ソーシャルワーク援助実践ができる知識やスキルを身につけられるようにする。	
	ソーシャルワーク演習III		ソーシャルワークのプロセスに沿って、援助方法のバリエーションを事例の検討などを通して理解する。社会福祉分野における専門援助技術（ソーシャルワーク）を、事例研究、ロールプレイ、などを通して習得する。また、社会福祉分野における専門職（ソーシャルワーカー）に必要な姿勢・価値について事例等を活用して理解する。課題領域ごとにその実際の状況や背景となる社会的要因を理解し、必要な応答及び援助の方法を系統的に組み立てることができるようになることを目指す。	
	ソーシャルワーク演習IV		社会福祉課題を的確に捉える力を養い、地域での総合的かつ包括的な支援の展開および地域福祉の基盤整備に関するソーシャルワークの専門的知識・技術に関する理解を深める演習を行う。事例検討および演習を通して、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みについて実践的に理解する。ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に学び考察する。	
	ソーシャルワーク演習V		演習 高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設等の実習先での事例について、グループワークでの事例検討を通じて、利用者理解を深めるとともに、具体的な援助や専門的な援助技術について理解を深める。演習は主にグループワーク形式で行い、まとめた内容についてプレゼンテーションを行う。これらの学習を通して、ソーシャルワーカーとして専門的な相談援助技術を概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を獲得することを目標とする。	

			ソーシャルワーク実習指導 I		社会福祉士の役割と機能について学習してきたことを踏まえ、必要な知識、技術、倫理などを身につけるソーシャルワーク実習の意義を理解し、実習の構造やスーパービジョンについて学習する。福祉施設の見学やグループ討議、演習などを通して、ソーシャルワーク実習を行う実習先施設や機関に関する基礎的な知識を習得する。また、社会福祉実践の学習・演習を通して、専門職に求められる役割や専門性、倫理等について理解する。実習で学ぶべき10項目を軸に、自分自身が実習で取り組むべき課題を明らかにし、具体的な事前準備やその計画作成を進める。	共同
			ソーシャルワーク実習指導II		ソーシャルワーク実習を効果的に行い、ソーシャルワーク援助実践に必要なものを身につけられるよう、実習への準備、実習中の助言指導と考察、実習後の振り返りが実施される。まず、実習先に関する基礎的な知識と実習計画書の作成方法、実習で学ぶべきソーシャルワーク10項目について学ぶ。社会福祉士として求められる専門職の役割や知識、技術、職業倫理についても確認する。次に、実習中において、さまざまな事柄について考え、助言指導を受け、考察を深める。実習記録ノートの作成や実習で学ぶべきソーシャルワーク10項目の進捗状況についても確認する。実習後は、実習全体の総括レポートの作成、ソーシャルワーク10項目の実績報告の作成をし、それについての助言指導を受け、完成させる。	共同
			ソーシャルワーク実習指導III		演習 集団指導、個別指導を通じて、ソーシャルワーク実習を振り返るとともに、他の学生の実習体験を聞き、自己の実習課題の達成状況を確認し、実習報告書の作成を指導し、発表会でプレゼンテーションする。なお、この発表会には、後輩の学生も参加できるように配慮する。【到達目標】 ソーシャルワーク実習を振り返り、実習課題の達成状況を自己理解し、実習報告書を作成し、パワーポイントを準備して発表会に臨む。	共同
			ソーシャルワーク実習I		実習指導者と連絡を密にし、学生の状況を把握しながら、利用者や関係者との基本的なコミュニケーション、人間関係の形成、利用者理解とそのニーズ把握及び支援計画の作成、利用者や家族との援助関係の形成、権利擁護・ストレングス・エンパワメントの視点による支援とその評価、チームアプローチの原理、組織の一員としての役割と責任、地域社会への働きかけ、社会資源の活用等について、60時間以上の実習を通じて指導する。実習を通じて、ミクロ・メゾ・マクロの視点から、利用者との関係形成や環境への働きかけ、相談援助プロセス、計画作成、施設・機関の役割や運営、関係する各法制度等を実践的に理解することを目標とする。	共同
			ソーシャルワーク実習II		実習指導者と連絡を密にし、学生の状況を把握しながら、利用者や関係者との基本的なコミュニケーション、人間関係の形成、利用者理解とそのニーズ把握及び支援計画の作成、利用者や家族との援助関係の形成、権利擁護・エンパワメントの視点による支援とその評価、チームアプローチの原理、組織の一員としての役割と責任、地域社会への働きかけ、社会資源の活用等を理解し、200時間以上の実習を行い、指導する。実習を通じて、ミクロ・メゾ・マクロの視点から、利用者との関係形成や支援計画の策定及び相談援助プロセス、施設・機関の役割や運営、関係する各法制度等を実践的に理解することを目標とする。	共同
			こどもの発達		授業形態は講義とする。こどもの心と身体の発達を理解し、発達援助技術に関する基礎的知識の獲得を目標とする。 授業では、こどもの発達を理解する意義、子どもの心身の発達過程、発達課題とは、生涯発達の特徴、遊びの発達、社会性の発達、乳幼児期の発達がその後の発達に及ぼす影響、学びとは何か、保育における発達援助（個に応じた発達援助、課題に応じた発達援助）、発達援助における協働（保育者間の協働、家庭との協働、専門機関との協働）等について事例をもとに多面的に学んでいく。	
			社会的養護論		児童福祉論で学んだことをふまえ、わが国の社会的養護の歴史の変遷について学習し、現代社会における社会的養護の意義と役割について考察する。子どもの権利擁護の視点から、現代の社会的養護の制度や実施体系について総合的に学習する。家庭養護については、里親制度とフォスタリング機関の役割および特別養子縁組との共通点と相違点について学ぶ。施設養護については、乳児院や児童養護施設におけるケアの実践について事例をもとに学習し、小規模化や家庭的支援など、社会的養護・社会的養育の動向について理解する。	
			社会福祉と食支援		福祉分野の「児童福祉」「障害者福祉」「高齢者福祉」を食の視点から考える。具体的には、児童、障害者、高齢者の食べる機能とその機能に応じた食事内容、食事援助、食事環境について実習と演習を通して学び、福祉において食支援を行う意義を考える。また、児童養護施設の児童の自立に向けた食支援、母子生活支援施設の母親の食支援プログラム等を立案し、実践、評価、改善を行い、福祉分野における食支援の現状と課題について考える。	
			アダプテッドスポーツ論		障がい児・者や子ども、高齢者のスポーツ活動に焦点をあて、これまでに開発されてきた国内外の活動や現状を学び、多様な人たちが積極的にスポーツに関わることの意義を理解する。また、現代の制度や取り組みにおける問題点を考え、よりよい活動を実現するための方策をグループワークで模索する。さらに、援助する立場からの幅広い考え方を身につけ、対象者や環境に配慮した適切な援助法について考える。	

学 科 総 合 科 目	生活環境演習Ⅰ		衣、保育、食分野を対象とし、地域社会との連携を意識した3種類の演習授業を行う。各専攻に所属する学生は、自らの専攻に関わらず、いずれか1種類の授業を選択し、実践的な問題解決を目指した参加型授業に取り組む。「生活環境演習Ⅰ」では、主に企画の立案に焦点を当て、学生同士で話し合い、実際の運営についても議論を深めながら、最終的に具体的なテーマを決定する。	共同
	生活環境演習Ⅱ		「生活環境演習Ⅱ」では、「生活環境演習Ⅰ」での学びを引き継ぎ、連続性のある演習授業を展開する。学生がⅠで企画したプログラムを実際に地域社会で実施し、現場での経験を通じてその効果や課題を検証する。その後、振り返りや総括を行い、自己評価とグループディスカッションを通じて理解を深める。これらのプロセスを通じて、学生は地域社会との連携の重要性を理解し、実践的なスキルや問題解決能力を養うことを目指す。	共同
	きもの着装演習		長い歴史を持つ和服は、着装の着方によって年齢や、個性を表現することができる。その特徴を把握し基本的な着装方法を、長沼静きもの学院のカリキュラムに沿って行う演習科目である。着物のTP0を理解し、自分で着装する楽しみを味わい着崩れ等の対処もできるようになる。また障害者用の着付けについても触れ、長沼静きもの学院の「きもの講師3級」の受験資格を得ることができる。授業内容：長沼静きもの学院の本科カリキュラムに沿って授業を行う。長着にとって大切な土台となる、肌襦袢、補整の仕方を学び、長襦袢に半衿をつけ、着方へと進める。夏前には浴衣・半幅帯のコーディネートを考えながら自装と他装を行い、他装では相手に着付ける際の配慮点等も学ぶ。浴衣後は普段着の着装と「みはま姿」を使用した名古屋帯へと進める。装いの調和やTP Oについても解説をする。障害者用（車イス）の着付けも含む。15回目の授業では「きもの講師3級」の試験を行う。	
	睡眠改善学		睡眠不足や不眠は、肥満、高血圧等の生活習慣病や抑うつリスク等を高め、様々な健康被害をもたらすだけでなく、居眠りによる甚大な事故にも繋がる。睡眠の科学的な基礎知識、日常生活の工夫による睡眠改善技術を習得することを目指す。講義では、睡眠と心身の健康、一晩の睡眠の構造、睡眠時の体温や自律神経活動等の生理現象、生体リズムについて学習する。さらに、睡眠環境、睡眠と運動、子どもの睡眠、社会と睡眠、睡眠障害を理解し、日常生活の工夫による睡眠改善技術を習得する。	
	デジタルデザイン演習		色彩やレイアウト、タイポグラフィなどのデザインの基本原則を学び、その後、基本的なデザインツールやソフトの種類を知り、使い方を習得する。ファッション、住環境、福祉等の分野における「生活の中でのデザイン活用方法」に触れ、テーマやコンセプトの設定方法とそれらに沿ったデザイン構築について演習を行う。生成AIのデザイン分野での基本的な活用法を紹介し、初心者向けの応用例を探ることで、次のステップへ進むための基礎を固める。最後に、各自のポートフォリオ作成を通じて学んだ成果をまとめる。	
	アントレプレナーシップ論		ここ数年、世界で活躍する若き起業家が増えている。起業家するための知識と技術を身につけるため、基本的な考え方や戦略について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (12 森本美紀／13回) (第1～12回・15回) 起業する際に必要な創造性、リーダーシップ、リスクテイキングなどの要素をはじめ、成功する起業家を持つべき市場分析、競争戦略、財務計画、マーケティング戦略、商品戦略、流通戦略などについて説明する。また、ゲストスピーカーを招き、事例研究による実践的な課題の解決などを通じて、実践的な視点での学びを促進する。この授業を通じて、起業家としての才能を発揮し、将来のビジネスに向けて一歩踏み出すことを目指す。第15回に総括を行い、レポートを提出させる。 (11 高木憲司／2回) (第13・14回) 福祉関係のNP0や社会的企業等の切り口で団体・企業活動を紹介する。	オムニバス方式
	アントレプレナーシップ演習		アントレプレナーシップ論の学修を踏まえ、ビジネス社会で、実践的な経験を積むための演習科目である。 (オムニバス方式／全15回) (12 森本美紀／11回) (第1～10回・15回) 起業家であるゲスト講師の協力を得ながら、実際に起業家としての実践力を身につける。演習は、グループに分かれ、市場調査やビジネスプランの作成、プレゼンテーションなどの課題を通じて、起業家としての方法や戦略を磨き、また、効果的なリーダーシップやチームワークの構築についても学び、実践的な経験を通じて自己成長を促す。第15回に総括を行う。 (11 高木憲司／4回) (第11～14回) 障害福祉サービスにおけるレストランやパン作り、皮革工芸などの企画演習（アイディア出し）を実施する。	オムニバス方式

		インクルーシブアートⅠ		授業形態は講義とする。障がいの有無や性別、年齢、国籍等にかかわらず誰もが参加できる芸術活動について、国内外の制度や実践事例から、その理念と具体的内容および留意点を理解する。また、一連の学びを通して、多様性を尊重した共生社会についての考えを深めていく。 具体的には、インクルーシブアートの理念と制度、国内外の事例（ダンス、ミュージカル、造形、美術館、博物館、自治体、教育機関等における取り組み）について主体的に学び、実践につなげるための計画を立てる。	
		インクルーシブアートⅡ		授業形態は演習とする。本講義は「インクルーシブアートⅠ」の発展科目として、障がいの有無、年齢や性別、国籍、文化的背景等に関わらず、誰もが参加可能な文化芸術活動を企画し、実施することを目標とする。プロジェクトの一環として、多様性を尊重し、誰もが心地よく着られる衣装を提案・製作する。さらに、総括として活動成果を発表し振り返る機会を設ける。一連のインクルーシブアート活動を通して、異なる背景を持つ人々と交流し、社会の多様性を相互に共感、理解することで共生社会の実現について理解を深めるとともに、参加者の表現力を高め、自己表現の幅を広げることを目指す。	共同
服飾造形コース 卒業論文等		服飾造形ゼミナール	○	卒業論文または卒業制作のいずれかのゼミを選択する。卒業論文は論文の収集と論文内容を主体的に考え、卒業論文を円滑に進めるための基礎知識を習得することを目標とする。卒業制作は制作する作品のデザインを、制作物の歴史や模様等も理解した上で表現できることを目標とする。卒業論文では、繊維の染色・加工、被服や寝具の快適性と安全性、ファッションビジネスのいずれかの分野について、卒業論文に向けてテーマに関連する文献収集を行い、研究計画や研究実施（実験、調査等）の準備を行う。卒業制作では、和裁と洋裁のいずれかの分野について、卒業制作に向けたコンセプトとテーマの設定を文献や資料検索から検討し、ディスカッションを通して考察する。	
		卒業制作・卒業論文	○	服飾造形学専攻は、4年間の集大成として、卒業制作または卒業論文のうちどちら一方を選択する。 卒業制作については、卒業制作ショーに向け、作品を制作し、ショーで発表する。テーマを決定し、根拠のあるものづくりを目指し、内容をポートフォリオをまとめるとともに、作品を完成させる。ゼミ内でのプレゼンテーション・ディスカッション・フィールドワークなどを行い、適宜制作に向けての過程を解説する。 卒業論文については、論文を執筆し、その内容を発表する。具体的には、興味のある研究テーマと関連する領域や事項を各自で決定し、研究・調査・実験などを実施する。文献検索の方法、卒業論文の構成とその内容、執筆方法、実験や調査研究の概要や進め方について説明をする。各自の研究テーマを決定し、テーマに関する論文や必要な記事や実験データの収集と活用方法についても解説する。	
家政福祉コース 卒業論文等		家政福祉ゼミナール	○	4年次に取り組む卒業研究に向けて、研究遂行に必要な基礎知識・技術を修得することを目指す。衣生活、食生活、すまいと住環境、家族、福祉、保育、消費生活などの生活科学や社会福祉学領域に関する知識を基盤とし、研究テーマの選定方法について学び、実験・調査・文献研究の基礎的な方法について理解する。基礎文献の精読や輪読、研究手法の学習と修得、卒業研究発表会への出席などを通して、卒業研究で取り組むテーマの選定と研究計画の作成をめざす。	
		卒業制作・卒業研究	○	4年間の集大成として、各自の興味と関心にしたがって研究テーマを決め、1年間の計画を立てて卒業研究を行う。実験を中心とするもの、文献研究を中心とするもの、社会調査の手法を用いて意識調査やインタビュー調査等を実施するものなど、研究方法はテーマに応じて選定する。ゼミ全体では、研究デザイン、科学論文の作成方法、実験の計画と実施方法、文献調査、量的または質的調査等によるデータ収集と分析方法、プレゼンテーション等について指導する。	

教職の指導法に関する科目	家庭科教育演習		中学校、高等学校家庭科の学習内容について、領域別（衣生活、住生活住、家族・家庭生活）の専門的知見と今日的課題との関連性や、授業での取り扱い方などについて事例を通して学び、実践力を養う。さらに発展的な指導方法や、領域を越えた学びなどについても探究する。これらの教材研究を通し、各分野における家庭科の授業での課題設定や効果的な指導方法を考えたり、その指導のための教材開発を行ったりする。 （オムニバス方式／全15回） （9 柴田優子／6回） （第1～第6回）衣生活領域の教材研究や指導方法および領域横断的な教材研究や指導方法について学ぶ。 （10 大日義晴／3回） （第7～第9回）家族・家庭生活領域の教材研究や指導方法について学ぶ。 （15 金指有里佳／6回） （第10～第15回）住生活領域の教材研究や指導方法について学ぶ。	オムニバス方式
	家庭科教育論I		家庭科の学びの広さと楽しさ、教科としての重要性が具体的にわかるように、わかりやすく解説する。家庭科教育が目指すものや生徒の生活を対象とする大切さ、生徒自身と家庭・地域・社会とつながる必要性、家庭科の学習指導要領や教科書の読み方・扱い方、さまざまな授業の進め方、ICT活用方法などを学習する。家庭科の教科の特徴がわかる、家庭科教育が生徒を育てるだけでなく、教師を育てることにつながることを理解する。	
	家庭科教育論II		家庭科教育法Ⅰを基礎として、中学校・高等学校の家庭科のより具体的な各領域の授業内容について概説する。教材研究からの学習指導案の作成、単元の指導計画や年間指導計画、評価方法を学んだ上で、各領域（家族・家庭生活、保育、食生活、衣生活、住生活、消費生活・環境、高齢者、共生社会）の小・中・高での指導内容および指導方法と教材研究を学ぶ。ICTを活用しながら授業実践例を多く取り上げて、授業の作り方を学習していく。 （オムニバス方式／全15回） （9 柴田優子／13回） （第1～10・13～15回）中学校・高等学校の家庭科の評価を考えることから始まり、教材研究から学習指導案への展開および学習指導計画の作り方を説明する。さらに、保育・食生活・衣生活・住生活・高齢者・共生の授業づくりについて概説する。 （25 鎌田浩子／2回） （第11・12回）家族・家庭生活および消費生活・環境の授業づくりについて概説する。	オムニバス方式
	家庭科教育法I		学習指導要領を理解し、指導方法および知識・技能を習得して、模擬授業の実践を行う。これにより、中学校・高等学校の家庭科教員にとって必要な知識と授業展開能力を養う。家庭科教育における教育目標および育成を目指す資質や能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解するなどの教材研究をした上で、単元の指導計画をし、学習指導案の作成をして、その授業を実施するための教材・教具を準備して、模擬授業を実践する。 （オムニバス方式／全15回） （9 柴田優子／9回） （第1～8・15回）家庭科教育や家庭科の授業、家庭科の学習領域と学習方法、家庭科の学習領域と学習活動および学習評価、家庭科における学習形態などについて概説する。さらに、小・中・高における家庭科の学習の相違および連携や家庭科の指導計画、中学校の家庭科の授業観察について説明する。保育領域の授業についても説明する。 （25 鎌田浩子／4 6回） （第9～14回）家族・家庭生活領域、高齢者領域、家族・家庭生活領域、高齢者領域の授業について概説する。	オムニバス方式
	家庭科教育法II		家庭科教育法Ⅰを基礎に、学習指導要領を理解し、指導方法および知識・技能をより深く習得して、模擬授業の実践を行う。これにより、中学校・高等学校の家庭科教員にとって必要な知識と授業展開能力を養う。家庭科教育における教育目標および育成を目指す資質や能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解するなどの教材研究をした上で、単元の指導計画をし、学習指導案の作成をして、その授業を実施するための教材・教具を準備して、模擬授業を実践する。 （オムニバス方式／全15回） （9 柴田優子／10回） （第1～3・5～8・11・12・15回）食生活・衣生活・住生活領域の授業について概説する。さらに、ICT機器を活用した授業や複合領域学習、生活課題解決学習の授業について概説する。 （25 鎌田浩子／5回） （第4・9・10・13・14回）消費生活・環境領域の授業について概説する。	オムニバス方式

	教育原理（教職）		ヒトが人になるとはどのようなことか、教育の必要性と可能性、人間性と教育、教育の理念・目的・目標、教育・幼児教育の歴史・思想、内容、方法、学校教育等の基本的概念等を解説する。また、教育の歴史的考察を踏まえた上で、身の回りにある具体的事例を通して今日的な教育課題を考えられるようにする。教育を学ぶにあたって基礎的・基本的な概念や事項、ものの見方・考え方を理解する。また、これまでの教育及びその営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解し、教育の今日的課題を考えられるようにする。さらに教育の実際に対応できる地盤を形成することを目的とする。到達目標は、①教育の基本的概念を身に付け、教育が成立する諸要因を理解する。②教育史の基礎を理解し教育及び学校の変遷を理解する。③教育の思想や理念を理解すると共に実際の教育・学校との関わりを考えられる。	
	教職入門		教職の意義、教員の役割と資質能力、教員の職務内容、教員の義務と身分保障、更にチーム学校としての組織的な対応と関係機関等との連携の重要性を概説する。具体的には、①学校教育や教職の社会的意義を理解する②教員に求められる役割や資質能力を理解する③教員の職務内容や服務上・身分上の職務を理解する④学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性を理解する。⑤教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身につけ、教職への意欲を高め、更に適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解することを目標とする。	
	教育行政学		教育や学校に関する個別テーマを毎回の授業主題として設定し、教育行政・教育行政学の見地から検討することを通じて、日本の教育制度の意義・原理・構造の法的・制度的仕組みを理解する。そして、さまざまな教育課題について、事実やデータに基づいて自分の見解を伝えることができるようになることを本授業の目的とする。本授業は、講義が中心となるが、授業人数を踏まえ、可能な限り学生参加型授業（ディスカッション・グループワーク等）を組み合わせて行う。 各回ごとに、授業資料を事前に配布するので、受講生が「事前教材」を授業前に事前学習をしてから授業に臨むスタイルで行う。また、毎回の授業では、リフレクションシートを用い、コメントの記載を求めるとともに、その記載内容を受講生全体にフィードバックすることで、理解の促進を図る。	
	教育心理学		教育の深化において発達を理解は必須である。本授業ではまず、発達の理念や規定因など発達に関する原理を教授した上で思春期の発達の独自性や有名な発達の理論を教授する。そのうえで子どもたちの学習を支える動機づけや学習理論、教授方法などを教授する。さらに社会心理学の知見を学びながら、よりよい学級集団のあり方について教授する。具体的には、①発達の原理を学び発達と教育との関わりについての理解②様々な発達理論と思春期の発達の理解③個と集団の発達についての理解④障害と特別支援教育の理解を目標とする。	
	特別支援教育論		我が国では、平成19年度まで障害児に対して「特殊教育」という枠組みの中で教育が行われてきた。これを境に障害の対象が広がり、新たに「特別支援教育」という枠組みが採用され、今日ではインクルーシブ教育システムを構築する段階に至っている。現在、少子化が進む中で、義務教育諸学校や高等学校等は縮小化され統廃合が進んでいる。一方、通常学級に在籍する障害（特に発達障害）のある幼児、児童及び生徒だけでなく、特別の支援を要する幼児、児童及び生徒の数は増加し、特別支援学校や特別支援学級に在籍する障害のある幼児、児童及び生徒の数も大幅に増加している。本授業の目標は、受講生が卒業後教職の場等において、様々な個の教育的ニーズに対応した教育や支援を展開できるための基礎的な内容を学ぶことにある。その際、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援の方法についても理解を深める。	
	教育課程論		学校における教育活動の全体計画である教育課程の意義、各学校で編成する際の方法等の基礎的知識を講義する。加えて、基準となる学習指導要領の変遷と現状、教育課程編成の思想や制度の歴史を解説する。また、領域・教科・学校種をまたいでカリキュラムを把握し、社会に開かれた学校教育課程のマネジメントの意義を伝える。実際の教育課程や指導計画の分析を通じた、立案・実践・評価といった教育課程編成の具体的方法の習得については、演習的活動を取り入れる。小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を基準として、小・中・高校において編成される教育課程について、その意義や基本的事項、編成方法等を理解すると共に、各学校等の実情に合わせてカリキュラム及びマネジメントを行うことの意義を理解する。	

教職に関連する科目	道徳教育の指導法		道徳の本質、道徳教育の歴史と今日的課題、道徳教育及び道徳科の目標と内容、道徳科の様々な指導方法等を概説するとともに、学習指導の作成並びに模擬授業を行うことにより実践的な指導力を習得させる。具体的には、①道徳の本質を踏まえ、道徳教育の在り方や課題を理解できる。②子ども心と道徳性の発達を理解し、道徳教育と道徳科の目標や主な内容を理解できる。③道徳教育の指導計画の必要性を理解し、その要となる道徳科の多様な指導方法を理解できる。④道徳科の授業の学習指導案の作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身につけることを目標とする。	
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の意義、教育課程においてはたす意義、目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方、指導と評価の考え方について、事例も交えながら概説する。具体的には、①総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。②総合的な学習の時間の指導計画の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎能力を身に付ける。③総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解することを目標とする。	
	特別活動の指導法		特別活動の性格と意義、目標と主な内容について概説するとともに、学級活動・生徒会活動・学校行事の指導案作成や模擬授業等を通して、実践的な指導方法を考察させる。具体的には、①特別活動の意義、目標と主な内容を理解できる。②「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持ち、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身につける。③学校における様々な構成の集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる特別活動の指導のあり方を考えることを目的とする。	
	教育の方法と技術		本授業は、①教育の方法：指導と学習の両視点で、教育史・思想および多様な教育実践について概観する。②教育の技術：指導計画や授業設計、ニーズに応じた様々な指導法や評価について学習する。③情報機器や教材・教具の活用：最新の情報や理論的背景、実践的事例を紹介し、理解を深める。なお、ビデオ等の視覚教材の活用、グループ・ワークなども取り入れて行う。これからの社会を担う子ども達が、様々な資質や能力を育成するために必要となる教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を学ぶことが目的である。	
	教育におけるICT活用		授業における児童・生徒および教員によるICT活用の他、端末を効果的に使った教材研究・指導の準備と授業中の指導、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。また、情報活用能力について、基礎的な理解、具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて解説する。本授業では、受講生が自らICT機器を活用し実践的かつ体験的に学修できるようにする。	
	生徒・進路指導論		生徒指導や進路指導・キャリア教育の意義・原理ならびに、それぞれの基本的な指導のあり方について、教育課程の位置づけや学校教育の活動全体の視点から組織的に理解する。生徒指導については、思春期を迎えた生徒の心と体の発達を踏まえ、個別指導と集団指導の両面から理解する。進路指導・キャリア教育については、理論的な見地からこれらの理解を進めるとともに、職業的・社会的な自立の基盤となる資質・能力を育むことができるようなキャリア教育について理解する。そのための、ガイダンスの機能を活かした進路指導・キャリア教育の実践的な方法について、ポートフォリオの活用やキャリアカウンセリングなどから考察する。	

	教育相談		カウンセリングの基礎技法、コンサルテーションの考え方と事例、児童生徒の心理アセスメント的な理解方法について臨床心理学の基礎的な理論を学び、スクールカウンセリングならびにコンサルテーションのいくつかの事例を通して具体的な教育相談の方法について講義する。一人一人の子供が学校生活で出会うさまざまな問題の解決を援助し、子供の成長を促進する心理教育的援助サービスを教育の場において行うために1)直接生徒を援助するカウンセリング、2)生徒の教師や保護者や学校に働きかけるコンサルテーション、3)心理アセスメントの3点について、臨床心理学の基礎の上に理論を学び具体的な教育相談の方法について理解するように講義する。	
	教育実習事前事後指導		中学校・高等学校での教育実習中に想定される具体的場面・問題を、これまでに習得した教科及び教職に関する専門的知識・技能を自己の内で総合し、具体的行動を通して解決することができる力量を養うために、提起された課題に対する意見の表明と討議を中心とする積極的な参加型の授業を行う。また学生が抱いている教育実習に関する不安点・疑問点の解消を図る。各教育現場で3週間の教育実習を行い、教員としての実体験をするための準備ができる。実習終了後に体験報告会を行い、教育実習の総括と今後の課題を明らかにすることで、好ましい教師像を模索することができる。	
	教育実習		中学校または高等学校における教育実習計画に基づいて、3週間の実習を実施できるようにする。教育実習の過程でありかつ形態である観察・参加・授業実習を通して、生徒理解を深めるとともに学習（生徒）指導能力を身につけられるようにする。また、教職全般について実践的理解を深めるとともに教職への適性を自己検証をすることを目的とする。職業人としての専門性に基づいて、生徒の実態を多面的に理解し、自ら学習（生徒）指導計画を立て、実践することができるようにする。	
	教職実践演習 （中・高）		これまで学習してきた教職・教科に関する専門知識や方法・技術を振り返り、教師として必要不可欠な資質・能力について考え、教育についての洞察を深めることを目的とする。具体的には、①教職課程で学んだ専門知識や技術・方法を、本学所定の「教職履修カルテ」や教育実習をとおして振り返り、教師として必要な資質・能力について深く考えられるようにする。②教育現場からの知見を得て、教育とは何か、教師の役割とは何かについての洞察を深められるようにする。	
	介護等体験		本授業は、中学校教諭免許状授与を希望する学生を対象に、将来教育現場に立った時、高齢者や障害者に対する介護等の体験を自ら原体験として、その体験を教育現場に生かすといった介護等体験を特別支援学校と社会福祉施設において体験的に学ぶ。介護等体験の趣旨を理解し、個人の尊厳や社会連帯の認識をもち、体験を通して人の心の痛みを理解したり、各人の価値観の相違を認められたりすることができるようにする。そのために事前指導ではインクルーシブ教育・特別支援教育・社会福祉についての基本的事項を習得する。学生が主体的に体験に参加できる準備として、グループワークや発表等の対話的・主体的学習活動を行う。事後指導では、体験の成果と課題を明らかにする振り返りを行う。	
	教職セミナー		これまで教職課程で学んできた基礎的な学習を基盤として、教育現場の教師や教職課程を履修している上級学生の話をもとにしたディスカッション、学校現場の準備・見学・発表、協同して課題にあたるグループワーク等に取り組みながら、教師に必要な知識・技能、判断力・思考力・表現力を身に付けると共に、学びに向かう力・人間性を高める。教育現場や教職課程の学習に益々興味を持って、意欲的に取り組むことができる。教職課程の学習を複眼的かつ総合的に理解し、実践的な学習を通して主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。併せて、学校見学を機として、今後の教職課程の学習ならびに学校ボランティアやちば！たまごプロジェクト等へ主体的に参加できる道筋をつけるられることを目指す。	
	学校経営と学校図書館		司書教諭課程の総論的科目として、学校という場における学校図書館の理念と現実を概説する。 授業の概要は、学校経営の観点から、学校図書館の全般にわたる基礎的な事項を幅広く取り上げ、学校図書館の役割と機能に関する基本的な知識を説明する。 学習到達目標は、学校図書館に関する基礎的な事項を説明できること、学校図書館における経営の実践を理解できること及び学校図書館に対する認識を深め豊かなイメージを喚起できることを目指す。	

司書教諭に関連する科目	学校図書館メディアの構成		学校図書館が扱うメディアについて、学校現場に即したコレクションの構築と組織化（目録と分類）の基本的な知識と技術を解説する。 授業の概要は、学校図書館が構築するメディアについて、教育的な観点から種類と特性を概説し、実務の流れに沿った選択、収集、配置、保存のプロセスを具体的に説明する。また、メディアの組織化については、わが国の基本ツールである日本目録規則（NCR）、日本十進分類法（NDC）、基本件名標目表（BSH）の原則を解説し、児童書やヤングアダルト図書を対象に標準的な適用を演習する。 学習到達目標は、学校図書館メディアの種類と特性を説明できること、学校図書館メディアの構築プロセスを理解できること、学校図書館メディアの初歩的な目録を作成できること及び学校図書館メディアの初歩的な分類を付与できることを目指す。	
	学習指導と学校図書館		児童生徒の様々な学習活動において、学校図書館メディアを用いた指導を行うための基本的な考え方、実際のな方法を講じる。 授業の概要は、児童生徒の学習活動と学校図書館メディアとの関係、学習指導の場で活用される学校図書館メディアの特性、情報活用能力を育成するための各種指導について解説し、児童生徒と教職員を支援する学校図書館の情報サービスにも触れさせる。 学習到達目標は、学校図書館メディアをその特性に応じて活用でき、学校図書館メディアを活用した学習指導の実際を説明できること及び学校図書館での情報サービスの概要を理解できることを目指す。	
	読書と豊かな人間性		児童・生徒の発達段階に応じた読書について解説し、司書教諭・学校司書として読書教育のあり方を考えて行く。本についての知識、子どもと本をつなぐ具体的な方法が身につくよう進める。 授業の概要は、読書の意義を理解するとともに、児童・生徒の豊かな人間性を育むための司書教諭の役割を考える。児童・生徒、それぞれの発達段階に応じた適切な読書指導を学び、具体的な方法を身につける。特に学校司書を念頭に講義を進める。一人一人が本に関する知識を広げ読書についての理解と認識を深めるためにレポート提出や発表も頻繁に課して行くこととする。 学習到達目標は、読書教育のあり方について学び考え、児童・生徒の読書能力の発達に応じた指導法を身につけ、司書教諭・学校司書の役割を学び、読書資料についての知識を深めることを目指す。	
	情報メディアの活用		児童生徒の情報活用能力を育て、学校図書館の情報化を推進していくために、インターネットの活用法、学校内の情報通信技術、ネット社会との向き合い方について、司書教諭に必要とされる基礎的な知識を解説する。 授業の概要は、情報活用能力、情報メディア、情報通信技術の基礎的な理解を踏まえ、サーチエンジンや書誌データベースによる情報検索、ウェブページの評価、学校内のICT化や図書館管理システムの動向、高度情報通信社会で必要とされる情報倫理や著作権について、パソコンでの実習を交えて説明する。 学習到達目標は、サーチエンジンやデータベースで効果的効率的に情報を検索でき、ウェブページを適切に評価し活用できることと、学校内のICT化や図書館管理システムの現状を説明できること及び情報倫理や著作権の基礎を児童生徒に指導できることを目指す。	
	図書館情報技術論		図書館における情報技術の基礎を習得し、情報資源活用の可能性を考える。 授業の概要は、図書館サービスのために必要な情報技術について概観する。コンピュータとコンピュータネットワークの基礎的な知識を踏まえ、図書館情報システム、OPAC、インターネットを利用した情報発信の実際、電子図書館と電子出版、ネットワーク上の情報をはじめとするデジタル情報資源の動向を取り上げ、図書館における情報技術の現状から、将来の情報技術のあり方を展望する。 学習到達目標は、コンピュータとコンピュータネットワークの基礎を習得し説明ができ、情報化社会における図書館の役割と必要な情報技術を理解できること及び最新の情報技術に興味を示し積極的に向き合う態度がとれることを目指す。	
	図書館情報資源概論		図書館の最も重要な構成要素である情報資源について、種類と特性、生産と流通の仕組み、図書館での構築プロセスを概説する。 授業の概要は、図書館サービスに不可欠な印刷資料、非印刷資料、電子資料それぞれの概要と特徴、わが国の出版と出版流通の制度と現状、図書館における情報資源構築の意義と各プロセスについて、図書館の実態に即して解説する。 学習到達目標は、図書館情報資源の種類と特性を説明でき、わが国の出版と出版流通の仕組みを理解できること及び図書館情報資源の構築プロセスを理解できることを目指す。	
	情報資源組織論		図書館の情報資源を組織化するための記述目録法（目録法）と主題目録法（分類法、件名法）について、基礎的な理論と原則を概説する。 授業の概要は、情報資源の組織化と書誌コントロールの必要性を明示し、書誌記述としての目録法、主題組織としての分類法と件名法について、理論的な概要と基本的な原則を解説し、さらにMARCやメタデータなど書誌情報の取り扱いを説明する。 学習到達目標は、組織化と書誌コントロールの意義を説明でき、書誌記述と主題組織の基本的な原則を理解できること及び書誌情報の作成、流通、提供の現状を説明できることを目指す。	

学校司書に関連する科目	情報資源組織演習 A		情報資源の組織化のなかから記述目録法について、日本目録規則 (NCR) による書誌記述作成の演習を行う。 授業の概要は、『日本目録規則 1987年版改訂3版』に基づき、解説と演習とによって、図書の書誌記述の標準的な作成スキルを身につける。さらに、逐次刊行物や視聴覚資料の書誌記述の特徴、書誌階層やメタデータの考え方についても説明する。受講者には演習問題の解答とその説明を輪番で毎回求める。 学習到達目標は、図書の書誌記述を的確に作成でき、逐次刊行物と視聴覚資料の書誌記述の特徴を説明できること及び書誌階層やメタデータの考え方を理解できることを目指す。	
	情報資源組織演習 B		情報資源の組織化のなかから主題目録法について、分類法は日本十進分類法 (NDC) による分類記号の付与、件名法は基本件名標目表 (BSH) による件名標目の付与の演習を行う。 授業の概要は、分類法は『日本十進分類法 新訂10版』に基づき、解説と演習とによって、図書の分類記号の標準的な付与のスキルを身につけ、件名法は『基本件名標目表 第4版』に基づき、解説と演習とによって、図書の件名標目の基礎的な付与の仕方を学ぶ。受講者には演習問題の解答とその説明を輪番で毎回求める。 学習到達目標は、分類法と件名法の差異を説明でき、図書の分類記号を的確に付与できること及び図書の件名標目を的確に理解できることを目指す。	
	学校図書館サービス論		児童生徒及び教員への学校図書館サービスについて、学校の教育課程を支え、児童生徒の読書活動を推進していくための基本的な考え方、多岐にわたる各種サービス活動の理解を図るものとする。 学校図書館サービスの考え方と構造、学校図書館の運営（年間計画、マニュアル、記録・統計、会計、文書管理）、学校図書館の環境整備（排架と案内表示、展示や掲示、修理や廃棄）、学校図書館のガイダンス、資料・情報の提供（利用案内、貸出、予約、資料紹介・案内、資料相談）、児童生徒への読書支援（学校図書館行事、読書推進活動）、児童生徒への学習支援（資料を活用した教科や特別活動の学習、情報活用能力の育成に関する支援）、特別な支援を必要とする児童生徒に対する支援、教職員への支援（資料や情報の提供、教材準備に関する支援、チームティーチング）、広報活動（図書館だよりの編集、ホームページの活用）、渉外活動（学校行事との連携、公共図書館との協力）の概要を解説する。	
	情報サービス論		情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等を解説する。 授業の概要は、情報サービスの意義と理論を明らかにし、今日の多様な情報サービスの諸相を、デジタル媒体のみならずレファレンス資料の出版と流通からも解説する。また、情報提供の仕組みや情報サービスにおけるレファレンスコレクションの構築についてもふれ、高度情報化社会における図書館の情報サービスについての理解を深められるように事例をあげて説明する。 なお、学校図書館との連携を図る観点から、学校図書館での情報サービスの意義、児童生徒及び教職員からの相談・質問への対応、情報サービスの提供による探究的な学習の支援にも触れる。 学習到達目標は、基本的な図書館の情報サービスの利用方法を知り、課題の解決に至るプロセスの全体を把握することにより、高度情報化社会における図書館情報サービスへの理解を深めることができることを目指す。	
	情報サービス演習 A		情報サービスの意義や各種の情報検索の方法を学ぶ。そのため情報検索の演習を行い、実践的な情報検索能力の育成をはかる。 授業の概要は、利用者の多様な情報ニーズにこたえるために、情報サービスの検索や利用者の求める情報の調べ方について解説し、情報検索の方法を演習によって学ぶ。情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を行う。 学習到達目標は、基本的な資料の利用方法を知り、情報検索の演習を通して、実践的な能力を養成ことを目指す。	
	情報サービス演習 B		利用者に適切な情報を提供できるよう多様な情報源を評価し、適切な情報の提供について学び、情報サービスの実践的な能力を養成する。 授業の概要は、レファレンスサービスに用いられるレファレンスコレクションの構築とその内容について解説する。さらに、レファレンスプロセスの諸相を解説と演習によって学ぶ。また、情報発信サービスをデジタルパスファインダー作成と発表によって学び、利用者に働きかける情報サービスへの理解を深める。 学習到達目標は、レファレンスサービス演習や発信型情報サービス演習を通して、情報提供サービスを行い、図書館利用者の学習を支援できる力をつけることを目指す。	
	学校教育概論		学校司書に求められる学校教育に関する基礎的な知識について、教育学と心理学の視点から、現代の学校教育や児童生徒に対する基本的事項の理解を図るものとする。 学校と児童生徒の多様な現状を踏まえ、学校教育の意義と目標（学校教育の原理、学校教育の歴史）、教育行政と学校教育（教育法規、中央教育行政と地方教育行政）、教育課程の意義と学習指導要領（学習指導要領と教育課程、教育課程の類型、教育方法と学習形態）、学校教育と教科書（検定と採択、教材としての教科書）、児童生徒の心身の発達及び学習の過程（発達段階、学習のレディネスと動機づけ）、特別な支援を必要とする児童生徒に対する理解（特別支援教育、インクルーシブ教育）、学校教育に関する現代的諸課題（児童生徒の不登校・いじめ・貧困、教員の過重労働と保護者への対応）など、学校教育の全般を概説する。	共同

司書に関連する科目	生涯学習概論		個々人が自分の一生を豊かなものとするための生涯を通じた自由な意思による学習であるといえる。生涯学習の基本的な考え方を紹介しながら、現在の課題を踏まえた内容の理解を促して行く。授業の資料概要は、現在、生涯学習の果たす役割に新たな期待が寄せられていることから、生涯教育・学習の機会の問題について、個人にとっての職場・地域・家庭ならびにパーソナル・ネットワークの多様性や学習意欲、格差・不平等に焦点を絞りながら、幼児期・青少年・成人期、そして女性・高齢者における学習活動のニーズとその到達可能性について考察する。 学習到達目標は、自己および他者の一生涯を通じた課題ならびにそれらの解決に向けた学習に対する理解・問題関心を養うことにより、良く生きるための自己学習のモチベーションを高めることを目指す。	
	図書館概論		司書課程の総論的科目として、図書館の全体像を原理的、社会的、歴史的に概説するとともに、多様な図書館の特性を提示し、次代の図書館のありようを論じる。 授業の概要は、図書館の本質的な役割、現代社会での意義、歴史的な展開を概観し、図書館の類型ごとの機能と現状について、基礎的な知識とこれからの新しい見方を講じる。 学習到達目標は、図書館の機能と意義、歴史の概要を説明でき、各種図書館の実態を理解できること及び図書館に対する認識を深め豊かなイメージを喚起できることを目指す。	
	図書館制度・経営論		図書館の存立を支える制度の仕組み、図書館のサービスを可能とする経営の原理について、図書館に関する法律と政策、組織としての図書館に必要な経営と管理の実態を講じる。 授業の概要は、制度面からは、図書館法をはじめとする図書館関連の法律、国と地方公共団体の政策について、法律や行政文書に基づいて解説する。経営面からは、図書館の経営資源、経営手法、管理運営について、先進的または一般的な事例に即して説明する。 学習到達目標は、図書館に関する主要な法律や政策を説明でき、図書館の基本的な経営資源と経営手法を理解できること及び図書館の管理運営の実態に関心がもてることを目指す。	
	図書館サービス概論		図書館サービスを概観し、サービスの全体像と課題、将来像について理解する。 授業概要は、図書館サービスについて、意義と理念、歴史的経緯、様々なサービスの形態の3点から、具体的事例を示し解説する。現在の図書館における理念、成り立ち、サービスの提供内容と現在の図書館が抱える課題を理解した上で、将来に向けた図書館サービスの展開と可能性について言及する。 学習到達目標は、図書館サービスの理念、サービスの変遷等の基礎知識を理解し、説明でき、図書館におけるサービスの種類と提供の意義を理解すること及び図書館サービスの将来像を考えることができることを目指す。	
	児童サービス論		児童サービスとは何か、公共図書館における児童サービスのあり方を解説し考える。 授業の概要は、多様な情報化社会の中で成長する現代の子どもたちにとって、公共図書館はいろいろな本と出会う大切な場である。前半は児童サービスに必要な知識・技術についての講義。後半は子どもの本への理解を深め、本の帯やおはなし会プログラム作成などの実践も取り入れていく。毎回授業の中で紹介した絵本の感想を求める。レポート提出も頻繁に課して行く。 学習到達目標は、児童サービス論の理論と実践を学び、子どもを知る、子どもの本を知る、子どもと本をつなぐ方法を学ぶ、この三つを柱に児童サービスに関わる司書の役割、業務を理解し、技術を身につけることを目指す。	
	図書館総合演習		図書館界の現状調査、図書館業務の体験、図書館施設の見学、図書館行事の実習を通して、既習知識の総合化を図り、進路準備の契機とする。 授業の概要は、司書採用の現状を幅広く調査して、具体的な対策を指導するとともに、学内施設での図書館業務体験、先進的な学外施設の見学、ブックトークとビブリオバトルの実習によって、これまでの学習内容の確認と統合を図る。 学習到達目標は、図書館界の現状を調べ進路に対する準備がとれ、図書館での業務体験と見学で図書館員となる動機を強化すること及び図書館行事を実行できる企画力と表現力を身につけることを目指す。	
	博物館概論		博物館（資料館・科学館・文学館・工芸館・美術館・動植物園・水族館等を含む）とその活動の理解を深め、生涯学習社会のなかで博物館を有効に活用できる学芸員について解説する。 授業の概要は、博物館では生涯学習基盤の整備が求められ、教育的役割が重視されてきている。今日の博物館は社会への定着がすすんでいるが、その姿は大きく変化しつつある。この講義では、博物館の歴史的変遷と社会的役割や機能を知り、現代の博物館の実態と抱えているさまざまな問題、今後の方向性、そして博物館の専門職である学芸員について理解を深める。 学習到達目標は、博物館活動の機能と役割を理解し、人々の多様な学習ニーズを把握し、学習活動を効果的に援助する資質を身につけ、有能な社会教育指導者として活躍できる学芸員の基礎的知識を修得することを目指す。	
	博物館経営論		博物館の組織形態と活動に関する適切な運営のあり方について、博物館経営に関する具体的な事例をもとに解説して検討していく。 授業の概要は、「社会を支え、社会に支えられる博物館」を成り立たせるために、どのような博物館経営が必要となるのかを考えていく。授業展開は、前回の振り返り、レクチャー、事前の課題をもとにした、グループワークまたはディスカッション、さらに振り返りを中心に進めていく。 学習到達目標は、博物館経営を支える基盤（制度）を理解し、博物館が持つ社会的役割と課題について理論と実践の両面から考えることができることを目指す。	

博物館学芸員に関連する科目	博物館情報・メディア論		博物館における情報の意義と活用方法および情報発信の課題等について説明し、博物館における情報の提供と活用に関する基礎的能力を養う。 授業の概要は、われわれは博物館において情報をどのように得ているだろうか。また博物館はわれわれにどのような情報を、いかなるかたちで発信しているのだろうか。本授業では博物館を「情報」および「メディア」という観点から捉え、現代社会における博物館をより多面的に理解しようとする。 学習到達目標は、博物館における「情報」について説明でき、博物館における情報発信の手法を説明できること及び現代博物館への認識を深め、その適切な理解のもと活用できることを目指す。	
	博物館資料論		博物館学芸員として必要な博物館資料に関する知識を理解すること。 授業の概要は、博物館資料の分類、収集、保存・管理、活用の仕方などについて、その意義や方法、重要性について解説する。授業中に小レポートの提出を求める。 学習到達目標は、博物館学芸員として必要な博物館資料の基礎的知識を習得することを授業の目標とする。	
	博物館展示論		博物館の展示は、博物館の第一の個性であり、来館者と直接触れ合う最前線のことであることを前提に、その今日的意義とコミュニケーションとしての展示について多面から解説する。 授業の概要は、展示の歴史・諸形態・手法・注意点、展示による教育活動を学び、展示の理論と方法を理解した上で、展示製作の知識・技術を習得できるよう講義する。また様々な展示解説の手段を知ることにより、展示解説者としての素養を身に付け、展示を通じた教育活動にも携われるよう指導する。 学習到達目標は、展示の意義を理解し、学芸員として必要な博物館の展示機能に関する基礎的能力を養い、実際に展示製作に携われる知識・技術を習得することを目指す。	
	博物館教育論		博物館にとって教育とは何か。活動の基となる理論とさまざまな実践例を通して、生涯学習社会の学びの場としての博物館の活動について理解を深める。 授業の概要は、「博物館における学びの意味」「博物館教育の具体的方法」「学芸員の教育的役割」を中心に博物館教育の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を修得する。各地の博物館における事例を通じて、博物館ならではの学びやその成果について学習し、ディスカッションや実践を通して博物館や学芸員の教育的役割を理解する。 学習到達目標は、博物館における教育の位置づけを理解し、諸活動と教育の関係が説明でき、生涯学習社会の博物館活動について具体的に考えることができることを目指す。	
	博物館資料保存論		博物館資料の保存について、基本的な知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養成する。 授業の概要は、博物館における資料保存の意義を理解した上で、資料の保全、状態調査、梱包・輸送、修復に関わる基礎知識を習得する。また、資料の保存環境や保存方法、災害対策などの保存問題を考える。さらに、地域資源の保存と活用について理解を深める。 学習到達目標は、博物館における資料保存の意義を理解し、保存・展示環境および収蔵環境を整備して適切に維持・管理していくために必要な知識を習得する。	
	博物館実習Ⅰ		有能な社会教育指導者として人々の学習活動を効果的に援助し、有意義な企画を立案し、資料の収集や調査・研究、展示活動ができる学芸員の基礎的能力を育成する。 和洋女子大学文化資料館を会場としたテーマ展を開催することを目標に定め、各グループ内での検討、相互協力のもと企画、具体的準備を進める。それに平行して、企画の周知方法の検討とその実施、ミュージアムグッズの製品化をめざす。 学習到達目標は、①自己の意見を明確に主張して、全体での議論を重ねて相互協力のもと企画展を立案する。②博物館学芸員として活躍できる協調性と実践力を培うことを目指すことの2点を設定する。	
	博物館実習Ⅱ (館務実習)		博物館学芸員として必要な実務実習を行う(180分授業)。考古・古文書・民俗などの実物資料の取扱い、保存方法、資料の梱包技術や展示運営などにおける基礎的知識を解説し、指導する。 学習到達目標は、①博物館の現場で必要とされる実務を理解する。②博物館資料に対する理解を深め、学芸員としての心構えや態度、知識・技術を身に付けることの2点を設定する。 (オムニバス方式／全30回) (23 加藤 紫識・53 井口 崇・74 滝口 正哉／6回)(共同) (第1・2回) ガイダンス (第3～6回) 博物館施設への見学 (23 加藤 紫識／24回 8回×3グループ) (第7～30回) クラスA(第 7～14回) クラスB(第15～22回) クラスC(第23～30回) 民俗資料の取扱い、拓本実技、展示機器の使い方、ミュージアムグッズの作成 (53 井口 崇／24回 8回×3グループ) (第7～30回) クラスA(第15～22回) クラスB(第23～30回) クラスC(第 7～14回) 考古資料の取扱い、写真撮影指導、接合・石膏入れ指導、繊維資料の取扱い (74 滝口 正哉／24回 8回×3グループ) (第7～30回) クラスA(第23～30回) クラスB(第 7～14回) クラスC(第15～22回) 古文書の取扱い、和本資料の取扱いおよび調書作成、浮世絵の取扱い、掛け軸の取扱い	オムニバス方式・共同

	美術史Ⅰ		西洋絵画の見方を説明する。 授業概要は、この授業では、学生がこれまでどこかで見たことがある名画を取り上げて、西洋絵画の見方を説明する。私たちは美術作品に感性で接している。しかし、見るための知識を身につけると、作品への理解がさらに深まる。素朴な疑問から始めて、美術の具体的な疑問へと移りながら、見るポイントをつかみ、なんとなく見るのではなく、しっかり見ることを学ぶ。授業計画の内容は、理解度や関心度によって変更することがある。この授業は、後期の「美術史Ⅱ」を学ぶための準備段階となる。 学習到達目標は、西洋絵画を見るための基本的な知識を習得し、西洋絵画を代表する画家や作品を知ることを目指す。	
	美術史Ⅱ		西洋美術史を説明する。 授業の概要は、この授業では、前期の授業「美術史Ⅰ」の知識をもとに、西洋絵画の歴史を説明する。ポイントとなる画家や作品を取り上げ、西洋絵画が時代の流れのなかでどのように変化してきたのかをたどる。歴史的背景を踏まえて、それぞれの時代の美術の特徴を解説する。 授業計画の内容は、理解度や関心度によって変更することがある。 到達目標は、西洋絵画の歴史の大まかな流れを理解し、「美術史Ⅰ」で学ぶことが出来なかった西洋絵画を代表する画家や作品を知ることを目指す。	
	古代学Ⅰ		古代学とは、原始から古代に至るまでの日本の社会・思想・文化の諸相を、考古学・文献史学・日本文学・言語学などの諸学問の分野領域を境越したグローバルな視座から総合的に研究・把握しようとするものである。 古代学Ⅰでは、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代を中心に日本の政治史・文化史・社会史の諸相を概観していくことにより、古代日本の全体像を理解することを目標とする。授業では、プリントを配付し諸学問の最新の研究成果をふまえた講義を行い、パワーポイントやスライド等による多くの視覚教材を用いてわかりやすく進める。 学習を通して日本古代史に関心をもち、自ら進んで史跡や文化財の見学をおこない、主体的に歴史を学ぶ姿勢が身につくように方向付ける。	
	古代学Ⅱ		古代学とは、原始から古代に至るまでの日本の社会・思想・文化の諸相を、考古学・文献史学・日本文学・言語学などの諸学問の分野領域を境越したグローバルな視座から総合的に研究・把握しようとするものである。 古代学Ⅱでは、飛鳥時代・奈良時代・平安時代を中心に日本の政治史・文化史・社会史の諸相を概観していくことにより、古代日本の全体像を理解することを目標とする。授業では、プリントを配付し諸学問の最新の研究成果をふまえた講義を行い、パワーポイントやスライド等による多くの視覚教材を用いてわかりやすく進める。 学習を通して日本古代史に関心をもち、自ら進んで史跡や文化財の見学をおこない、主体的に歴史を学ぶ姿勢が身につくように方向付ける。	
	民俗学Ⅰ		私たちの周りには、地域や家によって受け継がれてきた多彩な文化がある。こうした、暮らしに根ざした身近な文化に焦点をあてることで、日本人が持つ価値観とその方向性について考える。 授業の概要は、民俗学の概説を行うことによって、その基礎的な知識を得るとともに、基本的な考え方を養う。先人たちがどのような生活をおくり、どのような「生きがい」を抱いてきたのかを認識し、自らのそれと照らし合わせつつ、延いては日本人の考え方や行動のあり方を見つめ直す。それが、民俗学が内省の学問とも呼ばれる所以である。 学習到達目標は、伝承文化の理解を深めることによって、取り巻く環境や社会の仕組みを捉え、時代の流れを洞察し、自らの立ち位置について再認識するとともに、他者を理解する力を養う。	
	民俗学Ⅱ		私たちの周りには、地域や家によって受け継がれてきた多彩な文化がある。こうした暮らしに根ざした身近な文化に焦点をあてることで、日本人が持つ価値観とその方向性について「民俗学Ⅰ」で学んだことをさらに深める。 授業の概要は、本授業では、民俗学的視点から現代社会を切り取る力を養う。先人たちがどのような生活をおくり、どのような「生きがい」を抱いてきたのかを認識し、自らのそれと照らし合わせつつ、延いては日本人の考え方や行動のあり方を見つめ直し、如何に現代社会と対峙していくべきかを考える。それが、民俗学が内省の学問とも呼ばれる所以である。 学習到達目標は、「民俗学Ⅰ」で学んだことを基礎に、伝承文化の理解を深めることによって、取り巻く環境や社会の仕組みを捉え、時代の流れを洞察し、自らの立ち位置について再認識するとともに、他者を理解する力を養う。	

- (注)
- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
 - 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
 - 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人和洋学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
和洋女子大学				
人文学部				
日本文学文化学科	110	0	440	
心理学科	60	0	240	
こども発達学科	70	0	280	
国際学部				
英語コミュニケーション学科	60	0	240	
国際学科	60	0	240	
家政学部				
服飾造形学科	60	0	240	
健康栄養学科	120	0	480	
家政福祉学科	110	0	440	
看護学部				
看護学科	100	0	400	
計	750	0	3000	
和洋女子大学大学院				
人文科学研究科				
英語文学専攻(M)	5	0	10	
日本文学専攻(M)	5	0	10	
総合生活研究科				
総合生活専攻(M)	8	0	16	
総合生活専攻(D)	3	0	9	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	6	0	12	
計	27	0	57	

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
和洋女子大学				
人文学部				
日本文学文化学科	<u>100</u>	0	<u>400</u>	定員変更(△10)
心理学科	<u>70</u>	0	<u>280</u>	定員変更(10)
こども発達学科	70	0	280	
国際学部				
英語コミュニケーション学科	<u>50</u>	0	<u>200</u>	定員変更(△10)
国際学科	<u>50</u>	0	<u>200</u>	定員変更(△10)
家政学部				
<u>服飾造形学科</u>	<u>0</u>	0	<u>0</u>	令和8年4月 学生募集停止
健康栄養学科	120	0	480	
<u>家政福祉学科</u>	<u>0</u>	0	<u>0</u>	令和8年4月 学生募集停止
<u>生活環境学科</u>	<u>110</u>	<u>0</u>	<u>440</u>	学科の設置 (届出)
看護学部				
看護学科	100	0	400	
AIライフデザイン学部				
<u>AIライフデザイン学科</u>	<u>80</u>	<u>0</u>	<u>320</u>	学部の設置 (届出)
計	750	0	3000	
和洋女子大学大学院				
人文科学研究科				
英語文学専攻(M)	5	0	10	
日本文学専攻(M)	5	0	10	
総合生活研究科				
総合生活専攻(M)	8	0	16	
総合生活専攻(D)	3	0	9	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	6	0	12	
計	27	0	57	